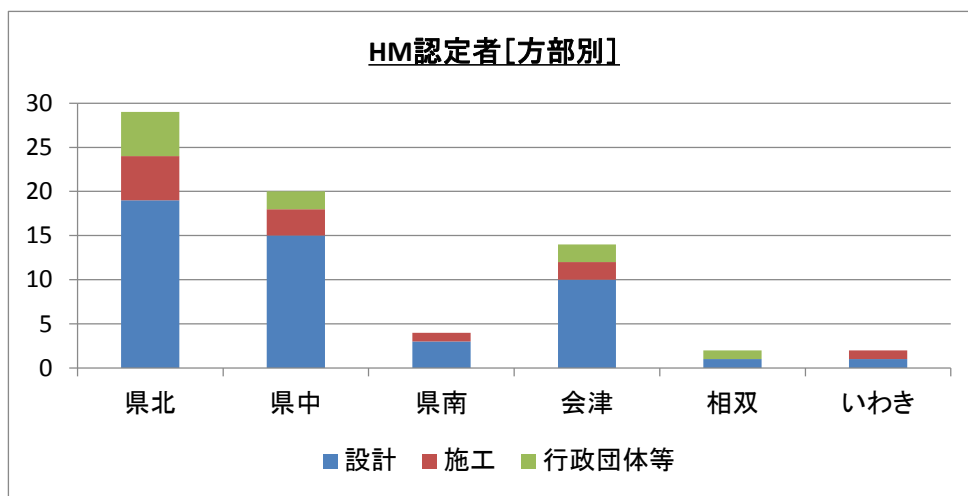
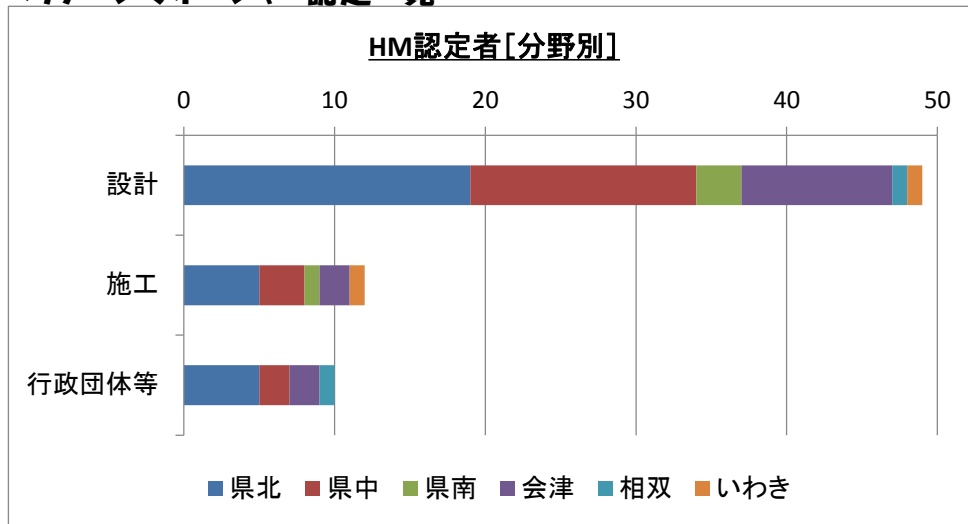


## ヘリテージマネージャー認定一覧

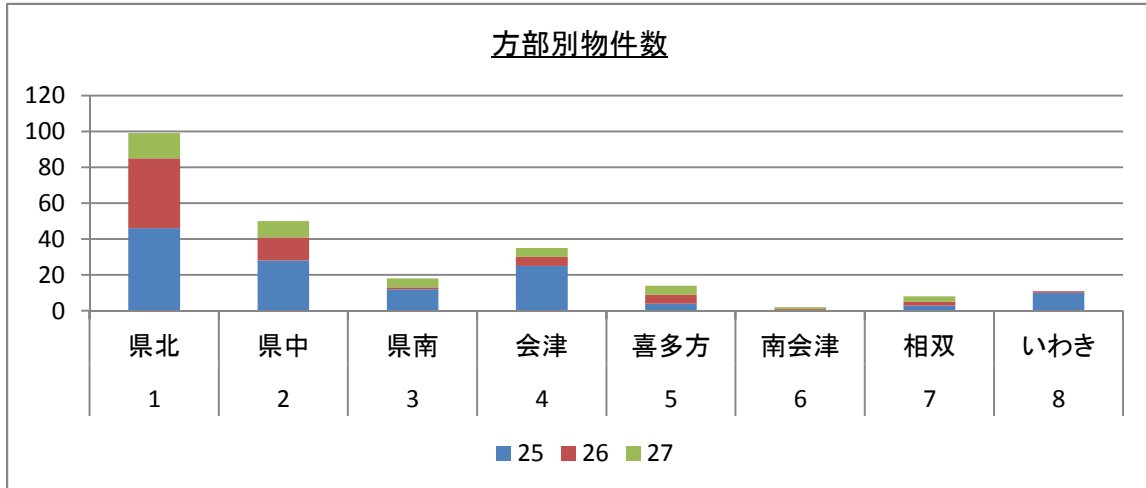
分野	方部	H25	H26	H27			合計
設計	県北	6	8	5			19
	県中	8	3	4			15
	県南	3					3
	会津	7	1	2			10
	相双	1					1
	いわき		1				1
	計	25	13	11			49
施工	県北	2	1	2			5
	県中	3					3
	県南		1				1
	会津		1	1			2
	相双						0
	いわき	1					1
	計	6	3	3			12
行政 団体等	県北	4		1			5
	県中	1		1			2
	県南						0
	会津	1	1				2
	相双	1					1
	いわき						0
	計	7	1	2			10
	合計	38	17	16			71

## ヘリテージマネージャー認定一覧



	設計	施工	行政団体等	合計
県北	19	5	5	29
県中	15	3	2	20
県南	3	1	0	4
会津	10	2	2	14
相双	1	0	1	2
いわき	1	1	0	2
合計	49	12	10	71

## ■平成25～27年度ヘリテージマネージャー地域のお宝物件集計



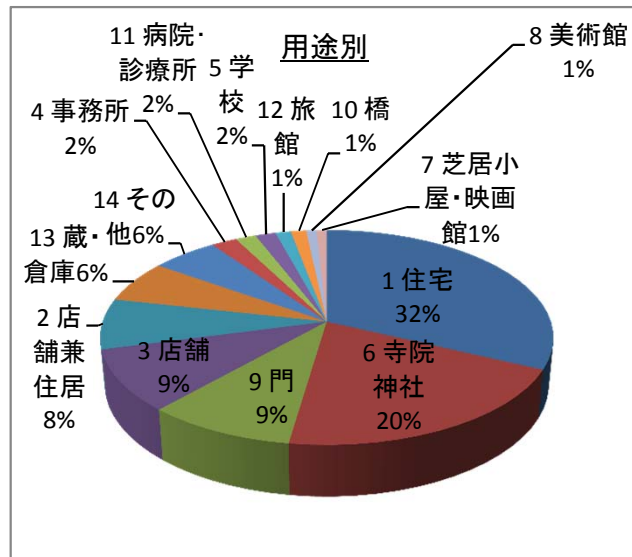
□方部別

データの個数 / 方部C 年度		25	26	27	総計
方部C	物件方部				
1	県北	46	39	14	99
2	県中	28	13	9	50
3	県南	12	1	5	18
4	会津	25	5	5	35
5	喜多方	4	5	5	14
6	南会津		1	1	2
7	相双	3	2	3	8
8	いわき	10	1	11	22
<b>総計</b>		<b>128</b>	<b>67</b>	<b>42</b>	<b>237</b>

年度 (すべて)

□用途別

データの個数 / 用途C		集計
用途C	用途	
1	住宅	76
6	寺院・神社	48
9	門	22
3	店舗	22
2	店舗兼住居	18
13	蔵・倉庫	15
14	その他	13
4	事務所	5
11	病院・診療所	4
5	学校	4
12	旅館	3
10	橋	3
8	美術館	2
7	芝居小屋・映画館	2
<b>総計</b>		<b>237</b>



## ■H25年度福島県ヘリテージマネージャー[地域のお宝物件リスト]

【方部別】

物件方部	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年(西暦)	建築年(和暦)	構造	階数	件数
県北	1-1	奥玉神社	佐倉下区氏子	福島市佐倉下字宮ノ内28-8	寺院・神社	神社	1848年	弘化4年	木造	1	1
	1-2	H家住宅(母屋)	H・T	福島市	住宅	住宅	1868年以前	明治元年以前	木造	2	1
	1-3	H家土蔵	H・T	福島市	門	内蔵	不明	不明	土蔵造り	2	1
	2-1	鯉返り観世音	大福寺	福島市大笹生字中寺5	寺院・神社	観音堂	およそ1800年ごろ		木造	1	1
	2-2	旧共楽座	T・I	福島市	芝居小屋・映画館	芝居小屋・映画館	1905年	明治38年	木造	2	1
	2-3	S家住宅	S・H	二本松市	住宅	住宅		明治初期	木造	2	1
	5-1	Y家住宅	Y・K	福島市	住宅	住宅		明治初期～大正10年	木造	2	1
	5-2	丸滝	(有)丸滝	福島市飯坂町字東滝ノ町10-2	店舗兼住居	店舗、住宅		江戸後期～明治20年	木造	2	1
	5-3	旧佐久間邸	福島市	福島市佐倉下字加藤7-6	住宅	交流体験施設	1737年	元文2年	木造	1	1
	7-1	松齢橋(しょうらいばし)	福島県(東北建設事務所管轄)	福島市渡利字舟場	橋	水道鉄橋(現山口・渡利線一般県道)	1925年	大正14年			1
	7-2	福島県教育会館	(一財)福島県教育会館	福島市上浜町10-38	事務所	集会展示場および事務所	1956年	昭和31年	RC造	2	1
	7-3	福島市立清明小学校南校舎及び全体	福島市	福島市清明町9-31	学校	小学校	1959年	昭和34年	RC造	3	1
	8-1	T家住宅	T・S	福島市	住宅	住宅	1894年	明治27年	木造	1	1
	8-2	A家住宅	A・S	福島市	住宅	住宅(養蚕農家)	不明	不明	木造	2	1
	8-3	S家住宅	S・R	福島市	住宅	住宅(養蚕農家)	不明	不明	木造	2	1
	9-1	テラー小泉 蔵	(株)小泉	福島市本町3-6	門	倉庫	1913年	大正2年	木造	2	1
	9-2	W家住宅	W・A	福島市	住宅	住宅、蔵		江戸時代(詳細不明)	木造	2	1
	9-3	りょうぜん里山がっこう	(株)タカノ	伊達市霊山町大石細倉17	学校	交流体験施設	1948年	昭和23年	木造	2	1
	10-1	S家(長屋門・土蔵)	S・K	福島市	門	長屋門・土蔵		昭和初期	土蔵造り	1	1
	10-2	板倉神社 印塚	宗教法人板倉神社	福島市杉妻町	蔵・倉庫	印塚	1982年	昭和57年	天然石		1
	11-1	(有)柳屋本店(店舗兼住居)	(有)柳屋	福島市飯坂町字横町18	店舗兼住居	店舗兼住宅	1908年ごろ	明治41年ごろ	木造	2	1
	11-2	興國禅寺(鐘楼)	興國禅寺	伊達市梁川町字大町2丁目49番地	寺院・神社	寺院	1849年	嘉永2年	木造	2	1
	15-1	荒川・霞堤	国管理	福島市	蔵・倉庫	堤防		江戸時代	野面石積み		1
	15-2	旅館二階堂	旅館二階堂	福島市桜本微温11	旅館	木賃宿として始める	1872年	明治5年	木造	3	1
	15-3	N家住宅	N・Y	福島市	住宅	住宅		明治時代	木造	2	1
	16-1	N家住宅	N・K	二本松市	住宅	専用住宅(旧田倉家迎賓館)	1925年	大正14年	木造	2	1
	16-2	菅野伝授美術館	菅野伝授美術館	二本松市西新殿字空少内77	門	美術館(蔵)	1814年	文化11年	木造	2	1
	16-3	遺墨の杜記念館・棠月庵	遺墨の杜記念館・棠月庵	二本松市杉沢字花ノ木75	住宅	資料館(旧住宅)	およそ1900年ごろ	明治時代末期	木造	2	1
	17-1	聖徳太子神社	福島稲荷神社	福島市宮町1-29	寺院・神社	神社	1962年	昭和37年	木造	1	1
	17-2	北町太鼓屋台	元倉倉屋	福島市仲間町7-15	蔵・倉庫	二階建て踊り屋台	1955年	昭和30年	木造	2	1
	17-3	瑞雲山 龍鳳寺 鐘楼堂	曹洞宗 瑞雲山 龍鳳寺	福島市腰浜町9-27	寺院・神社	鐘楼堂	1960年	昭和35年	木造	1	1
	18-1	慈徳寺	慈徳寺	福島市佐原字寺前9	寺院・神社	寺院	1821年	文政4年	木造	2	1
	18-2	福島東稜高等学校 円型校舎	学校法人東稜学園	福島市山居上3-1.12 稲頭森2-2	学校	高等学校	1963年	昭和38年	RC造	4	1
	18-3	東北電力信夫山無線中継局	東北電力	福島市御山羽山	蔵・倉庫	工作物	1958年	昭和33年			1
	20-1	菊屋羊羹本舗	菊屋	福島市中町6-30	店舗	店舗及び工場	1877年	明治10年	木造	2	1
	20-2	保原屋米店	保原屋米店	福島市豊田町2	店舗兼住居	店舗及び住宅	1927年	昭和2年	木造	2	1
	20-3	穴戸理髪店	穴戸理髪店	福島市豊田町2-35	店舗兼住居	店舗及び住宅	およそ1900年代	明治40年代	木造	1	1
	21-1	(株)檜物屋酒造店	(株)檜物屋酒造店	二本松市松岡173番地	店舗	酒造店住宅及び仕込蔵	1874年	明治7年	木造	2	1
	21-2	国田屋醸造	国田屋醸造	二本松市竹田二丁目30	店舗	店舗及び醸造倉		江戸末期	木造	2	1
	21-3	(株)御菓子処 日夏	(株)御菓子処 日夏	二本松市本町1-203	店舗	店舗		大正時代(移設)	木造	2	1
	22-1	篠葉沢稲荷神社	篠葉沢稲荷神社	福島市立子山字目細内110	寺院・神社	神社本殿	1897年	明治30年	木造	1	1

物件 方部	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	構造	階 数	件数
県北	22-2	仙台屋・木村呉服店	仙台屋6代目当主	伊達郡川俣町字瓦町14	店舗兼住居	店舗・住宅・蔵	1832年	天保3年	木造	2	1
	22-3	N家住宅	N・Y	福島市	住宅	住宅	1903年	明治36年	木造	2	1
	46-1	S家住宅(主屋)	S・K	福島市	住宅	専用住宅		明治中期	木造	2	1
	46-2	N家住宅(主屋)	T・N	福島市	住宅	専用住宅	1855年 ころ	嘉永7年 ころ	木造	1	1
	46-4	S家住宅(主屋と土蔵)	S・H	伊達市	住宅	専用住宅		江戸後期 ころ	木造	2	1
<b>県北 集計</b>											<b>46</b>
県中	23-1	創空間富や蔵	創空間富や蔵	郡山市開成二丁目481番地	門	コンサートホール、展示会等	1897年	明治30年	木造	2	1
	23-2	三英堂土蔵	三英堂	郡山市大町一丁目6番	門	倉庫		昭和初期	木造	2	1
	23-3	旧亀屋	H・T	郡山市	店舗	旧店舗	1926年	昭和元年	木造	2	1
	24-1	城山八幡神社	不明(守山藩)	郡山市田村町守山字三の丸	寺院・神社	神社	不明	不明(廃城以降設立)	木造	1	1
	24-3	若関酒造	若関酒造6代目当主	郡山市田村町谷田川字町畑113	門	酒蔵	不明	不明	木造	2	1
	26-1	三春大神宮社務所	三春大神宮	田村郡三春町馬場40	寺院・神社	社務所		江戸時代	木造	2	1
	26-2	太鼓堂	S・S	田村郡三春町中町72	蔵・倉庫	太鼓堂		江戸時代	木造	2	1
	26-3	田村大元神社社務所	田村大元神社	田村郡三春町山中23	寺院・神社	社務所		江戸時代	木造	1	1
	27-1	O家住宅	O・N	岩瀬郡天栄村	住宅	住宅(農家)		昭和初期	木造	1	1
	27-2	佐野屋	佐野屋	須賀川市東町31番地	店舗	大橋商店(現、雑貨店)		昭和初期	木造	2	1
	27-3	富商(有)	富商(有)	須賀川市諏訪町24番地	住宅	住宅(農家)		昭和初期	木造	2	1
	28-1	A家(土蔵)	A・Y	田村郡三春町	門	土蔵(民家蔵)	1875年 ころ	明治8年 ころ	木造	2	1
	28-2	香久山神社	香久山神社	郡山市小原田4-3-15	寺院・神社	神社	1869年 ころ	明治2年 ころ	木造	1	1
	28-3	西いせや	西いせや	郡山市中町7-2	店舗	質店	1896年 ころ	明治29年 ころ	木造	2	1
	28-4	S家(民家・土蔵)	S・J	郡山市	住宅	民家・土蔵	1904年 ころ	明治37年 ころ	木造	1	1
	28-5	和(なごみ)一席 成庵	アルファクラブ(株)	郡山市深沢2-1-7	店舗	日本料理店	1869年 ころ	明治2年 ころ	木造	2	1
	29-1	郡山聖ペテロ聖パウロ教会	郡山聖ペテロ聖パウロ教会	郡山市麓山2-9-23	寺院・神社	教会	1931年	昭和6年	RC造	1	1
	29-2	比内や サスケ 郡山本店	いわた園茶舗	郡山市中町7-19 いわた園ビル 別棟	門	現在：店舗(当時：蔵)	1887年 ころ	明治20年 ころ	木造	2	1
	29-3	Y家住宅	Y・S	郡山市	住宅	住宅		昭和初期	木造+ RC造	4	1
	30-1	S家住宅	S・K	郡山市	住宅	住宅		江戸時代(文久3年)以前	木造	1	1
	30-2	S家土蔵	S・K	郡山市	門	土蔵	およそ 1870年代	明治3~7年	土蔵 造り	2	1
	30-3	街こおりやま社事務所	S・K	郡山市清水台1-1-38	門	事務所	1885年	明治18年	土蔵 造り	2	1
	31-1	滝田家旧診療所兼母屋	滝田之男	岩瀬郡鏡石町仁井田22	病院・診療所	旧診療所兼住宅(母屋)	1884年 ころ	明治17年 ころ	木造	2	1
	31-2	滝田家旧診療所	滝田之男	岩瀬郡鏡石町仁井田30	病院・診療所	診療所	1926年	大正15年	木造	1	1
	31-3	東福寺本堂	東福寺	石川郡玉川村南須蓋字久保宿70	寺院・神社	お寺	1564年 ころ	永祿7年 ころ	木造	1	1
	32-1	一の屋酒店	一の屋酒店	須賀川市長沼金町66	店舗兼住居	住宅兼店舗	1932年	昭和7年	木造	2	1
	32-2	石背国造神社	石背国造神社	須賀川市長沼豊町41	寺院・神社	神社		昭和初期	木造	1	1
	32-3	H家住宅	H・Y	須賀川市	住宅	専用住宅		明治後期	木造	2	1
<b>県中 集計</b>											<b>28</b>
県南	33-1	稲荷大明神(権兵衛稲荷)	官有地 白河市九番町町内氏子	白河市九番町 内	寺院・神社	神社		嘉永年間 再建	木造	1	1
	33-2	東谷山大龍寺	法人大龍寺	西白河郡西郷村大字羽太字狸屋敷164	寺院・神社	寺院	1892年	明治25年	土蔵 造り	1	1
	33-3	八雲神社	官所有地社有財産	白河市字米山越	寺院・神社	神社	不明	勧請年代 不詳	入母屋 造り	1	1
	34-1	U家住宅	U・S	白河市	住宅	住宅	1888年	明治21年	木造	2	1
	34-2	本家富川屋染物店	富川屋	白河市新蔵町33	店舗兼住居	店舗兼住居	1833年	天保4年	木造	1	1
	34-3	月よみの庭 蔵座敷	K・U	白河市天神町10	門	蔵座敷		明治中期	土蔵 造り	2	1
	35-1	万持寺庫裡	万持寺	白河市巡り矢65	寺院・神社	庫裡		昭和9年 以前	木造	2	1
	35-2	E家住宅	E	白河市	住宅	住宅	不明	不明	木造	1	1

物件 番号	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	構造	階 数	件数
県南	35-3	S家住宅	S	白河市	住宅	住宅	不明	不明	木造	1	1
	36-1	S家造り店舗住宅	S	白河市	店舗兼住居	店舗・住宅	1887年	明治20年	土蔵 造り	2	1
	36-2	大野染物店	大野染物店	白河市新蔵町	店舗兼住居	店舗・工房・住宅		明治初期	木造	2	1
	36-3	清光寺	清光寺護寺会	白河市田島黒谷	寺院・神社	寺本堂	1768年	明和5年	木造	1	1
<b>県南 集計</b>											<b>12</b>
会津	24-2	旧喰丸小学校	昭和村	大沼郡昭和村大字喰丸字 宮ノ前1374	学校	旧小学校	1937年	昭和12年	木造	2	1
	37-1	鶴城小学校赤煉瓦塀	会津若松市	会津若松市東栄町7番地	門	小学校の塀	1921年 ころ	大正10年 ころ	組積造		1
	37-2	O家(別棟蔵)	O・K	会津若松市	門	蔵		大正後期	土蔵 造り	2	1
	37-3	K家住宅	K・Y	会津若松市	住宅	住宅		明治初期	木造	2	1
	38・ 39-1	M家住宅	M・G	会津若松市	住宅	住宅		明治時代	木造	2	1
	38・ 39-2	曹洞宗古高山福昌寺	曹洞宗古高山福昌寺	会津若松市神指町大字高 瀬字高瀬	寺院・神社	寺院	不明	不明	木造	1	1
	38・ 39-3	廣木酒造本店	廣木酒造	河沼郡会津坂下町字市中	門	酒蔵	不明	不明	木造	2	1
	38・ 39-4	B家(長屋門、堀)	B・T	会津若松市	門	長屋門、堀	1911年 ころ	明治44年 ころ	木造	2	1
	38・ 39-5	足利ギャラリー(母屋)	足利ギャラリー	会津若松市河東町広田田 中原	店舗	カフェ		享保年間	木造	1	1
	38・ 39-6	足利ギャラリー(蔵)	足利ギャラリー	会津若松市河東町広田田 中原	門	ギャラリー		天保年間	木造	1	1
	42-1	K家住宅	K・H	会津若松市	住宅	住宅	不明	不明	木造	1	1
	42-2	H家住宅	H・T	会津若松市	住宅	住宅	不明	不明	木造	2	1
	42-3	A家住宅	A・Y	会津若松市	住宅	住宅	不明	不明	木造	2	1
	43-1	五十嵐用品店	五十嵐用品店	会津若松市旭町6—6	店舗兼住居	店舗併用住宅		明治時代	木造	2	1
	43-2	鯉料理うなぎ あら池	鯉料理うなぎ あら池	会津若松市馬場町1-50	店舗兼住居	店舗(飲食店)併用 住宅		大正時代	木造	3	1
	43-3	辰泉酒造	辰泉酒造	会津若松市上町5-26	店舗	店舗(酒造・酒店)	およそ 1867以前	江戸時代	木造	2	1
	44-1	K家 牛舎	K・A	河沼郡湯川村	蔵・倉庫	牛舎	1962年	昭和37年	C B造 +木造	2	1
	44-2	摺勝亭(らんしょうてい)	佐藤歯科医院	会津若松市柳原町2丁目2	蔵・倉庫	庭園	およそ 1532年ころ	天文年間ころ			1
	45-1	I家住宅	I・Y	会津若松市	住宅	住宅	1836年	天保6年	木造	1	1
	45-2	男山酒造店と土蔵の並び	合資会社男山酒造店	大沼郡会津美里町大字旭 杉原乙94	店舗兼住居	店舗(酒造)併用住 宅	およそ 1880年代	明治初期	木造	2	1
45-3	K家住宅	K・M	会津若松市	住宅	住宅	およそ 1920年代	昭和初期	木造	2	1	
46-3	可月亭庭園と離れ	K・H	会津若松市材木町2丁目5 -7	住宅	専用住宅		昭和初期	木造	1	1	
47-1	大谷川橋梁	JR東日本	大沼郡三島町大字宮下	橋	橋梁	1939年	昭和14年			1	
47-2	JR会津宮下駅	JR東日本	大沼郡三島町大字宮下	蔵・倉庫	駅舎	1941年	昭和16年	木造	1	1	
47-3	山一商店・K家住宅	K・T	大沼郡三島町	住宅	住宅(商家)	1942年	昭和17年	木造	2	1	
<b>会津 集計</b>											<b>25</b>
喜多方	40-1	金田洋品店(蔵)	金田洋品店	喜多方市宇一丁目4638	店舗	店舗	1912年	明治45年	煉瓦 組積造	2	1
	40-2	JA会津いいで喜多方駅 前石倉	JA会津いいで	喜多方市宇町田下8243- 2	門	倉庫	1924年	大正13年	組石造	1	1
	40-3	K家住宅	K・F	喜多方市	住宅	住宅		昭和初期	木造	2	1
	44-3	N家住宅	N・D	耶麻郡西会津町	住宅	住宅		昭和初期	木造	2	1
<b>喜多方 集計</b>											<b>4</b>
相双	48-1	H家住宅	H・M	双葉郡富岡町	住宅	専用住宅		明治時代 ころ	木造	2	1
	48-2	大原本店旧店舗	O・H	双葉郡富岡町	店舗兼住居	店舗併用住宅		昭和前期 ころ	木造+木骨 煉瓦造	2	1
	48-3	中央商店街煉瓦蔵	(空白)	双葉郡富岡町中央商店街	門	蔵		明治~昭和 初期ころ	木骨 煉瓦造	2	1
<b>相双 集計</b>											<b>3</b>
いわき	14-1	酢屋	Y・E	いわき市	住宅	母屋	1926年	昭和元年	木造	1	1
	14-2	酢屋商店	N・T	いわき市	住宅	網元の住宅	1937年	昭和12年	木造	2	1
	14-3	K家住宅	K・K	いわき市	住宅	母屋	およそ 1700年代	享保年間?	木造	1	1
	25-1	吉五郎 屋号は當上(トウカミ)	N・S	いわき市	住宅	住宅(元船主、元水 産加工業)	1930年	昭和5年	木造	2	1

物件 方部	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	構造	階 数	件数	
いわき	25-2	S家住宅	S・K	いわき市	住宅	住宅(元船主)		昭和初期	木造	2	1	
	25-3	S家住宅	S家親族	いわき市	住宅	専用住宅		大正後期	木造	1	1	
	49-1	豊間 浄心寺山門	浄心寺	いわき市平豊間字寺前11	寺院・神社	寺院 山門		江戸時代 以前	木造		1	
	49-2	W家(表門)	W・M	いわき市	寺院・神社	門		江戸末期	木造		1	
	49-3	四倉 恵日寺山門	薬王寺兼務	いわき市四倉町玉山字牧 ノ下53	寺院・神社	寺院 門		江戸初期	木造		1	
	49-4	Y家(門)	Y・M	いわき市	門	門		江戸後期	木造		1	
<b>いわき 集計</b>											<b>10</b>	<b>128</b>

H25年度へリテージマネージャー  
【地域のお宝発見】

福島県歴史的建造物保全活用促進協議会



[演習01-1]地域のお宝発見		記入者氏名	1 阿部良樹
①名称	奥玉神社	④用途	神社
②所有者	佐倉下区氏子	⑤建築年代	1848年(弘化4年)
③所在地	福島市佐倉下字宮ノ内28-8		
⑥構造形式 木造平屋建て、屋根流れ造り、当時茅葺きで現在銅板本葺き(昭和10年と平成20年風害で葺き替え) 外壁は板張り彫刻で飾られている。 基礎部の亀甲型石積みは昭和4年に施工され今回の東日本大震災にも目地割れや沈下・ずれも無く立派で綺麗な石積みである。			
⑦特徴 本殿は1848年(弘化4年)建立したとされている。 天保11年に村の若者連が中心となって再建の工を起し、資金の調達や近隣の村々から大ケヤキ集めや夜を徹して奉仕活動を重ね足掛け8年の歳月を掛け、近郊に見られない華麗な彫刻と尊厳を誇る「奥玉神社」が完成した。当初の本殿は茅葺きで外廊や脇障子が無く基礎部の石積みも無かったが地区の氏子崇敬の信仰心から徐々に改修工事を行い現在の形に至っている。 平成20年3月の強風で杉の木が倒れ本殿の棟を直撃し損傷を受け小屋組みと屋根の改修を行った。			

(写真・略図など)



[演習01-2]地域のお宝発見		記入者氏名	1 阿部良樹
①名称	瓶子長一邸母屋	④用途	住宅
②所有者	瓶子長一	⑤建築年代	1868年(明治元年以前)
③所在地	福島市森合字台7		
⑥構造形式 木造2階建て、屋根は東側切り妻で西側入母屋造りの鉄板葺き、中央に越し屋根を設ける。外壁は真壁で柱や貫きを意匠的に現した漆喰壁仕上である。			
⑦特徴 県立美術館前のストリートに面し白壁塀と土蔵に囲まれた大きな屋敷で景観上優れているとのことで昭和62年に建築文化賞特別賞を頂いている。 登記簿謄本によると明治元年と記載されているので江戸時代からの建物と思われる。 西寄りに土間や水廻りを配置し、東方向に連れて上座敷を配置した一般の住居と反対の間取りになっている。座敷の2階部分の周囲は回廊となっていて養蚕時は座敷の上に床板を張り上族室として使用していたと思われる。 代々庄屋だったと聞いているが間口26.26m×奥行14.40mの大型民家である。			

(写真・略図など)



[演習01-3]地域のお宝発見

記入者氏名	1 阿部良樹
①名称	瓶子長一邸土蔵
④用途	内蔵
②所有者	瓶子長一
⑤建築年代	
③所在地	福島市森合字台7

⑥構造形式  
土蔵造り2階建て 屋根長尺鉄板瓦葺き 1階外壁煉瓦積み 2階外壁しっくい塗り

⑦特徴  
庄屋（農家住宅）であった母屋を中心に10棟もの建物が周囲にあり屋敷を形成しています。  
この内蔵は間口5間×奥行2.5間の土蔵で母屋の裏方に有り渡り廊下で繋がれ使用されているが東日本大震災で壁の煉瓦や土壁・扉廻りに亀裂が入り大きな損傷を受けました。震災後、取り壊された土蔵もありましたが何とか補修や補強をして残してやりたい建物群の一つです。

(写真・略図など)



[演習02-1]地域のお宝発見

記入者氏名	2遠藤悦子
①名称	鯉返り観世音
④用途	観音堂
②所有者	大福寺
⑤建築年代	1800年頃(築200数年)
③所在地	福島市大笹生字中寺5

⑥構造形式  
木造 茅葺屋根（三面妻入り入母屋造り） 権現造り

⑦特徴  
何と言ってもこの屋根に瞬時に魅せられた。一目惚れである。まるで何者かが天から舞い降りたばかりの子は、入母屋と唐破風式屋根が茅葺きで造られている事に拠ると思う。拝殿に近づくと、茅の美しい切り口の先に見事な彫刻群が連なる。奈良時代頃から続くという、寺の歴史と人々のこのお堂に対する只ならぬ熱気と愛情を感じる。  
ご住職のお話では、拝殿と奥の院、それをつなぐ御籠り堂からなる権現造り式は、お寺の建物として大層珍しいとの事。内部は絵塗りの格天井、壁には地元講の明治時14年の西国巡礼の記念絵馬が掛かり色彩豊か。東西の板壁は現在固定されているが、かつては取り外し自由で、舞台のにも使っていたらしい。御籠り堂では庚申塚の行事(男子禁制)が今も檀家さんたちによって続く。  
お寺は1250年前、八反田川の水面の修行道場に始まり、800年前に一度目の、550年前に現在の地に2度目の移転、フルーツライン開通による境内の縮小等の出来事の度、代々の檀家さんと御住職らの熱意で乗り越え今に伝わる。茅葺屋根の葺き替え修理を担っている地元の職人さんが80歳超になるので、今後の維持修繕等が課題とおっしゃる。

(写真・略図など)



[演習02-2]地域のお宝発見		記入者氏名	2遠藤悦子
①名称	旧共楽座	④用途	芝居小屋・映画館
②所有者	高橋伊津子	⑤建築年代	1905(明治38)年
③所在地	福島市飯野町		
⑥構造形式 木造2階建 屋根：切妻銅板葺き 外壁：モルタル塗り(ファサード)、土壁、土間			
⑦特徴 共楽座は、明治38年旅芸人一座の常設劇場として、地元住民5人が出資して開設した、とある。絹織物産業で沸く地元の働く人々の楽しみとして造られ、近隣も含めた多くの町民に親しまれていた。テレビの普及による映画の衰退で昭和43年に閉じるまで芝居小屋、映画館として、地元唯一の娯楽施設、男女のコミュニケーションの場、文化発信の場として賑わった。 2009年に約40年ぶりに、地元商工会青年部の方たちの熱心な町おこし活動による、館内の清掃、手入れ等の後、一般公開のイベントが催され再び注目を浴び、再興を望む声は今も絶えない。現在も映写室、木製の客席(6連*9~10列*3の174席)、屋号入りの緞帳、2階桟敷などが当時のまま残されており、タイムトンネルに入ったような空間を湛えている稀有な建物である。現在の持ち主の方始め、今後の保存・活用、地元で活かされる道をと模索されている建物である。			

(写真・略図など)



[演習02-3]地域のお宝発見		記入者氏名	2遠藤悦子
①名称	菅野(すげの)邸	④用途	住宅
②所有者	菅野 弘	⑤建築年代	明治初期
③所在地	二本松市竹田		
⑥構造形式 木造 2階建て 切妻屋根 銅板葺き 一部瓦葺き 間口5間 奥行き26間 商家町屋			
⑦特徴 戊辰戦争直後に建設されたと御聞きする。家具屋、造り酒蔵、商店等が並ぶ竹田・根崎通りに面して建つ町屋型の旧商家住宅。通りに面した店部分(吹き抜け空間)、中程に2層の住居部分、奥に土蔵等を擁す。中2階の部屋からは店全体が見渡せるなど興味深い作りになっている。通りは日本三大提灯祭りの一つ、二本松提灯祭りでも賑わう所で、地域住民の方々の街並みへの意識も高く、家々の季節ごとの飾りが通りを彩っている。 建物は、平成になって行われた道路拡張工事の折取り壊しの危機を迎えたが、御当主親子が、築100数十年の建物を遺し住まうこと決められ、写真に見える行まいで現在に至る。切り残した部分に新たに土間続きの玄関が設けてあり、祭り時には格子を挟んで、内からは提灯飾りの太鼓台の賑わいが、外からは中の祝宴の明かりが通りにこぼれ、昔からつづく行事の雰囲気を出している。			

(写真・略図など)



## [演習05-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	5 菊地 進
①名称	山田家住宅	④用途	住宅
②所有者	山田幸一	⑤建築年代	明治初期～大正10年
③所在地	福島市瀬上町字荒町3		

## ⑥構造形式

木造2階建て、明治建築部：入母屋瓦葺き、大正建築部：切妻瓦葺き  
外壁：土壁下地漆喰塗り

## ⑦特徴

瀬上の商店街中心部の交差点に位置している。西側は南北に通る昔の奥州街道（現在は県道）に面していて、交差点角には以前下駄屋が有り、商売をやめた後も2階建ての建物が残っていたが、震災により取り壊されたため、街道から全景が見えるようになった。

西側の街道側部分は明治初期に建てられ入母屋造りになっていて、大正期に肥料屋を営んでいたことが古い看板が残っていて確認できた。東側は大正10年頃に増築され養蚕をやっていたとのことである。

街道に沿った町屋の特徴で、細長い短冊形の敷地は西側街道から東側の裏通りまで抜けているが、交差点に有るため、南面全体が見渡せ、奥には石蔵も有り景観上重要な建物であるが、西側正面の一部（赤い屋根の部分）が防火サイディングで増築され全体の雰囲気合っていないのが残念である。

(写真・略図など)



## [演習05-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	5 菊地 進
①名称	丸滝	④用途	店舗、住宅
②所有者	(有)丸滝、堀切三郎	⑤建築年代	江戸後期～明治20年
③所在地	福島市飯坂町字東滝ノ町10-2		

## ⑥構造形式

●母屋：木造2階瓦葺き、土壁下地漆喰塗り（243m<sup>2</sup>、江戸時代後期）●製造小屋土蔵：木造平屋、瓦葺（90m<sup>2</sup>、明治20年頃）●味噌醤油倉土蔵：木造平屋、瓦葺き（119m<sup>2</sup>、明治20年頃）●倉庫：木造平屋、瓦葺き、土壁下地漆喰塗り（67m<sup>2</sup>、明治20年頃）●文庫蔵：木造2階、瓦葺き、土壁下地漆喰塗り（江戸時代後期）●西側土蔵：木造2階、瓦葺き、土壁下地モルタル塗り（32m<sup>2</sup>、明治20年頃）

●西側門：木造平屋、瓦葺き（明治20年頃）●井戸小屋2棟

## ⑦特徴

飯坂温泉商店街の中心部に位置し、旧堀切邸の北側に隣接している。  
南丸滝は明治22年創業以来、伝統的な天然醸造法により味噌・醤油を製造していて、近年は発酵技術を活かして健康と美容をコンセプトにした商品を開発し店頭販売している。又、土日には店内で味噌田楽の食事を楽しむ。（丸滝ホームページより）

敷地は約2,000m<sup>2</sup>あり南側板塀の奥は「旧堀切邸」である。

建物は母屋（住宅、店舗）を中心に東側に味噌製造小屋の土蔵、南側に隣接して味噌・醤油倉の土蔵があり、母屋と製造小屋の間の前庭には井戸小屋と池がある。西側には母屋よりも古いといわれる文庫蔵がある。又、西側道路に沿って瓦屋根の門と土蔵があり、堀切邸と連続した景観を形成している。

北側の道路は飯坂温泉街の中心道路で、敷地北西角でコンビニも経営しているが、駐車場と建物群の境界には木質調の板塀を回し景観の統一感を出している。

(写真・略図など)



[演習05-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	5 菊地 進
①名称	旧佐久間邸	④用途	交流体験施設
②所有者	福島市	⑤建築年代	江戸時代：1737年
③所在地	福島市佐倉下字加藤7-6		

⑥構造形式  
 ●母屋：木造平屋建て、入母屋茅葺きの上に鉄板葺き、外壁：土壁下地漆喰塗り 間口23間×奥行12間（延床面積292m<sup>2</sup>）  
 ●物置1：木造平屋建て、切妻瓦葺き、外壁：腰板張り＋土壁下地漆喰塗り（床面積11m<sup>2</sup>）  
 ●物置2：木造2階建て、切妻鉄板葺き、外壁：腰板張り＋土壁下地漆喰塗り（床面積118m<sup>2</sup>）  
 ●物置3土蔵：木造平屋建て、切妻瓦葺き、外壁：土壁塗り（床面積68m<sup>2</sup>）

⑦特徴  
 江戸時代に建築され築270年以上の歴史を持つ庄屋敷である。大正時代に改修されているが、平成20年に佐久間家より「地元や市民の憩いの場として活用してほしい」ということで福島市に寄贈され、市では多目的な活用を図るため、地元の代表や有識者などによる「古民家利活用整備計画懇談会」を開催しながら基本計画を策定し、新たな交流施設として改修整備し平成22年7月に開館した。  
 母屋には和室4室、囲炉裏の間、板の間、土間、2つの玄関がある。又、中央には「信達世直し一揆」の傷跡も残っている。市では新たに多目的トイレや調理室を整備し、土間にはレンガ造のかまどを設置した。施設見学は無料で、和室・調理室・かまどは使用料を払って利用することができる。  
 屋敷の周りには荒川の水を引き込んだ堀がめぐり、別棟の土蔵、東側入口の長屋門、西側の防風林と一体となった景観は、いにしへの風情を伝えてくれる。

(写真・略図など)



[演習07-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	7 佐藤敏宏
①名称	松齢橋（しよいれいばし）	④用途	水道鉄橋（現山口・渡利線一般県道）
②所有者	（県北建設事務所管轄）	⑤建築年代	大正14年（1924年）
③所在地	福島市渡利字舟場		

⑥構造形式：橋長96間7分（175.8m）。幅3間。橋上面積290坪1合。橋台2ヶ所。橋脚4ヶ所。構桁・経間「ボーストリング」式 135尺（42.1m）4連。桁橋・経間 L型桁24尺（7.4m）。前後取付道路358坪2合。橋面と最低水面間22尺。橋梁耐力1平方尺12貫匁

⑦特徴：船敷15艘 敷長さ393尺三島通庸県令が名付けた「松年齢橋」は明治16年竣工。しかし流失を免れることはできなかった。明治41年に長さ85間（約153m）の木橋を架設したが3年を経ず流失。明治43年木橋は開通ならず流失。現存する水道鉄橋が出来る大正14年まで船橋であった。大正10年上水道布設の認可を得、阿武隈川に公道橋として鉄橋を架設し上下水道管の吊架を決定。二宮哲三市長は設計を金井彦三郎氏に依頼。大正12年12月1日起工、福島4万市民の多年の願いは大正14年5月竣工。「5月26日午前10時半より風薫る新緑のもと橋の北袂にて内務大臣代理、香坂知事など600余名の来賓とともに竣工式を行い工事功労者の5社に金杯、23者に銀杯を与え表彰した。12時10分より市公会堂に移り祝賀式をあげた。各町の青年団は総出となって紅白の餅を各戸に配布、街路に紅白の幕をはり花提灯や花ばれんを飾り景気をつけた。新鉄橋を渡る付近の人々は万余となり、渡利村まで出店が張られた。夜間のにぎわいはたいしたものであった」と報道された。橋台2ヶ所橋脚4ヶ所、床面工事請負 池田工業。上部構造請負 横河橋梁製作所。総額289,830円

(写真・略図など)



[演習07-2]地域のお宝発見

[演習07-2]地域のお宝発見		記入者氏名	7 佐藤敏宏
①名称	教育会館	④用途	集会展示場および事務所
②所有者	一般財団法人教育会館	⑤建築年代	昭和31年9月1日（1956年）
③所在地	福島市上浜町10-38		

⑥構造形式 ■鉄筋コンクリート造地上2階 シャーレン方式（折壁とシェル屋根）間口20m奥行き35m 高さ15mの集会場1階1,628㎡ 2階653㎡ 最高部高さ15.5m 正面長さ64.16m 事務棟 長さ46.92m 鉄筋コンクリート陸屋根 ■設計者：前川國男建築設計事務所 請負：清水建設仙台支店 総工費 64,870,000円（坪当たり10万円） 設計費：600万円（12%）

⑦特徴 ■教師たちの団結のシンボルとして昭和8年に建てられた旧教育会館は一時連合軍に接収されたもいたが、昭和28年1月5日原因不明の火災に遭い消失した。再建なった現在の教育会館は譲出（1人当たり月100円）によって昭和31年9月1日に竣工した。設計者はル・コルビュジェのもとで研究し神奈川県立図書館を建てていた前川國男（担当大高正人）である。西側の集会場の折壁とシェルの屋根を持つホール棟、事務棟の柱と梁の単調な姿の対比が特徴となっている。戦後の鉄筋コンクリート構造各種が結集したモダニズム建築。 ■「近代建築の本義は 第一に封建時代におこなわれた神や貴族の為の豪華な建築を人間のために引き戻すことになりす 神の尺度を人間の尺度に置き換えること 人間の喜びのためにあるのが本来の良き建築なのだということだ」と大高は記している

(写真・略図など)



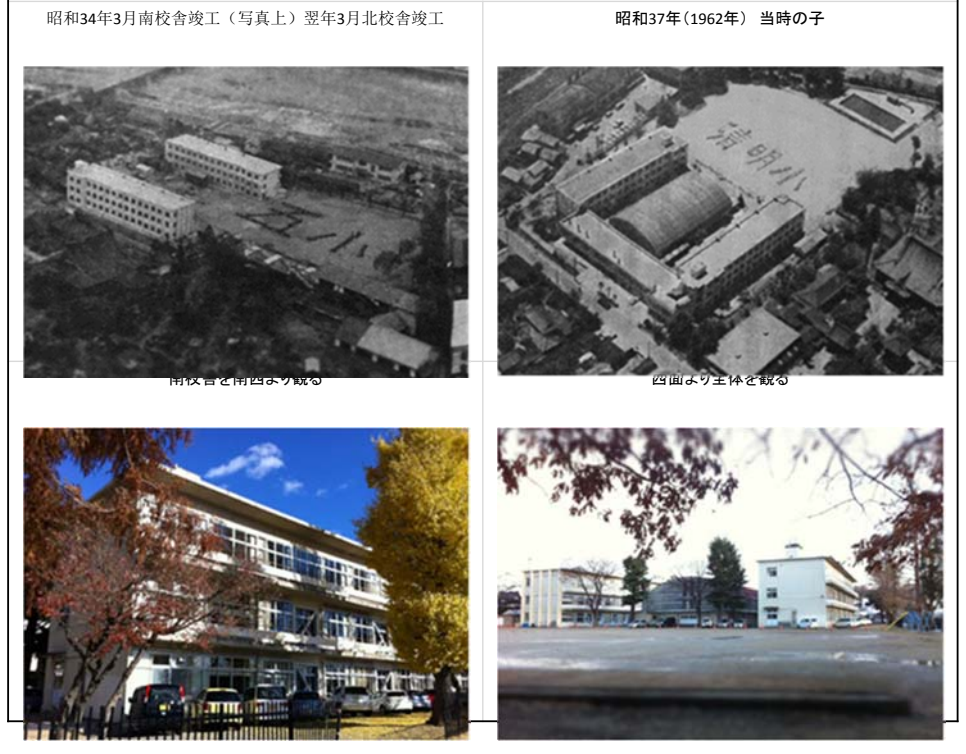
[演習07-3]地域のお宝発見

[演習07-3]地域のお宝発見		記入者氏名	7 佐藤敏宏
①名称	福島市立清明小学校南校舎及び全体	④用途	小学校
②所有者	福島市	⑤建築年代	南校舎1959年3月20日竣工 1963年5月2日プールを含め落成式
③所在地	福島市清明町9-31		

⑥構造形式 南校舎：鉄筋コンクリート3階建 建築面積 459.8㎡ 延べ面積1379㎡ 各教室 9m×7m (63㎡) 総数 12教室

⑦特徴：清明小学校は大正8年福島第五尋常小学校として校舎落成まで福島4小を間借りし開校となった。昭和22年4月福島市立第五小学校と改称された。第一期工事は1958年11月6日起工式が行われた南校舎は林谷主計市長のもと最初の小学校の鉄筋コンクリート3階建12教室である。設計は市建築課鈴木氏。3,059,360円にて青木工業所が施行。1959年2月20日竣工。北校舎、管理棟の順に毎年工事がおこなわれ1961年4月22日に新校舎落成式がおこなわれ清明小学校と改称された。体育館（講堂）は9月21日加藤工務店によって11,473,000円で起工1962年4月21日完成した。第三期工事の予算の一部が通らずマフラーに顔を包んだお母さん方を中核に毎朝、市長登壇前に市役所に出向き陳情した。「彼女たちは各工事に当たり工事従事員に茶菓子の接待を交代制にして毎日奉仕。また姉さんかぶりの女先生がモッコを担いで花壇作りにおそくまで働いた。気の毒だったが結構楽しかった」との記録が残っている。

(写真・略図など)



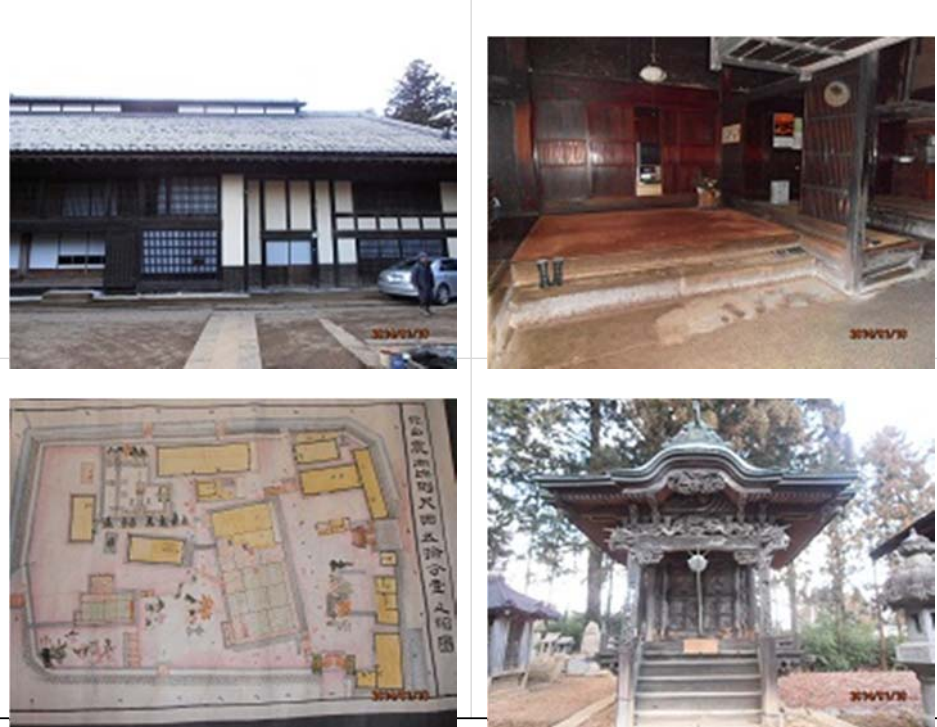
〔演習08－1〕地域のお宝発見

記入者氏名	8 菅谷真典
①名称	丹野家住宅
④用途	住宅
②所有者	丹野駿一
⑤建築年代	明治27年
③所在地	福島市松川町水原字金入道内29

⑥構造形式  
 【主屋】木造平屋建て 入母屋 瓦葺き 平入 間口奥行不明 外壁：土壁（真壁・漆喰）  
 【地蔵尊】一間四方 方形 唐破風

⑦特徴  
 ・明治27年に再建（明治25年の火災により主屋等が消失。ひとまわり小さく再建されたとのこと）  
 ・江戸期は二本松領の名主の家であったという  
 ・明治以降は養蚕も行っていたとのことであるが不明  
 ・地元の木材を使用（松、ケヤキ、杉、クリ等）  
 ・昭和58年に茅葺から瓦葺に改修  
 ・再建当時の姿（外部・内部）を残す貴重な建造物  
 ・（その他）地蔵尊（明治38年再建）：安達郡大平村大工棟梁及び彫刻師 渡邊幸十郎  
 ・向拝柱、海老虹梁等、細部の彫刻（透かし彫り）が特徴

(写真・略図など)



〔演習08－2〕地域のお宝発見

記入者氏名	8 菅谷真典
①名称	阿部家住宅
④用途	住宅（養蚕農家）
②所有者	阿部昇司
⑤建築年代	不明
③所在地	福島市在庭坂字前志田20-1

⑥構造形式  
 木造 寄棟 兜造り 茅葺 平入 間口4.5間 奥行不明  
 外壁：土壁（真壁・漆喰）

⑦特徴  
 ・建設年代は不明  
 ・昭和20年代まで養蚕を行っていたとのこと  
 ・茅葺屋根の損傷が著しい  
 ・この地域の養蚕農家の形式を知るうえで貴重な建造物（外観上、内部は未調査）

(写真・略図など)



[演習08-3]地域のお宝発見		記入者氏名	8 菅谷真典
①名称	宍戸家住宅	④用途	住宅(養蚕農家)
②所有者	宍戸隆一	⑤建築年代	不明
③所在地	福島市土船字竹ノ花37-2		

⑥構造形式  
木造2階建て 寄棟 兜造り 銅板屋根 平入 間口4.5間・奥行不明  
外壁：土壁

⑦特徴  
・築100年以上とのことであるが詳細は不明  
・昭和50年代まで養蚕を行っていたとのこと(中2階を使用)  
・玄関先は土間として残っている。  
・土間、台所以外は4室あるとのことであるが不明(内部未調査)  
・その他、米蔵・味噌蔵が現存(養蚕道具も収納していたとのこと)  
・地域の養蚕農家の形式を知ることのできる建造物

(写真・略図など)



[演習9-1]地域のお宝発見		記入者氏名	9 鈴木勝巳
①名称	テラー小泉 蔵	④用途	倉庫
②所有者	(株)小泉	⑤建築年代	大正2年
③所在地	福島市本町3-6		

⑥構造形式  
・木造2階建て(在来軸組工法)1棟  
※平成23年の東日本大震災により土壁が崩れる被害を受け、同年に外壁補修を行っている。

⑦特徴  
・福島市の中心部において、高層マンション等を背景にして建つ築100年以上の土蔵。  
・震災以後、外壁は塗り替えられたが、その他の被害はなく建築物としての状態が良い。  
・開口部にも重厚感のある観音扉を設置し、庇及び庇下の袖(うだつ?)の装飾性にも優れる。  
・壁面の折釘もバランス良く配置され、外壁及び軒先のアクセントとなっている。  
・震災による瓦屋根の被害が各地で見られたが、この蔵は、ぐし瓦まで非常にきれいに残る。  
・内部には、背の高い貴重な大梁が架けられ、大工は非常に価値がある蔵と主張していたとのこと。  
・周辺で相次いで古い蔵が解体される中で、ご主人は、改修して残す決断をしてくれている。  
・周囲の都市化が進んでも、古き良さを伝えるまちの顔として、長く生きて欲しい建築物である。

(写真・略図など)





[演習9-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	9 鈴木勝巳
①名称	渡辺邸	④用途	住宅、蔵
②所有者	渡辺昭雄	⑤建築年代	江戸時代（詳細不明）
③所在地	福島市大森字滝ノ前25		

・木造（在来軸組工法）2階建て／平屋建て 全7棟  
 ※母屋・正面の蔵は屋根のみ改修を実施。母屋は耐震性を考慮しアルミ瓦を用いている。

- ⑦特徴
- ・大正末期まで酒蔵として使用されていた複数の蔵や母屋等が群として現存している貴重な事例。
  - ・敷地の周囲には大森城の空堀を再生した外堀があり、石垣や板塀（築造年次は異なる）も残る。
  - ・所有者に建築時期を尋ねると、江戸時代になるのではないかとのこと。
  - ・現在の所有者は十代目。上杉景勝が米沢に移封（慶長5年：1600年）された時に、先祖がこの地に根を下ろして酒蔵を営んだという話であり、系譜も辿り切れていない。
  - ・母屋は、内外とも木造建具がほぼ現存。外部の木製連格子等も現役。玄関を入った接客用の板の間や囲炉裏、見上げると真っ黒になっている小屋組など、相当な歴史を感じさせる建物である。
  - ・敷地の正面に立つ土蔵は砂壁というが、状態が非常に良く当時の技術の高さを伺うことが出来る。

(写真・略図など)



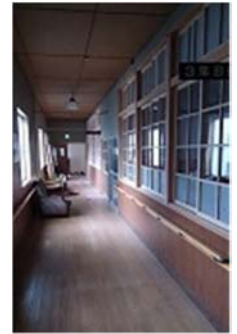
[演習9-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	9 鈴木勝巳
①名称	りょうぜん里山がっこう	④用途	交流体験施設
②所有者	(株)タカノ	⑤建築年代	昭和23年
③所在地	伊達市霊山町大石細倉17		

⑥構造形式  
 ・木造2階建て（在来軸組工法） 延べ床面積978㎡ 1棟  
 ※中学校が廃校となった後、工場として使用された時代に、木板張りの上にトタンが張られ、外部は安普請な印象であるが、内部は床・壁・建具等がほぼ当時のままに残されている。

- ⑦特徴
- ・昭和23年に建築された旧石戸中学校の校舎。内部空間は昔ながらの木造校舎そのもので懐かしい。
  - ・建築的には、現在まで、現位置への移築、廃校（S44）、ニット工場（S44～H10）、農作物販売施設としてリフォーム（H11：1F3教室床等）、そして現在の交流体験施設へと幾多の歴史を有する。
  - ・H12年の春からは「りょうぜん里山がっこう（H19.2月NPO法人化）」。現在は「パン工房ポレット」も同居。別棟に宿泊体験施設も建設（H22）され、交流拠点としての地位を確立している。
  - ・本施設の中では、絵画や木工作品の展示や各種イベント等が開催され、多くの来訪者が訪れる。
  - ・山間部にひっそりと残されていた廃校が、多くの人々に愛され息を吹き返している事例である。

(写真・略図など)



[演習10-1]地域のお宝発見		記入者氏名	10 鈴木勇人
①名称	斎藤克治邸 長屋門・土蔵	④用途	長屋門・土蔵
②所有者	斎藤克治	⑤建築年代	昭和初期 (H16年移設改修)
③所在地	福島市大森字宮ノ前20-1		
⑥構造形式 長屋門：土蔵造り平屋建て、日本瓦葺き 土蔵：土蔵造り2階建て、日本瓦葺き			
⑦特徴 都市計画道路の開発により、道路向かいに移築を余儀なくされた斎藤邸であったが、先祖から受けとった土蔵を何とか残したいとの施主の思いに答えるため、長屋門ならびに土蔵の2棟を曳家することにした。道路を通行止めにしての曳家は珍しく、たびたび見学者が訪れていた。 再整備された土蔵は新たな斎藤邸の顔として後世に引き継がれ、周辺のランドマークとしても穏やかな景観をつくりだしており、歴史的建造物を再利用した好例であると思われる。			

(写真・略図など)

 <p>新たな玄関として後世につないだ長屋門</p>	 <p>解体ではなく曳家により道路向かいに再配置された</p>
 <p>長屋門や土蔵と共に当時の敷石も再利用している</p>	 <p>1階平面図</p>

[演習10-2]地域のお宝発見		記入者氏名	10 鈴木勇人
①名称	板倉神社 印塚	④用途	印塚
②所有者	宗教法人板倉神社	⑤建築年代	昭和57年10月建立
③所在地	福島市杉妻町		
⑥構造形式 石塔：天然石 脇に印章の堀文字を消す削り石がある。投入口の蓋が印章形をしている。			
⑦特徴 斥の東側に位置する板倉神社の境内にひっそりと佇むように安置してある印塚である。 東日本大震災において長年親しまれてきた本殿・拝殿が著しく被災したため、解体の上、建替える運びとなり、板倉神社を再建するのに合わせて境内に再整備したのである。 印章は私たちの分身ともいべき魂のある大切なものであると言われており、この印塚は永年愛用した印章に感謝し、その霊を慰める供養所がほしいとの市民の願いを受けて建立されたものである。			

(写真・略図など)

 <p>既存石塔を利用して整備された印塚</p>	 <p>市民により親しみ石段を整備されている</p>
 <p>板倉神社本殿脇に再整備され、印塚説明板も設置されている</p>	 <p>東日本大震災により被災した本殿・拝殿を解体の上再建された板倉神社の新拝殿</p>

[演習11-1]地域のお宝発見		記入者氏名	11 高橋秀明
①名称	柳屋本店（店舗兼住宅）	④用途	店舗兼住宅
②所有者	島貫家	⑤建築年代	明治41年頃
③所在地	福島市飯坂町字横町18		
⑥構造形式 木造2階建て、間口5.5間、奥行12間 切妻屋根瓦葺き、外壁真壁漆喰塗り			
⑦特徴 ・島貫家は、明治中期に米穀・肥料・味噌醸造業を始める。近年は市議会議員なども輩出している。 ・装飾面で特筆するものはないが、保存状態が良く、当時の子を良く残している。 ・敷地内には大正時代に作られた土蔵も良質な状態を保っていたが、大震災で被災し解体されたものもある。 ・室内の家具（衝立や箆笥等）も、建立当時からのものと伝えられている。 ・道路に面した店舗部分の改造に際しては、当時のイメージを踏襲するなどの配慮が感じられる。			

(写真・略図など)



道路側主屋正面



南側外観



内部



敷地内付属屋

[演習11-2]地域のお宝発見		記入者氏名	11 高橋秀明
①名称	興國禅寺（鐘楼）	④用途	寺院
②所有者	興國禅寺	⑤建築年代	嘉永2年（1849年）
③所在地	伊達市梁川町字大町2丁目49番地		
⑥構造形式 木造2階建て、柱間1.5間四方、2階軒高さは約18尺 入母屋屋根銅板葺き、袴腰：下見板貼り			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・梁川藩の菩提寺として、慶長7年(1602年)に開堂した。</li> <li>・本鐘楼は天保6年(1835年)の大火の後、嘉永2年(1849年)に再建されたものである。その後も二度の大火に遭っているが、いずれも延焼を免れている。</li> <li>・寺社建築としては一般的な装飾であるが、保存状態は比較的良好である。</li> <li>・この他にも、文久2年(1862年)に建てられた延命地藏堂や慈恩堂があり、経蔵は文政12年(1829年)に建てられたもので、いずれも良好な保存状態で現在に至っている。</li> <li>・境内には推定樹齢500年の「臥龍のケヤキ」があり、「緑の文化財」に登録されている。</li> </ul>			

(写真・略図など)



東側外観



外観細部



2階床



境内全景

[演習14-1]地域のお宝発見		記入者氏名	14 古河 司
①名称	酢屋	④用途	母屋
②所有者	吉田 栄重	⑤建築年代	昭和元年
③所在地	いわき市泉		

⑥構造形式  
木造平屋建て寄せ棟 平入り 外壁；漆喰 腰壁；板張り 屋根には煙出しが設けてある。

⑦特徴  
・聞き取りによると建築年次は、昭和元年、当時の建設費は1000円であり、棟梁は小名浜の片寄氏である。  
・建設当時から近年まで味噌、醤油の醸造を生業としていたことから、屋号を酢屋とし、広大な敷地であったが、現在は、震災の影響もあり、母屋以外の建物を全て解体除却してしまった。  
・石の基礎の上に土台を設けていることから、昭和の初期の特徴を顕著に表している。また、軒の部分はせがい造りとなっている。（施工者が船大工かどうか不明）  
・内部については、欄間の亀甲文、床の間脇の組子、建具を漆塗りとするなど当時としての贅をつくす造りで貴重なものである。  
・昭和40年代には、竈・囲炉裏を解体し、床を張っていることから、仕上げが当初から変更されているが、平面構成は変更されていないので、建築史的には貴重なものと考えられる。

(写真・略図など)



石の基礎の上に土台の設置  
煙出しが設けてある寄せ棟の屋根



せがい作りの軒の部分



漆塗りの建具や神棚等  
欄間の亀甲文の組子



床の間脇の組子の建具

[演習14-2]地域のお宝発見		記入者氏名	14 古河 司
①名称	酢屋商店	④用途	網元の住宅
②所有者	野崎 哲	⑤建築年代	昭和12年
③所在地	いわき市小名浜古湊		

⑥構造形式  
木造2階建て入母屋屋根 間口4間 奥行き不明  
外壁；板張り 左側にうだつ付

⑦特徴  
・聞き取りによると建築年次は、昭和12年であり、住宅の西側に「うだつ」を有し、この住宅のある古湊の通り沿いに建設された複数の建築物の特徴が最も顕著に表されている。  
・この建築物の第一の特徴は、正面出入口口上部の梁せいの高さや桁行き方向の1本ものの梁の長さであり、構造材にも贅を尽くしているものと考えられる。  
・また、正面の建具のガラスの文や内部の建具には船の艦を連想させる障子など細やかさも観られ、棟梁と建て主との建物への思い入れが感じられる建物でもある。  
・江戸時代は米の積み出しをしていたため、屋号が酢屋であるが、明治以降は網元や回船問屋と営んでいることから、多くの人の出入りしている。

(写真・略図など)



建築物全景  
・建築物正面出入口口左側にうだつの設置  
・正面出入口口上部にせいの高い梁の設置



建設当初からの市松模  
のガラスがはめこまれて  
いる建具



桁行き方向に1本ものの丸太の梁の設置



船の艦(ろ)を連想させる障子

[演習14-3]地域のお宝発見

記入者氏名	24 古河 司
①名称	近藤家住宅
④用途	母屋
②所有者	近藤國弥
⑤建築年代	江戸時代中期（享保年間？）
③所在地	いわき市小名浜江名南町75

⑥構造形式  
木造平屋建て 曲がり屋 床面積約250平方メートル屋根；茅葺き  
昭和49年の移転時の外壁は、漆喰で腰部分は板張りであった。 門；明治28年に築造された

⑦特徴  
・建築年代は、昭和49年の新聞では、享保年間とされ、約300年前に建築されたもので、ちょうなけずりの梁や大黒柱は建設当時のものである。また、玄関の板戸は改築前のものを使用している。さらに、内部の神棚等は昭和49年以前のままの状態であり、建設当時の造りを知る上で貴重なものである。  
・近藤家や代々続いた造り酒屋で所有者の近藤さんで十数代目にあたり、昭和49年の移転（2メートルの水平移動と90cmの嵩上げ）時に酒屋を廃業した。  
・その後、平成6年、8年に茅葺き補修を茅葺き職人鈴木氏（滝根町）、秋元氏（船引町）により実施し、平成15年棟飾りを造り直し、一部茅葺きを補修（鈴木氏、秋元氏）している。  
・上記のように改修していることから、建設当時の平面は不明であり、基礎もコンクリート造としているが、建設当時の小屋組が残っており、貴重な建築物である。

(写真・略図など)



・門と建築物全景



・建設当時のちょうな削りの梁(台所)



建設当時の板戸



建設当時の台所側を見守る神棚

[演習15-1]地域のお宝発見

記入者氏名	15 三浦藤夫
①名称	荒川・霞堤
④用途	堤防
②所有者	福島市
⑤建築年代	江戸時代
③所在地	福島市

⑥構造形式  
荒川の氾濫を防ぐ堤防で野面石積みとなっている

⑦特徴  
毎年、洪水で荒川が氾濫を起こすため、地元の庄屋の住民が霞堤を考案し、財力がないため新潟の柴田藩に支援をしてもらい堤防を築いた。  
その後、水保地区には洪水が起こらなくなった。今でも助かっている。

(写真・略図など)



[演習15-2]地域のお宝発見		記入者氏名	15 三浦藤夫
①名称	旅館 二階堂	④用途	木賃宿として始める
②所有者	二階堂匡一郎	⑤建築年代	明治5年、明治37年 大正12年
③所在地	福島市桜本微温11		
⑥構造形式 奥座敷 木造3階建て 客室 18室 萱葺き屋根 中屋敷 木造2階建て 客室 20室 栗小羽葺をトタン葺きとする 玄関 木造2階建て 客室 4室 トタン葺			
⑦特徴 微湯温泉、吾妻山麓に位置し秘湯温泉として有名になる。 現存する茅葺屋根を地元の茅葺職人に委ねている。5年ぐらいで手直し。 江戸時代の建物は戊辰戦争で焼かれた。その後再建、現在に至る。 茅葺屋根の木造3階建て、築140年を越す建物であり、堂々とした構えは素晴らしいものがある			

(写真・略図など)



[演習15-3]地域のお宝発見		記入者氏名	15 三浦藤夫
①名称	二宮家	④用途	住宅
②所有者	二宮八重子	⑤建築年代	明治時代
③所在地	福島市新浜町11-47		
⑥構造形式 木造2階建て、瓦葺き屋根			
⑦特徴 建築主は明治40年、初代福島市長を務めた二宮哲三氏の住まいである。 玄関には車寄せがあり、むくり屋根が特長。全体的に数寄屋建築となっている。			

(写真・略図など)



## [演習16-1]地域のお宝発見

[演習16-1]地域のお宝発見		記入者氏名	16 武藤健一
①名称	中川家住宅	④用途	専用住宅（旧田倉家迎賓館）
②所有者	中川恭子	⑤建築年代	大正14年
③所在地	二本松市本町1丁目127		

## ⑥構造形式

木造2階建て（地下1階） 屋根：洋風瓦葺き 暖炉用煙突付 外壁：モルタルスタッコ調仕上げ  
一部石張り、こけら葺き風鑑下見板張り

## ⑦特徴

この地域には大変珍しい洋館の建物である。ひときわ目立つ外観を有しています。大正14年に建築された建物で今も当時のままの姿で建っています。明治維新の頃に長野県から移られた田倉氏がお客用の迎賓館として建てた。（県議会の副議長や二本松の銀行頭取等を歴任）隣に和風建築の住宅棟と繋がっています。その後、今の当主の義父（福島羽二重会社の専務）が昭和18年に購入され現在に至っています。外観はマンサード調の屋根にスタッコ調のモルタルや石・木材を張った特徴のある外壁をしています。内部は一部屋のみ洋室で漆喰で装飾された天井の高い気品のある応接室と、他は日本間です。使用されている木材もほとんど無垢材で大変高価なもので、建具類もデザインに凝った趣のあるものです。このような建物が二本松市に残っていることが大変驚異であり、新たな再発見です。是非とも将来に残しておきたい建物です。ただ残念なことに今回の地震で内部の漆喰壁面に多くの亀裂が発生しています。

(写真・略図など)



## [演習16-2]地域のお宝発見

[演習16-2]地域のお宝発見		記入者氏名	16 武藤健一
①名称	菅野伝授美術館	④用途	美術館（蔵）
②所有者	三浦五郎	⑤建築年代	文化11年（1814年）
③所在地	二本松市西新殿字奎少内77		

## ⑥構造形式

木造2階建て（土蔵蔵）屋根：切妻日本瓦葺き（置き屋根工法）、外壁：漆喰塗り、腰：モルタル刷毛引  
（以前はなまこ壁であった。）

## ⑦特徴

芸術に大変造形の深い三浦氏が地元の画家（菅野伝授氏）の絵画を収集し展示して、地域の皆さんに開放している土蔵蔵です。江戸時代後期に建てられた大変古い建物です。現在は美術品の他に音楽会等を開催し有効活用されています。棟札から基礎廻りは信濃の石工、大工は三春の棟梁によって建築されたと書かれています。今回の地震で外壁面に大きな亀裂が発生しています。

(写真・略図など)



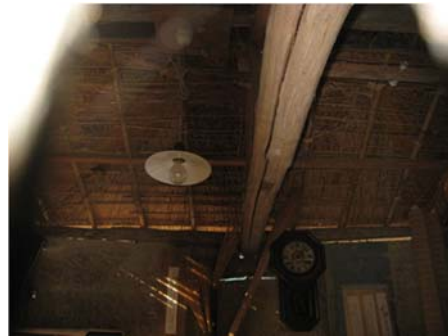
[演習16-3]地域のお宝発見

記入者氏名	16 武藤健一
①名称	遺墨の杜記念館・巢月庵
④用途	資料館（旧住宅）
②所有者	佐久間健一
⑤建築年代	明治時代末期（1900年頃）
③所在地	二本松市杉沢字花ノ木75

⑥構造形式  
 住宅棟：木造平屋一部2階建て 屋根：曲り屋風入母屋茅葺き（カラー鉄板包み）外壁：土壁塗り  
 離れ屋：木造平屋建て（1.5間 x 1.5間） 屋根：茅葺き 外壁：土壁塗り

⑦特徴  
 住宅棟：木造平屋一部2階建て 屋根：曲り屋風入母屋茅葺き（カラー鉄板包み）外壁：土壁塗り  
 離れ屋：木造平屋建て（1.5間 x 1.5間） 屋根：茅葺き 外壁：土壁塗り

(写真・略図など)



[演習17-1]地域のお宝発見

記入者氏名	17 八木沢純子
①名称	聖徳太子神社
④用途	神社
②所有者	福島稲荷神社
⑤建築年代	昭和37年6月21日
③所在地	福島市宮町1-29

⑥構造形式  
 六角堂  
 屋根 銅板葺き モルタル仕上げ

⑦特徴  
 昭和15年福島市、信夫郡、伊達郡、安達郡下の建築関係者の結集によって計画され昭和37年に完成。堂内に聖徳太子の尊像がまつられています。一市三郡の職人の信仰が顕わされています。聖徳太子が神社としてまつられている例は、極めて希有で全国的にも珍しい一社です。

(写真・略図など)





[演習17-2]地域のお宝発見

記入者氏名	17 八木沢純子
④用途	二階建て踊り屋台
⑤建築年代	昭和29～30年 完成

①名称	北町太鼓屋台
②所有者	宮沢和子(元名倉屋 阿部)
③所在地	福島市仲間町7-15 南沢邸内

⑥構造形式  
二階建て太鼓及び踊り屋台 唐破風  
総樺 金箔2000枚  
木輪

⑦特徴  
福島市の福島稲荷神社の秋季例大祭で、昭和40年頃まで使われていた踊り屋台。当時、本町、中町にもあったが、電線や引き手の減少などで動かせなくなってしまった。高さ4.7m 幅3.1m 奥行3.9m 総樺 天井裏には金箔2000枚

現在、「復興のシンボル」として福島踊り屋台保存委員会が中心となり福島稲荷神社の西側へ展示を試みている。

(写真・略図など)



[演習17-3]地域のお宝発見

記入者氏名	17 八木沢純子
④用途	鐘楼堂
⑤建築年代	昭和35年10月18日落成

①名称	瑞雲山龍鳳寺鐘楼堂
②所有者	曹洞宗瑞雲山龍鳳寺
③所在地	福島市腰浜町9-27

⑥構造形式  
千鳥破風 入母屋造り 二軒 扇垂木 (出組)

⑦特徴  
鳳寺は、福島藩主本庄繁長公の軍師傑山雲勝和尚が開山したお寺です。その昔から時の鐘として、小さな鐘撞き堂があったのですが、戦争時に鐘を供出してしまい戻らず新たに鐘を山形の業者に依頼し、それに合う鐘楼堂を建てられた。扇垂木という形を用いて造られた。この形の手法は、とても難しく今後もこの技術を残して行きたいと思いました。  
住職さんの話だと、基礎の石組みが石屋さんの間では手本になっているらしい。

(写真・略図など)



[演習18-1]地域のお宝発見

記入者氏名	18 山内新一郎
①名称	慈徳寺
④用途	寺院
②所有者	国井一之
⑤建築年代	文政4年(1821年)
③所在地	福島市佐原字寺前9

⑥構造形式  
 建築年代は文政4年約190年前、木造平屋建一部2階建、外壁しっくい壁。  
 当初はかや葺き屋根の本堂と庫裏だったが、80年前にか鉄板をかやの上に被せた。

⑦特 徴  
 佐原地区の山中腹に位置し、伊達政宗の父輝宗が火葬されたと伝えられる。「輝宗の首塚」といわれる五輪塔が残る。境内のしだれ桜は樹齢300年近くの大木で、この桜の開花を目安に地元の人達は、苗代に種を蒔いたことから、「種まき桜」といわれ市民に広く知られている。

特徴は庫裏の2階の客間天井には、手斧削りの梁扇蓋造りの構造体が見られる貴重な建物である。

内部は平成18年に改修工事を行い、庫裏部分柱全て腐朽の為建物全体をジャッキアップし土間コンクリートを打設し、柱脚部全て木材にて根継ぎし、内部改修工事を行った。

(写真・略図など)



[演習18-2]地域のお宝発見

記入者氏名	18 山内新一郎
①名称	福島東稜高等学校 円型校舎
④用途	学校
②所有者	学校法人 東稜学園 理事長 小原満夫
⑤建築年代	昭和38年新築
③所在地	福島市山居上3-1, 12 鰐頭森2-2

⑥構造形式  
 鉄筋コンクリート造 4階建円型校舎。1~3階は普通教室、4階は講堂兼体育館となっている。  
 1~3階の周方向はラーメン構造であるが径方向は独立柱となっている。4階中央の屋根は鉄骨造であるが外周跳出し屋根はRCスラブにて構成されている。半径13.5m 直径27.0mの円型の建物である。

⑦特 徴  
 本建物は信夫山の南稜線に建ち、建物の南側は崖地となっている。近くには、県の文化センター桜の聖母女子短大、橘高校、福島体育館等がある文教地区にあり、古くは福島ドレスメーカー学園緑ヶ丘女子高校、そして現在の東稜高校と名前も変わって、信夫山のシンボルとして市民にはなじみの深い建物となっている。昭和30~40年代に多数あった公共建築等の円型建物も現在は福島市近郊には、本建物と土湯小学校の2ヶ所のみとなってしまった。東稜高校は現在の建物の姿を後世まで残すようにと、平成23年に100周年事業の一環として円型校舎の耐震補強工事も完了し、現在に至っている。

(写真・略図など)



[演習18-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	18 山内新一郎
①名称	東北電力信夫山無線中継所	④用途	工作物
②所有者	東北電力	⑤建築年代	1958年(昭和33年)
③所在地	福島市御山羽山		
⑥構造形式 太陽光発電システム 出力70W			
⑦特徴 現在注目とされている再生可能エネルギーの中でも取り分け関心の大きい太陽光発電が、日本電気株式会社(NEC)によって、今から56年前の1958年に東北電力信夫山無線中継所に日本初の太陽光発電システムとなる総出力70Wの太陽電池が設置された。 当時はその後外地の無線中継局や灯台などの電気供給に多数採用されたいわれている。 ※現在は残念ながら当時の施設、面影は全て残ってはいませんが、何とんでも信夫山無線中継局が日本の太陽光発電の発祥の地となった事を現在の人々に知ってほしいと思い、姿はありませんが、記憶の中のお宝としたいと思います。			

(写真・略図など) 2014年(平成26年)現在の全景



[演習20-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	20 上野一明
①名称	菊屋羊羹本舗	④用途	店舗及び工場
②所有者	菊田傳吉	⑤建築年代	明治10年頃(築90年)
③所在地	福島市中町6-30		
⑥構造形式 店舗部分:木造2階建て、6.5坪 工場部分:木造2階建て			
⑦特徴 明治36年の市街地図を見ると、市街地はかつての江戸口と呼ばれていた阿武隈川と荒川の合流地点から、現在の豊田町である仙台口と、奥州街道沿いは江戸時代福島城下とほぼ同じ範囲と思われる。奥州街道江戸口から、榊丁、荒丁、中丁、本丁と約600メートル続く直線の街道の両側には多くの商店が軒を連ねて福島市内中心部に続いていたと思われる。 菊屋は、奥州街道が東に折れる中町の中央に位置している。切妻2階建て平入り、間口3.0間、桁行2.5間の店舗に作業場(羊羹工場)が続く。羊羹工場の増床に伴い坪庭を無くし総2階としたり、変遷は複雑だがかつてを偲ばせる店構えの存在感は大きい。内装、家具の丁寧な仕上げ、洗出しの床が美しい。作業場は今でも現役で、全ての羊羹をここで製造している。			

(写真・略図など)



[演習20-2]地域のお宝発見		記入者氏名	20 上野一明
①名称	保原屋米店	④用途	店舗及び住宅
②所有者	渡辺家	⑤建築年代	昭和2年頃(築≒87年)
③所在地	福島市豊田町2		
⑥構造形式 店舗部分：木造2階建て、1階店舗：6.5坪 2階客間：9.0坪 住居部分：木造平屋建て、 棟板、図面等の資料を残している。			
⑦特徴 明治36年頃の市街地の北境は現在の豊田町、かつての福島城下城、仙台口と呼ばれていた枡形(大木戸)までである。市街地は北方に広がり、明治41年になると鉄道(軽便鉄道)が真っ先に豊田町を南北に通るようになり栄えた。南北300メートルの電車通りの両側の店舗は、従来の履物屋、酒屋、乾物屋に加え時計店、美容院、自転車店などが見られる。保原屋は米屋である。店舗前は水路、道路の反対側を鉄道が走っていた。切妻2階建て平入、1階は間口3間、桁行3間の店舗、2階は10帖と6帖の客間となっている。敷地奥行きは25間で平屋の住居部分となる。庭をはさんで今は浴室となっている。どっしりした構えは、さほど古い造りではないが、繊細なディテールはしっかりしており往時の街並みを想像するにたやすい。外壁の波板は、土壁を保護するために張ったものだ。			
(写真・略図など)			
			
			

[演習20-3]地域のお宝発見		記入者氏名	20 上野一明
①名称	宍戸理髪店	④用途	店舗及び住宅
②所有者	宍戸謙一	⑤建築年代	明治40年代(築≒100年)
③所在地	福島市豊田町2-35		
⑥構造形式 店舗部分：木造2層吹き抜け、外壁モルタル 住居部分：木造平屋建て			
⑦特徴 明治期の経済動向は、生糸や米の生産を中心に民間企業が隆盛したものの、大正、昭和と震災、大戦、世界恐慌で大きく変動していた。豊田町の電車通りに面する宍戸理髪店も影響を少なからず受けている。3代続く理髪店だが、大正末期人口増加の中、金融恐慌で破綻した第107銀行の店舗に移ってきた。明治40年代には県内44カ所あった地方銀行の一つである。3間×2.5間の店舗に住宅が併設(増築)してある。店舗は全体が吹抜けとなっており天井には大きな天井扇が付いていた。道路に面して上下窓と高窓がセットにシンメトリに配置されている。南立面、西側の上下窓は創建当時のもの、高窓の細かな棧は戦時中の対応。外壁は左官仕上げの看板建築である。震災により外壁が一部落下しているが、昔ながらの店舗妻飾りのエンブレムは第107銀行と読む事が出来る。瀟洒な造りで街角に建つ風景は、街並みに新たな雰囲気をもたらした事だろう。入口正面にあった窓口カウンターは、今でも鏡台に使われている。			
(写真・略図など)			
			
			

**[演習21-1]地域のお宝発見**

①名称	(株) 檜物屋酒造店	④用途	酒造店住宅及び仕込蔵
②所有者	齋藤郷太郎	⑤建築年代	文庫倉 (住宅) 明治7年 仕込倉 昭和7年
③所在地	二本松市松岡173番地		

⑥構造形式

文庫倉 (住宅)	構造	木造2階建て土蔵造り
	屋根	切り妻屋根 置き屋根瓦葺き (赤瓦)
	外壁	土蔵壁中塗り仕上げ、腰壁一部ナマコ壁
仕込倉	構造	木造2階建て土蔵造り
	屋根	道路北側寄せ棟、南側切り妻屋根 置き屋根瓦葺き (赤瓦)
	外壁	下地は土蔵壁、軒裏は白漆喰塗り、土壁は下見板貼り、腰壁疑石貼り

⑦特徴  
 檜物屋酒造店の「千功成」という酒銘は旧二本松藩主丹羽公の先の君主太閤秀吉の「千成ひょうたん」にちなんで名付けられた有名な地酒である。屋号の檜物屋の由来は藩主丹羽公に付いてきた檜板で創る曲げ物加工の職人であったと言われる。  
 文庫倉は明治7年の創業当時に建てられ、現在は1階を住宅に使用しており、外壁、扉とも土蔵で仕上げは中塗りのままで風化が進んでいるが、建物を住宅に使用しているため、本体は適切に維持管理されている。屋根は置き屋根の瓦葺きで何度かの地震で瓦が落ち補修をしている。  
 仕込倉は昭和7年に建てられた木造2階建てで倉には珍しい寄せ棟の置き屋根である。小屋組はキングポストトラス組の洋小屋で当時酒蔵の大スパンの空間を確保するため採用されたと思われ、建設当時の上棟式の写真がある。開口部はまぐさ、縦わくとも白漆喰で仕上げられ文庫倉のデザインを踏襲している。

(写真・略図など)



**[演習21-2]地域のお宝発見**

①名称	国田屋醸造	④用途	店舗及び醸造倉
②所有者	大松裕男	⑤建築年代	店舗 江戸末期 醸造倉 江戸末期
③所在地	二本松市竹田二丁目30		

⑥構造形式

店舗	構造	木造2階建て
	屋根	切り妻屋根 金属板葺き (建設当時はこば葺き屋根)
	外壁	白漆喰仕上げ、道路面東側1階2階ともべんがら塗りの格子戸、妻側白漆喰仕上げ
醸造蔵	構造	木造2階建て土蔵造り (2棟)、木造平屋建て土蔵造り (1棟)
	屋根	切り妻屋根 金属板葺き (建設当時こば葺き屋根)
	外壁	土蔵中塗り仕上げ

⑦特徴  
 江戸時代創業の醸造屋で店前の通りは二本松城下から福島に通じる塩沢街道でその起点に位置し、店舗は木造2階建ての切り妻屋根で金属板葺きであるが建設当時はこば葺き屋根と史料される。  
 2階屋根は野垂木の下に化粧垂木を施し、街道に面してべんがら塗りの格子戸が取り付けられ、2階格子戸は祭りのお休み処としてお御輿を2階座敷に迎えるため取り外しの工夫がされており、同じ城下町の高村智恵子の生家である造り酒屋同、街道に面して平入りの1階下屋がある代表的な商家の造りである。  
 味噌醤油の醸造蔵である3棟の土蔵は建設当初、店舗、住まいの裏に配置されていたが平成16年に西側に県道が移動したため、現在では道路に面して妻入りの土蔵が雁行して並び、中庭の植栽とともに美しい街並み景観を演出している。一番手前の蔵は改装して「蔵カフェ」として活用されており、古い土蔵も継続して使用することで建物の長寿命化が図られている。  
 また、屋敷内には土蔵としては一番古いと言われる商いの神である稲荷大明神が祀られている。

(写真・略図など)



[演習21-3]地域のお宝発見

[演習21-3]地域のお宝発見		記入者氏名	21 渡辺光司
①名称	(株) 御菓子処 日夏	④用途	店舗
②所有者	日夏 稔	⑤建築年代	移設 大正時代
③所在地	二本松市本町1-203		

⑥構造形式  
 構造 木造2階建て土蔵造り  
 屋根 切り妻屋根 置屋根棧瓦葺き(赤瓦)  
 外壁 土蔵壁白漆喰仕上げ、腰壁ナマコ壁

⑦特徴  
 明治21年創業の歴史ある銘店で、当初亀谷にあった店を本町に移転した際、大正時代に根崎にあった土蔵を移設したと言われる。(二本松大火があった明治時代以降らしい)  
 道路側に店舗を配し、北側に隣接して住宅そして中庭を挟んで奥にもう一つの蔵があるという商家の屋敷割りである。  
 1階が菓子店舗で2階を倉庫に利用している土蔵づくりで、屋根は切り妻平入り、赤瓦の置屋根棧瓦葺きで、軒から蛇腹まで漆喰でしっかり塗り上げてある。  
 外壁は土蔵下地の白漆喰仕上げで、腰壁はナマコ壁貼りである。  
 道路に面して1階下屋があり、2階外壁が後退する代表的な商家土蔵づくりのデザインである。

(写真・略図など)



道路角地面西側外観



道路面南側外観



店舗内観



東側軒廻り蛇腹

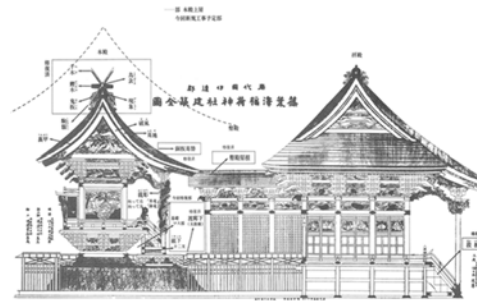
[演習22-1]地域のお宝発見

[演習22-1]地域のお宝発見		記入者氏名	22 齋藤隆夫
①名称	篠葉沢稲荷神社	④用途	神社本殿
②所有者	宮司 伊藤保生	⑤建築年代	1897 (M30)
③所在地	福島市立子山字目細内110 (024-597-1127)		

⑥構造形式  
 社殿建築の代表的造りである「一間社流れ造り」、木造、屋根銅板葺(元板葺・覆屋)約2㎡

⑦特徴  
 三春城お抱えの宮大工、伊藤九賀之助棟梁の作で「彫刻の社」の名の通り建築というより彫刻である。特に、前流れの屋根を支える向拝柱は、右は「昇竜」、左が「降竜」、木鼻の「振り向き唐獅子」、海老虹梁の「浪に千鳥」を「籠彫り」という手法で彫られており、いずれもこのスカスカ状態で屋根を支えているように見えない。御本殿は、石積みの基壇の上に八カ所の四手先斗組みで支えられている。真裏(西側)の「天照大神天の岩戸開きの図」、泰平東の「天上帝」、胴羽目の「日清戦争」、手挟の「松に鷹」、臺股の「牡丹に唐獅子」、組下の十二支などが丸彫りに近い透かし彫り、浮き彫りなどで彫られている。右側向拝柱の昇竜は、春分の頃に地中を出た竜が海老虹梁から脇障子横の親柱を経て天上帝に上ろうとするところであり、左側向拝柱の降竜は秋分の頃に天上帝を出た竜が、親柱、海老虹梁を経て地中に降りようとするところである。欄間には春の代掻きに種まき、夏の草取りと田植え、秋の稲刈りと脱穀、冬の初穀篩いに俵詰めと記帳など春夏秋冬の四季農耕の彫り物がある。建設費は氏子からの拠出で賄われており、氏子の志の高さとこれに応えた地方の宮大工の技術の高さが分かる。

(写真・略図など)



[演習22-2]地域のお宝発見

[演習22-2]地域のお宝発見		記入者氏名	22 齋藤隆夫
①名称	仙台屋・木村呉服店	④用途	店舗・住宅・蔵
②所有者	木村重幸(6代目当主)	⑤建築年代	創業：天保3年(1832) 以降明治期
③所在地	伊達郡川俣町字瓦町14(電話024-565-2003)		

⑥構造形式  
母屋：木造2階建て瓦葺き 約60坪(200㎡)、蔵：土造 約70坪(230㎡) 黒漆喰、なまこ壁

⑦特徴  
天保3年創業の呉服屋であり、蔵座敷、味噌蔵等7棟からなる。東側店舗から連なる蔵座敷の内装は建築時のままであり、今も呉服の展示会やジャズコンサート等に使用されている。創業時の店舗は間口が15間あったそうだが、現在は全面道路が嵩上げとなり段差が生じたため使用していない。北側に隣接する福島信用金庫川俣支店は昭和63年に建築されたが、仙台屋の3連の蔵と連担するようなデザインであり広瀬川沿いからの景観が美しい。

(写真・略図など)



信用金庫



旧店舗東側外観



座敷蔵



明治期の大売り出し

[演習22-3]地域のお宝発見

[演習22-3]地域のお宝発見		記入者氏名	22 齋藤隆夫
①名称	中村家	④用途	住宅
②所有者	中村善昭	⑤建築年代	1903(M36)
③所在地	福島市飯坂町平野字飯塚10-1		

⑥構造形式  
木造瓦葺き、約120坪(400㎡)

⑦特徴  
旧平野村の旧家であり、元々は養蚕農家である。建築時の屋根は杉皮の小羽葺きであり、昭和の代に入り劣化雨漏りがあったため、その上に瓦葺きとした。鬼瓦には中村本家を表す「本」の刻印があり、170坪12千枚の注文瓦で葺かれている。また、棟には国見石と見られる石のぐしが載っているが、昭和53年の宮城沖地震で東側鼻先が折れて落下、下屋を突き破ったという。3.11地震での被害は殆ど無く、瓦のズレ程度であった。屋根は矩勾配のため、作業する瓦職人の命綱として棟から鎖が下がっている。瓦業者に確認したところ県北地域特有の工法だそうで、当時のし瓦を粘土で重ねており台風や地震で飛ばされるため重量のある石を使用したとのこと。比較的規模の大きい住宅に使用され学校等にも使用された。

(写真・略図など)



国見石のぐし

瓦修理用の命綱

## [演習23-1]地域のお宝発見

記入者氏名		23 阿部和博	
①名称	創空間富や蔵	④用途	コンサートホール、展示会等
②所有者	安藤紀彦	⑤建築年代	明治30年
③所在地	郡山市開成二丁目481番地		
⑥構造形式 木造2階建 屋根 瓦葺き 外壁 モルタル塗 塗装仕上げ 一部下見板張り			
⑦特徴 江戸時代から酒造業を営む安藤忠助によって 郡山市中町に建てられた。米蔵として使用され、2階 に米俵を上げるための人力リフトもあった。 昭和32年 酒造場を開成の地に移し、昭和44年から45年にかけて蔵を移築した。 何とも言えない自然の音響の良さが 音楽家の耳にとまり、その後 コンサートホールとして 多く活用されている。			

(写真・略図など)



## [演習23-2]地域のお宝発見

記入者氏名		23 阿部和博	
①名称	三英堂土蔵	④用途	倉庫
②所有者	柳沼恒五郎	⑤建築年代	昭和初期
③所在地	郡山市大町一丁目6番		
⑥構造形式 木造2階建 屋根 瓦葺き 外壁 しっくい塗 一部下見板張 なまこ壁			
⑦特徴 二重屋根を思わせる重厚な造りで 縦長の窓がついていて荷物の出し入れに使用したと思われる。出入口には 雲形をあしらった鉄製鍵がついている。			

(写真・略図など)





[演習23-3]地域のお宝発見		記入者氏名	23 阿部和博
①名称	旧亀屋	④用途	旧店舗
②所有者	橋本忠吉	⑤建築年代	昭和元年
③所在地	郡山市大町二丁目		
⑥構造形式	木造2階建 屋根 トタン葺き		
⑦特徴	酒とたばこ 塩などの販売をおこなっていた。2階の正面には 連子が残っており、内部の造りも町屋の風情を十分漂わせている。		

(写真・略図など)



[演習24-1]地域のお宝発見		記入者氏名	24 熊田忠廣
①名称	城山八幡神社	④用途	神社
②所有者	不明 (守山藩)	⑤建築年代	不明 (廃城以降設立)
③所在地	郡山市田村町守山字三の丸		
⑥構造形式	木造 守山城の本丸跡地に建つ 守山城は、坂上田村麻呂が蝦夷追討の際にこの地に城を築いたとされる。 1615年一国一城令により廃城となる。本丸跡は、守山藩が城山八幡を勧請して管理する。		
⑦特徴	守山城の本丸跡に立地する神社であり、城跡が谷田川と黒石川の挟まれた立地であり、河岸段丘を利用して築かれた市内で唯一石垣のある城である。 石垣と堀跡は、平成12年度から平成15年四次にわたる発掘調査により発見される。 守山城は、古代からこの地の有力豪族として栄えた田村庄司一族の本拠地として築かれ、南北朝時代までこの地を支配する。1396年の守山城の合戦で関東公方側に敗北し陥落する。その後、三春田村氏が居城を移すまで本城となる。 守山藩は、徳川御三家の一つ・水戸の藩祖である徳川頼房の四男の松平頼元の子・頼貞が1700年に幕府より2万石が与えられ、守山に移って立藩し水戸の支藩となる。屋根に葵の御紋が掲げられている。		

(写真・略図など)



[演習24-2]地域のお宝発見

記入者氏名		24 熊田忠廣	
①名称	旧喰丸小学校	④用途	旧小学校
②所有者	昭和村	⑤建築年代	1937年（昭和12年）
③所在地	大沼郡昭和村大字喰丸字宮ノ前1374		
⑥構造形式 木造2階建て 外壁下見板張り			
⑦特徴 旧喰丸小学校は、1937年（昭和12年）に建築 1980年（昭和55年）統廃合により、昭和小学校へ統合され廃校となる 老朽化が著しく、取り壊される予定であったが、坪井 拓史監督の映画「ハーメルン」の舞台として撮影されることとなり、撮影完了まで取り壊しが延期 今年、2013年9月劇場公開 下記は、11月に撮影を行ったが、裏面に関しては屋根にブルーシートが掛けられた状況 付近の昭和村からむし交流館でのヒアリングでは、内部は危険とのこと 村のシンボルであり現存する木造2階建て校舎の存続が望まれる			

(写真・略図など)



奥会津書房



[演習24-3]地域のお宝発見

記入者氏名		24 熊田忠廣	
①名称	若関酒造	④用途	酒蔵
②所有者	山田 平四郎氏（現在6代目）	⑤建築年代	不明
③所在地	郡山市田村町谷田川字町畑113		
⑥構造形式 木造酒蔵 屋根の赤レンガ 煉瓦造の煙突			
⑦特徴 文久年間（1861年～1863年）創業 昭和36年に中通りの蔵元3社が瓶詰め部門を協業化し現在の会社形態となる。 蔵の屋根に関しては、赤瓦であり、煙突も赤い煉瓦造である。 喜多方の酒蔵と同じ特徴が見受けられるが、隣接に須賀川があり、明治42年に設立された須賀川陶瓦株式会社などで製造された可能性が高い。			

(写真・略図など)



〔演習25-1〕地域のお宝発見

		記入者氏名	25 齋藤いち子
①名称	吉五郎 屋号は當上(トウカミ)	④用途	住宅(元船主、元水産加工業)
②所有者	中田茂子	⑤建築年代	昭和5年
③所在地	いわき市江名南町		
⑥構造形式 主屋：木造2階建て 屋根：入母屋瓦葺き 軒裏：セガイ造り 外壁：漆喰塗 基礎：御影石の布石敷 土蔵：木骨2階建て 屋根：切妻瓦葺き 外壁：大谷石積み			
⑦特徴 元々は酒造業であったが、建築当時は鯉節等の水産加工業を営んでいた。船名は朝日丸で底引き漁業や遠洋漁業を行い、鯉節は天皇に献上していた。 この住宅は白水阿弥陀堂を修復していた棟梁に依頼し、造ってもらった。1階の外には建築時からの木製建具があるが、2階は東日本大震災の被害でアルミサッシに変えた。1階玄関や縁側の木製建具のデザインやガラスは建築当時のままである。仏間の天井が高く、神棚も立派である。通りに面している部分に、うだつがある。奥に木骨大谷石造の蔵がある。庭に當上稲荷がある。			

(写真・略図など)



〔演習25-2〕地域のお宝発見

		記入者氏名	25 齋藤いち子
①名称	白土邸	④用途	住宅(元船主)
②所有者	白土幸徳	⑤建築年代	昭和初期(90年以上前)
③所在地	いわき市江名字北町69		
⑥構造形式 木造平屋及び2階建て 屋根：入母屋及び切妻の瓦葺き 軒裏：セガイ造り 外壁：漆喰塗 基礎：大谷石の布石敷			
⑦特徴 先代までが船主だった。 23年前にリフォームした時に、屋根の下張が杉板で、土台が栗であったことが判明した。茶の間の大黒柱の幅が27cmで、戸棚は檜の1枚板である。玄関の檜の梁成が48cmあり、畳敷きのホールには1間巾の飾り棚がある。平屋部分の仏間と客間は天井が高く、南と東側壁の上部に明り取り窓がある。 客間の床の間の脇は縦繫丸格子のガラス戸で、元船主の家で見られる。庭には建築当時から木製の稲荷があったが、震災で壊れたので御影石で造り直した。			

(写真・略図など)



[演習25-3]地域のお宝発見

記入者氏名	25 齋藤いち子
④用途	専用住宅
⑤建築年代	大正後期

①名称	佐藤孝徳邸	④用途	専用住宅
②所有者	佐藤家親族	⑤建築年代	大正後期
③所在地	いわき市江名字北町37		

⑥構造形式  
木造平屋建て 間口7.5間 奥行5間 屋根：寄棟瓦葺き 外壁：下見板張り 基礎：御影石の布石敷

⑦特徴  
佐藤孝徳氏は平成22年に亡くなったが、元いわき市文化財保護審議会会長を務め、地域史や地域の文化を調査研究しており、内部に貴重な資料がある。現在は親族が家を管理している。  
元船主の住宅で隣に元番屋の建物がある。敷地が広く、門柱には2本の木が建てられている。東日本大震災で大規模半壊となったが、2012年に修復した。  
玄関正面の部屋に立派な神棚があり、仏壇脇には縦繁格子のガラス戸がある。内部の建具は檜の板戸や組子ガラス入りの板戸などがある。敷地の北側に木製の稲荷がある。

(写真・略図など)



[演習26-1]地域のお宝発見

記入者氏名	26 佐久間保一
④用途	社務所
⑤建築年代	江戸時代

①名称	三春大神宮社務所	④用途	社務所
②所有者	三春大神宮	⑤建築年代	江戸時代
③所在地	田村郡三春町馬場40		

⑥構造形式  
○木造2階建  
○入母屋3寸勾配、軒出2階3尺、一階広縁2尺現在はカラー鋼板横葺き。  
○基本的な構造は主屋間口5間×奥行3間に下屋が付き妻入りの玄関がある。  
○石場立て基礎

⑦特徴  
○三春藩主秋田氏の信仰を集めた神社の社務所  
○武家屋敷の特徴の式台造りの玄関を備える。  
○間口5間奥行3間の主屋に下屋として3尺の広縁を南と西に回し、後世東側に間口1間半奥行4間の下屋と北側に1間半の掛け下ろしの増築がみられる。  
○2階の東西南面に化粧付欄干が廻っている。

(写真・略図など)



[演習26-2]地域のお宝発見

記入者氏名	26 佐久間保一
①名称	太鼓堂
④用途	太鼓堂
②所有者	砂越清志
⑤建築年代	江戸時代
③所在地	田村郡三春町中町72

⑥構造形式  
 ○間口2間奥行2間半、2層寄棟造り（現在鋼板平葺き）化粧垂木現し、軒の出2尺  
 ○軒高3,700  
 ○桁の部分では2間であるが土台部分では600ほど広がっており鐘楼と同様な形式で裾広がりとなっている。

⑦特徴  
 ○藩政時代の三春城の数少ない遺構、東にあった鐘楼と対をなし、処処の連絡に使用された。  
 ○三春城の西端（現三春小学校北側）にあった建物  
 ○お城の遺構がどのような経緯で現在の民家に保存され物置として利用されていたのか、経緯も歴史として興味をそそられる。  
 ○現状は屋根を鋼板の平葺き、外壁は写真のように波板で覆われているが、修復の手を入れれば時代を感じさせる良い建物になると思われる。  
 ○反対側の山から眺めると裾広がりの良い形が見て取れる。  
 ○元の場所に移築修復すれば藩政時代の良い遺産になると思われる。

(写真・略図など)



[演習26-3]地域のお宝発見

記入者氏名	26 佐久間保一
①名称	田村大元神社社務所
④用途	社務所
②所有者	田村大元神社
⑤建築年代	江戸時代
③所在地	田村郡三春町山中23

⑥構造形式  
 ○木造平屋、入母屋造り、鋼板横葺き（3.5寸勾配程度か）軒の出900  
 ○基本的な主屋は間口7間奥行2間  
 ○玄関右側に幅3尺の広縁と北側に床の間と物入れの下屋が付く  
 ○石場立て基礎

⑦特徴  
 ○戦国大名田村氏と幕末まで三春を領した秋田氏の総藩社としての崇敬を集めた田村大元神社の社務所  
 ○武家屋敷の特徴の式台造りの玄関を備える。  
 ○伊達正宗が祭礼に来たとの記録がある。  
 ○明治12年の書類に現在の位置に社務所の図があるが現在の建物かどうか確認できず。  
 ○後世、正面左側後方に水回りを増築し一時住宅として使用された。  
 ○現在修復の計画進行中。

(写真・略図など)



[演習27-1]地域のお宝発見

[演習27-1]地域のお宝発見		記入者氏名	27 佐藤信一
①名称	岡部邸	④用途	住宅（農家）
②所有者	岡部信雄	⑤建築年代	100年以上（持主より）
③所在地	岩瀬郡天栄村大字上松本字男神屋敷5		

⑥構造形式  
木造平屋建ての寄せ棟形式の茅葺き屋根に鋼板を葺いている。  
内部の柱にはケヤキ材が使用されている、  
壁：土壁仕上げとなっている。（建設当時の状況が残っている。）

⑦特徴  
主によると江戸時代の建物との話であったが、近隣の人の話によると昭和初期ではないかとの話が聞けました。豪農の家であった建物で会津方面の大工さんによる建築との話でした。  
軒の化粧垂木が放射状に作られていました。  
屋根裏には一部部屋がありました。  
近隣に同じ大工さんによる建物（医院）があったが、現状では解体済みとなっていた。かなり贅沢な建物であったようである。

(写真・略図など)



[演習27-2]地域のお宝発見

[演習27-2]地域のお宝発見		記入者氏名	27 佐藤信一
①名称	佐野屋	④用途	大橋商店（現、雑貨店）
②所有者	大橋史和	⑤建築年代	昭和初期（持主より）
③所在地	須賀川市東町31番地		

⑥構造形式  
木造2階建ての寄せ棟形式の建物である。現在は瓦葺きとなっている。  
内部に一見すると蔵座敷のな作りに見えました。  
壁：土壁仕上げとなっている。（建設当時の状況が残っている。）  
東日本大震災で柱脚がずれて開いた状態を修復したとの話でした。

⑦特徴  
持主に話を聞きましたが、あまり話しては頂けませんでした。（文化財の指定はいやです、との事）  
建設当時から商店として営業していた建物でした。  
裏に土蔵がある。（今回の地震でかろうじて倒壊を免れ、補修を行った。）

(写真・略図など)



## [演習27-3]地域のお宝発見

[演習27-3]地域のお宝発見		記入者氏名	27 佐藤信一
①名称	富商(南)	④用途	住宅(農家)
②所有者	石井敬三	⑤建築年代	100年以上(持主より)
③所在地	須賀川市諏訪町24番地		

## ⑥構造形式

木造2階建ての入母屋作りの建物で現在は鋼板葺きとなっている。  
道路側は商店のな作りとなっている、裏側は天井が高く勇壮な作りの内部となっていた。  
壁：土壁仕上げとなっている。(建設当時の状況が残っている。)

## ⑦特徴

持主に話を聞こうとしたが、あまり話しては頂けませんでした。(文化財の話には敏感でした。)  
いろいろと聞いて回りましたが、確かな話は聞けませんでした。  
(おそらく、当時は庄屋さんではなかったかとの話でした。)  
神社の門前にあり、当時の一等地に建つ建物であったと思われます。

(写真・略図など)



## [演習28-1]地域のお宝発見

[演習28-1]地域のお宝発見		記入者氏名	28 澤崎幸史
①名称	安齋土蔵	④用途	土蔵(民家蔵)
②所有者	安齋芳夫	⑤建築年代	明治8年頃(1875)
③所在地	田村郡三春町上舞木大峯67		

## ⑥構造形式

木造2階建て 間口3m×奥行5mの 切り妻屋根瓦ぶき 妻入り。屋根はさや組み(置屋根)である。  
外壁：土壁(黄土塗り)・上部及び腰壁漆喰塗  
2階室内の屋根裏を見ると普通の小屋組みに野地板が張っており、一般の和風小屋と変わらないが、野地板の上に外壁と同じ厚さの土が載せてあり、その上に置屋根を組み、瓦屋根を葺いている

## ⑦特徴

建築年代は明治8年頃、所有者の安齋のご先祖(12代 安齋如七…家系図による)は地元の大工であり、周辺の住宅、蔵等多数を手掛けていた。壁の「折れ釘」が下向きに取り付けられている。  
これは暴風吹上力に対する置屋根の引付のためのフックであろう。  
開口部は2箇所あり、出入り口と2階の小窓と共に土戸で防火性能を持つ。1階入口引戸は3重になっていて、防火扉の土戸、施錠可能な板戸、日常用格子戸が1枚である。出入口の庇の「持ち送り」も漆喰で造形されている。2階の階高はやや低いので、歩行時の頭上スペース確保のため、やや曲りの強い太鼓梁を採用している。階段は造りつけ箱階段である。

(写真・略図など)



[演習28-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	28 澤崎幸史
①名称	香久山神社	④用途	神社
②所有者	鈴木紀光（宮司）	⑤建築年代	明治29年頃（1896）
③所在地	郡山市小原田4-3-15		

⑥構造形式  
木造平屋建て拝殿 間口5間×奥行2.5間の 入母屋流れ造り銅板ぶき。平入り、3方濡れ縁有。  
外壁:板張り  
・蝦虹梁端部に狛犬・向拝上部桁に龍、桁端部に象、牡丹の彫刻あり。

⑦特徴  
建築年代は明治29年頃、内部には当時の小原田村の絵地図や日露戦争出征者の写真、出征時奉納の絵馬が収められています。御祭神：大綿津見命、誉田別尊  
付属建物の神楽殿では毎年4月8日の春祭りに香久山神社に伝わる神楽「岩戸舞」が奉納されます。  
第二次世界大戦時の爆撃により、柱に爆裂弾の弾痕が残る。  
俳優の西田敏行氏が昭和20年代、この神社の社務所を改築した一軒家で小学校二年～中学卒業までの間を過ごしたのだとか。参道右手にある手水舎は昭和初期に建立したようである（宮司）。

(写真・略図など)



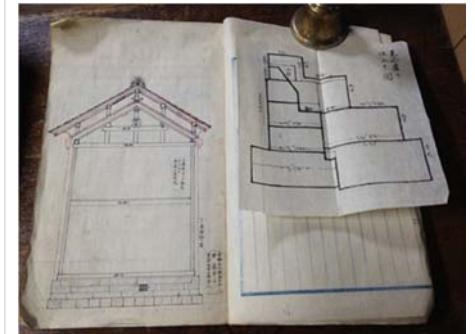
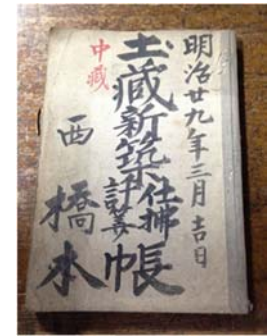
[演習28-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	28 澤崎幸史
①名称	西いせや	④用途	質店
②所有者	橋本謙一	⑤建築年代	明治29年頃（1896）
③所在地	郡山市中町7-2		

⑥構造形式  
木造2階建て 土蔵 間口約12.5m×奥行約5.4m 瓦葺き切り妻・平入り。 外壁:土壁に漆喰塗  
3.11震災により北側の土壁が崩落。現在は防火サディングが張られている。（隣の土蔵と連結）

⑦特徴  
明治29年 2代目橋本藤左衛門が創建した。棟梁は柏原要市（棟木と帳簿による）  
古くからこの地で呉服屋を営んでいて、その中蔵であった。現当主（橋本謙一さま）は6代目に当たる。  
現在は質店として活用。棟梁直筆らしき図面、日報、出納帳等の帳簿も残っている。

(写真・略図など)





[演習28-4]地域のお宝発見

記入者氏名	28 澤崎幸史
①名称	鈴木邸 民家+土蔵
④用途	民家+土蔵
②所有者	鈴木二郎
⑤建築年代	明治37年頃 (1904) 土蔵は明治20年頃
③所在地	郡山市白岩町字館185

⑥構造形式  
木造平屋建て 間口9.5間×奥行4.5間 入母屋 茅葺屋根の上にカラー鋼板を被せています。越屋根部分は今なお囲炉裏を使用しているための煙抜きである。丸太小屋組み、平入り。外壁:土壁 (黄土塗り壁・竹木舞下地) 付属木造2階建ての土蔵 間口7m×奥行4.5m カラー鋼板葺き 切り妻、置屋根・妻入り。

⑦特徴  
建築年代は明治37年頃、隣地 (東隣) からの貰い火により全焼後、中古民家を移築してきたという。幸いにも土蔵は火災の延焼を免れ、当時の火災による焼け跡が残る。民家は屋根に板金葺を追加した以外はほぼ創建当時のままであり、現在も囲炉裏を使用している。中央が土間、西側に納屋兼作業場として、小屋裏で養蚕。東側に居間仏間と続き間として寝床がある。

(写真・略図など)



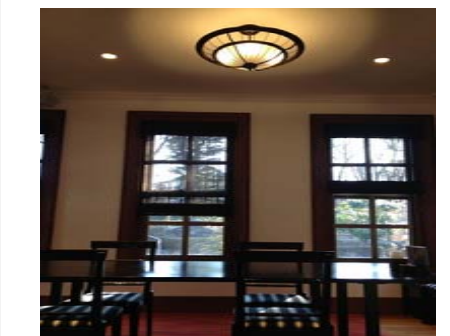
[演習28-5]地域のお宝発見

記入者氏名	28 澤崎幸史
①名称	和(なごみ)一席成庵
④用途	日本料理店
②所有者	アルファクラブ株式会社
⑤建築年代	明治2年頃着工 (1869)
③所在地	郡山市深沢2-1-7

⑥構造形式  
木造2階建て 間口約29m×奥行約14mの寄棟 (越屋根有)・平入りカラー鋼板葺き 外壁:板張り 内部には檜の尺柱、檜の大梁現し (梁成は大きいもので53cm)等、ほとんどが檜の材料である。

⑦特徴  
郡山市熱海町石筵にあった後藤家住宅を移築したものです。石筵地区は戊辰戦争の戦場ともなりましたが、開墾・牧畜事業によって築かれた地域です。昭和47年10月23日付「明治中期の建築、豪農洋風民家の代表」として郡山市重要文化財に指定されていたが、昭和58年転売 (※郡山市重要文化財の指定から除外)この地に移築されました。酒蓋公園に隣接しているので松林の中にひっそりと佇む。建築年代は明治2年頃、当時の当主「後藤平十郎」によって建立。内部は檜の構造材・小屋組現し、建具も檜の板戸や組子格子の建具が残る。洋間には蛇腹漆喰造形の廻縁、蛇腹造形の化粧額縁が残されている。現在は日本料理店として営業中。

(写真・略図など)



[演習29-1]地域のお宝発見		記入者氏名	29 幕田宙晃
①名称	郡山聖ペテロ聖パウロ教会	④用途	教会
②所有者	越山健蔵	⑤建築年代	昭和6年（1931年）
③所在地	郡山市麓山2-9-23		
⑥構造形式 設計者・施工者：不明 鉄筋コンクリート造平屋建て（塔屋付き） 屋根：木造トラス切り妻 金属板葺き 外壁：石造風吹き付け塗層仕上げ 内壁：漆喰仕上げ			
⑦特徴 郡山聖ペテロ聖パウロ教会は昭和6年（1931）に建てられた近代建築です。当時としては珍しい鉄筋コンクリート造の教会です。3階建ての塔屋を棟統で持っており、ゴシック風のその佇まいは非常に印象に残る景観となっています。平面計画や外部に柱を張り出したり、主要出入口や窓の上部を曲線にするなど昭和7年（1932）に建てられた能代キリスト教会（秋田県能代市）とほぼ同じ形態をもっていて、当時の日本聖公会の教会建築の典型だったと思われます。内部に入ると、漆喰仕上げの壁に木造トラスや木建具が映え、魅力的な建築空間になっています。			
(写真・略図など)			
			
			

[演習29-2]地域のお宝発見		記入者氏名	29 幕田宙晃
①名称	比内やサスケ 郡山本店	④用途	現在：店舗（当時：蔵）
②所有者	いわた園茶舗	⑤建築年代	明治20年頃
③所在地	郡山市中町7-19 いわた園ビル 別棟		
⑥構造形式 設計者・施工者：不明 木造2階建て 屋根：浅瓦葺き 外壁：漆喰仕上げ 一部なまこ壁			
⑦特徴 明治20年頃建てられた、白塗りの壁面に瓦屋根の土蔵造りの蔵が二連繋がっています。大正・昭和初期の商家の面影を偲ばせながら、その建物はその場所に、今は店舗（飲食店）として現存しております。白壁となまこ壁のコントラストも非常にきれいで、痛みも少なく、丁寧に使われて来たことが非常に解ります。そのアプローチも石畳が残り、芭蕉小路と命名され、昔懐かしい路地を形成した趣のある佇まいになっています。 内部は店舗として若干改造され、そこには内産の80年～100年の年輪を重ねた「赤松」が使用されており、ノスタルジックな空間を演出しています。			
(写真・略図など)			
			
			

[演習29-3]地域のお宝発見

[演習29-3]地域のお宝発見		記入者氏名	29 幕田宙晃
①名称	本町一丁目の民家	④用途	住宅
②所有者	山田 静子	⑤建築年代	木造部：昭和初期 RC部：昭和36年（1961年）
③所在地	郡山市本町一丁目13-7		

⑥構造形式  
 設計者・施工者：不明  
 木造部：木造2階建て 屋根：銅板葺き（震災により瓦葺きより葺き替え）  
 外壁：杉板貼り 一部漆喰塗り  
 RC部：鉄筋コンクリート4階建て（塔屋付き） 外壁：石目調吹き付け塗層仕上げ

⑦特徴  
 石堀と黒い板塀に囲まれた住宅群。昭和初期の木造建築と、近代建築の象徴でもある鉄筋コンクリート造建築が一体となった興味ある建築物であります。主屋である木造部分は須賀川にあったものを昭和18年に移築したもので、その後、昭和36年に鉄筋コンクリート部分の建物が増築されました。郡山では随分早い次期からのエレベーター付きの建物だったため、竣工当時は新聞社が取材に来たりしました。しかしながらそのエレベーターが、二方向に開く設計だったため、竣工時に許可がおりなかったと言う逸話も持っています。震災で多少の影響もありましたが、今後、将来に渡って残しておきたい建築物です。

(写真・略図など)



[演習30-1]地域のお宝発見

[演習30-1]地域のお宝発見		記入者氏名	30 宗像智加枝
①名称	積口家住宅	④用途	住宅
②所有者	積口顕信	⑤建築年代	江戸時代（文久3年以前）
③所在地	郡山市小原田4-10-9		

⑥構造形式  
 木造平屋建、一部二階建て、茅葺き屋根 玄関部分は軒に唐破風、懸魚

⑦特徴  
 現存する家相図（文久3年、1868年）により、おそらく創建当初の遺構が現在も確認できる。それによれば、当時の名主住宅としては珍しく、この地域の民家のスタイルではなく、武家屋敷の造りであることがわかる。  
 門構え、馬を繋ぎ、付人の待合、また、玄関、上段の間などは当初のままの部分が残されている。しかしながら、東日本大震災の被害により、全壊判定を受け、確認できない部分もあるが、小さな改造（雨戸、サッシなど）は、外からも確認できる。  
 明治初期に積口桃翁によって、茶室が3箇所造られたとのことである。家相図と若干異なるが、その部分の外形は現況と変わらない。その後、構造はそのままにしてリフォームされ、茶室は残っていない。  
 敷地の周囲にはかつては土堀がめぐらされていたが、一部残っていた部分も、震災で倒壊。  
 門は、写真で記録されているものが、当初のものであり、木羽葺きから瓦に吹き替えられ、さらにその後、現況の門に造り替えられたが、当初の基礎石が残されている。

(写真・略図など)



[演習30-2]地域のお宝発見		記入者氏名	30 宗像智加枝
①名称	積口家土蔵	④用途	土蔵
②所有者	積口顕信	⑤建築年代	明治3-7年
③所在地	郡山市小原田4-10-9		
⑥構造形式 土蔵造り 外壁吹き付け 瓦葺屋根 間口4500x奥行5400(外形)			
⑦特徴 東日本大震災により被害を受け、外壁の漆喰が剥落、鉢巻、腰ともにモルタル・吹付けで補修、基礎周りも補強済み。 内部は、二階建てになっていて、入口の左に階段があり、2階妻側の開口は右側に少しずれている。ほぼ当初のままと思われるが、壁床ともに板張り、地震の被害はほとんど無かったようである。 棟礼には棟梁宗形彦八、石工高田市右衛門、左官池田惣介とある。県重要文化財でもある疑洋風建築、開成館（明治7年）に携わった地元の大工と同一人物であると思われる。 さらに、疑洋風建築、金透小学校の記録にも同じ名前が見られる。			

(写真・略図など)



[演習30-3]地域のお宝発見		記入者氏名	30 宗像智加枝
①名称	街こおりやま社事務所	④用途	事務所
②所有者	佐藤公子	⑤建築年代	明治18年
③所在地	郡山市清水台1-1-38		
⑥構造形式 土蔵造り、妻小屋組、二階建て、瓦葺き屋根、外壁モルタル塗り 間口5030x奥行10000+玄関部分4770x1400が付随			
⑦特徴 現在この土蔵を拠点に活動しているタウン誌「街こおりやま」の編集長の話によれば、十字屋書店（阿久津藤七）が、明治18年に建設。その後長尾葉局（長尾重延）購入。郡山川柳会の本拠地として、改造し川柳会館として使用。一般にも開放し、昭和32年11月には県南俳句大会が開催された(郡山市史第6巻第3編第6章)。しかし後継者がなく隣人の近江屋（佐藤恵一）購入。一時は菓子店の店舗としていたが、自宅とも東日本大震災の被害を受けやむなく休業。 修復後、現在は若干のリフォームを加えて事務所として活用している。 モルタル壁には時代を経てひび割れの補修跡もあるが、川柳会館の文字が残っている。木製の開き扉に、網戸、鋼製の雨戸が設けられている。内部は二階の団子付けの後、返しをしないままの土壁（当初のまま）、美しい漆喰壁（木摺下地）レリーフのある天井もへアクラック程度で無事であった。 一階は店舗として使用したこともあり、モルタル床に合板の壁、キッチン、トイレなどリフォームされているものの、改装時の入口のタイルや、両側に引き分けるガラス引き戸、階段などが残っている。			

(写真・略図など)



[演習31-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	31 山野辺龍介
①名称	滝田家旧診療所件母屋	④用途	旧診療所件住宅(母屋)
②所有者	滝田之男	⑤建築年代	明治17年ごろ
③所在地	岩瀬郡鏡石町仁井田22		

⑥構造形式  
木造2階建て一部小屋裏三階で伝統建築式(貫工法、土壁漆喰仕上げ)  
基礎置き石敷き、寄棟屋根現在陶器瓦、規模1階約奥行6間幅11間

⑦特徴  
聞き取りから滝田家は代々医者の一家で明治初期に初代滝田良甫氏により現建物の東側に診療所を開設ののちに解体移築、この建物は二代目滝田貫之氏により明治17年ごろ診療所件母屋住宅として建て南東側に米蔵(土壁漆喰作)、西側に味噌蔵(土壁表し作)の配置になっていて今回の3.11震災では良好地盤により無被害に近い屋根は当初栗板小端葺きで昭和30年にセメント瓦に葺き替え昭和60年に現在の陶器瓦に葺き替えた。基礎は白河石か須賀川石の三段敷き積で壁は当初土壁表し仕上げが一般的で昭和期に漆喰仕上げにした。内部は全体に昔からの田の字設計で当初玄関を入ると西側(左側)に診療所で正面に囲炉裏のある待合室であった、現在は応接間になり正面は神棚付の畳敷きホールのように使っている。中央に仏間があり東側に床の間付八畳二間続き室で二階にも書院作り床の間付八畳二間続き室や別に床の間付八畳室などがあり小屋裏三階は昭和初期に養蚕の時期があり今でも三階にはその名残がある。材料は柱が杉で無節柱が多く梁は地松のようである、化粧野地板は栗で各室全て畳敷きである。この建物群は昔からのお医者の家として地域の景観にとって重要な建物の一つである。

(写真・略図など)



[演習31-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	31 山野辺龍介
①名称	滝田家旧診療所	④用途	診療所
②所有者	滝田之男	⑤建築年代	大正15年
③所在地	岩瀬郡鏡石町仁井田30		

⑥構造形式  
木造平屋建て寄棟屋根、幅10間\*約奥行5間、伝統工法の貫土壁で外壁が杉下見板張上部漆喰仕上げ。基礎は白河石のような二段敷石で屋根がセメント瓦である。

⑦特徴  
聞き取りから滝田家第三代目滝田中節氏により大正15年から昭和43年までこの地域の唯一の診療所として使用されていたが現在は滝田家の遺産として放置してある。外観は屋根が寄棟セメント瓦葺きで壁が真壁の貫土壁に杉板張りで玄関の作りから窓の配置のどこから昔の木造小学校を思わせる大正時代の趣を残している。内部の材料、作りは時代の背景からあまり良くないが柱は杉で真壁漆喰仕上げ腰杉板張、床は板張りで天井も竿縁杉板仕上げが多く当時としては高級なつくりであったと思う。室配置は玄関を入ると待合室で右側に受付薬局室、左側に裏廊下を通して診察室が三室あり待合室と受付薬局室の後ろには床の間付和室や台所等が配置してあり現在放置してあるのでかなり荒れている。今回の3.11震災では地盤が良かったせいほとんど被害が無くこの地域の大正ロマンを思わせる文化的象徴の建物として認知されている。

(写真・略図など)



[演習31-3]地域のお宝発見		記入者氏名	31 山野辺龍介
①名称	東福寺本堂	④用途	お寺
②所有者	縫 昌弘	⑤建築年代	約1564年(450年前)
③所在地	石川郡玉川村南須釜字久保宿70		
<p>⑥構造形式                      屋根は寄棟作りで鎌倉時代の式に近く当初は茅葺であったが昭和初期に銅板葺きに改装した。                      垂木二重軒で五尺ほど出ている。                      平面配置は真言宗の基本的配置で正面中央より向拝、外陣、内陣で両脇に脇陣が配置されている。</p>			
<p>⑦特徴                      開祖は真言宗で約1200年前、鎌倉時代に作られたが火災により450年前に再構築されて当初の形態をそのまま作ったと見られる。                      屋根、壁、床は改修を重ねてきているが基礎、柱、梁等は当時のままで内部の板建具には絵図が残っていて当時の中心的地域の拠り所として栄えていた。                      中央右側の写真は薬師堂から本堂の眺めでその右側には樹齢約400年の銀杏の木がそびえて幻想的な雰囲気を出している。                      右下の写真は寛延元辰(1748年)ごろからの東福寺発祥で南須釜念仏踊りを7~12才の少女20名ほどで毎年8月14日に新盆の家々を廻るお祭りが有名で重要無形文化財にも指定されている。                      この本堂は歴史上も地域の霊場としても重要視され今後の保存継続に苦慮している現状です。</p>			
(写真・略図など)			
			
			

[演習32-1]地域のお宝発見		記入者氏名	32 若杉繁雄
①名称	一の屋酒店	④用途	住宅兼店舗
②所有者	佐藤正弘	⑤建築年代	昭和7年
③所在地	須賀川市長沼金町66		
<p>⑥構造形式                      木造2階建て 切り妻屋根銅板葺き 間口6間半奥行10間半 外壁御影石洗い出し仕上げ                      店舗部分煉瓦張り</p>			
<p>⑦特徴                      昭和7年に建てられ。当初は瓦葺きであったが、7年前銅板に葺き替えました                      造り酒屋で昭和30年代まで造り、その後委託造りであったが福一力といえば地元から県外まで親しまれていたようです。内部も相当 檜とか多数使用されていました。震災前までは蔵が多数あり現在は3階蔵が、1棟残っています。                      元々長沼は左官職人が多い町でした、外壁御影石洗い出しが80年前ほぼ変わらず残っているのは、練り合わせ技術が高かったのと、下地構造が熟練工の表れが、現存している、これからの外壁を、考えるためにも、保存していきたい建物です。</p>			
(写真・略図など)			
			
			

[演習32-2]地域のお宝発見		記入者氏名	32 若杉繁雄
①名称	石背国造神社	④用途	神社
②所有者	磐瀬倫雄	⑤建築年代	昭和初期
③所在地	須賀川市長沼豊町41		

⑥構造形式  
 拝殿：破風入母屋造り 社殿：神明造り 間口8間 奥行3間 社殿間口3間奥行2間  
 屋根：銅版葺き 外壁：杉板 社殿外壁：ケヤキ 基礎：敷石高床式

⑦特徴  
 明治後期長沼大火で焼失した昭和初期の建築ですが、向拝の唐破風が一般には軒桁を一段下がるのに対して入母屋桁と同じ高さでもっているのが、爽快さ解放感があり、他にはあまり見られない唐破風に波の懸魚を取り付け、虹梁、木鼻でバランスを保っている。  
 社殿は総ケヤキ棟持ち柱以外も全て丸柱、拝殿柱ケヤキ内部；外部にも地元岩瀬赤松が多数使用されている職人の木の狂いのない使い方これからの伝統技術者の大変参考になる建物であります。

(写真・略図など)



[演習32-3]地域のお宝発見		記入者氏名	32 若杉繁雄
①名称	星悠紀雄邸	④用途	専用住宅
②所有者	星悠紀雄	⑤建築年代	明治後期
③所在地	須賀川市長沼豊町31		

⑥構造形式  
 木造2階建て入母屋造り 日本瓦葺き 間口8.5間 奥行7.5間 下野部分カラー鋼板葺き  
 外壁リシンかき落し 北 西リシン吹付 基礎は地元敷石に直接土台を取り付けている

⑦特徴  
 昭和初期に建てられ、約50年前屋根改修され軒裏垂木が二重垂木、軒の出1500位出しており、軒先の曲線造りが施工技術の高さがあり、瓦割り付けとみのこ葺きに苦心が読み取れます  
 3代前は獣医をされていたようです。内部も通柱多数使用され、耐震性を上げるのに根固め框で根本を強固にし、2階階高を低めにして居室天井高さ2200位ですが和室は天井高2700位にとり、設計の苦心のおかげで震災では棟瓦が少し落ちただけで被害が少なく、構造技術を考えるためにも保存していきたい建物です。

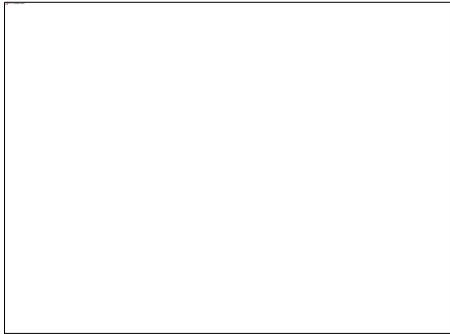
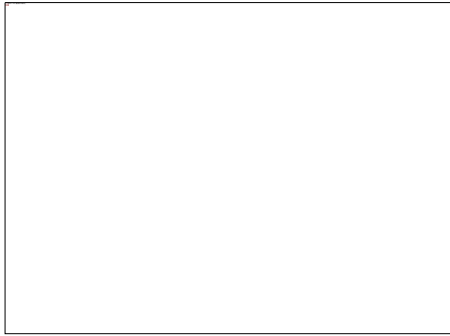
(写真・略図など)



[演習33-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	33 白岩優一
①名称	稲荷大明神 (権兵衛稲荷)	④用途	神社
②所有者	官有地 白河市九番町町内氏子	⑤建築年代	本殿：嘉永年間再建(1850年) 拝殿：大正年間改建 覆屋：昭和57年
③所在地	白河市九番町 内		
⑥構造形式 本殿：流造り 銅板葺き 桁行0.51m×梁間0.43m 円柱間横板壁 拝殿：入母屋造り 銅板葺き 桁行4間×梁間2間 覆屋：入母屋造り			
⑦特徴 本殿は延暦八年(789)祭神蒼(うかの)稲(み)魂(たまの)命(みこと) 紀州和歌の浦から勧請し、流(ながれ)造り、銅板葺き、軒先二重繁垂木、破風、懸魚(げぎょ)、虹(こう)梁(りょう)、大瓶束藁(かえる)股(また)、向拝欄間の竜や農耕の作物等の彫刻がすばらしい。また、拝殿の彫刻も同様にすばらしい。 明治2年12月稲荷神社と改称する。			

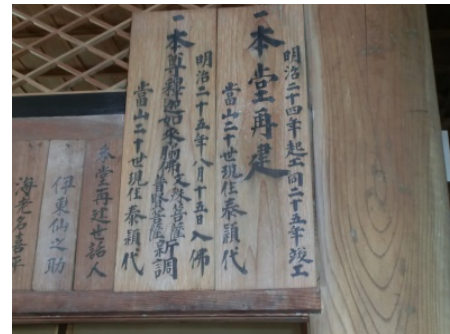
(写真・略図など)



[演習33-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	33 白岩優一
①名称	東谷山大龍寺	④用途	寺院
②所有者	法人大龍寺	⑤建築年代	明治25年
③所在地	西白河郡西郷村大字羽太字狸屋敷164		
⑥構造形式 土蔵 平屋寄棟造り 屋根長尺カラートタン			
⑦特徴 1464年、安良田勘解由寺窪(現・安良田)に長福寺を開基する。1715年(享保)長福寺を大龍寺と改める。既存の本堂は戊辰戦争にて焼失したが、明治25年(123年前)に現在の場所に再建した。地震により内部の壁が落ちたが平成23年に修復した。 戊辰戦争時、このお寺の近くで千葉周作の高弟森要蔵が争い散った現在はこの寺のお墓地に眠っている。本堂正面に大間、須弥壇と東自西自対象に畳間、内自1室と小葉1室がある。本堂内には、中央に釈迦牟尼佛、右に文殊菩薩、左に普賢菩薩があり、本尊佛、木造地藏菩薩【天正年代】(焼失を免れた)、木造観世音菩薩、平和観音菩薩(太平洋戦争で亡くなった人を弔う為に作った【寄贈】)、松平定信公より寄贈の鐘も残っている。			

(写真・略図など)





【演習33-3】地域のお宝発見

		記入者氏名	33 白岩優一
①名称	八雲神社	④用途	神社
②所有者	官所有地社有財産	⑤建築年代	勸請年代不詳
③所在地	白河市字米山越		

⑥構造形式  
入母屋造り

⑦特徴  
 神殿：桁行1.5間×梁間1間  
 拝殿：桁行5間×梁間2間  
 祭神：素戔鳴(すさのお)尊(みこと)

神号天王宮明治2年11月に八雲神社と改称する。  
 午頭(ごず)天王(てんおう)宮(みや)のとき(鎮座の年歴不詳)、元禄中に疫病が流行して死するもの多し時、修験者が祈念したことから、ご利益があると伝えられる。

(写真・略図など)



【演習34-1】地域のお宝発見

		記入者氏名	34 諏江俊一
①名称	薄井家住宅	④用途	住宅
②所有者	薄井惣吉	⑤建築年代	蔵 1888年(明治21年)
③所在地	白河市田島字松葉3		

⑥構造形式  
木造 2階建9間 x 5間 入母屋屋根棧瓦葺き 煙出し屋根有 外壁 漆喰塗

⑦特徴  
 ・薄井家は現当主で12代目を数える。江戸時代からこの土地で農業を営んできた旧家である。屋号は松葉である。  
 ・この住居は8代目の惣七氏によって建てられた。隣の蔵には1888年(明治21年)の棟札があり、住居はそれより古いと考えられる。越後の大工によって建てられたとされ、近隣には他に2件同じ棟梁によって建てられた住宅が残っている。  
 ・この住居は昔養蚕を営んでいた名残として中2階がある。瓦は白河地方によく見られる須賀川産の赤瓦が使用され煙出し屋根を有している。煙出し屋根の前には魔よけの土偶がある。

(写真・略図など)



[演習34-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	34 諏江俊一
①名称	本家 富川屋染物店	④用途	店舗兼住居
②所有者	須藤 宏	⑤建築年代	1833年（天保4年）
③所在地	白河市新蔵町33		

⑥構造形式  
 店舗 木造 平屋建7.5間 x 3間 切妻屋根棧瓦葺き 外壁漆喰塗 一部波板鉄板張  
 土蔵 倉庫蔵 5.5間 x 3間 蔵座敷4間 X 3.5間 切妻屋根棧瓦葺き 外壁漆喰塗 一部波板鉄板張

⑦特徴  
 ・本家富川屋染物店は 須藤卯八郎氏によって創業され 現当主で16代目を数える。松平定信公が白河藩主の時に作成された奥州白河城下絵図には富川屋染物店が記載されており、藍染を納めていたとされる。  
 ・通りに面して切妻・平入の伝統的町屋建築の店舗、その隣には倉庫蔵と倉庫蔵の奥には蔵座敷があり店舗の奥には住居、中庭がある。店舗の特徴は玄関を挟んで両脇には全面格子を設け軒はせがい造りとなっている。倉庫蔵には天保4年（1833年）の棟札が残っている。

(写真・略図など)



[演習34-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	34 諏江俊一
①名称	月よみの庭 蔵座敷	④用途	蔵座敷
②所有者	金澤裕史	⑤建築年代	明治中期
③所在地	白河市天神町10		

⑥構造形式  
 土蔵 2階建 5間 x 2間 切妻鉄板屋根 外壁漆喰塗 一部下見板張

⑦特徴  
 ・この蔵は屋根が木造架構となっている。所有者が2回変わっているため年代が特定しにくいですが、白河の蔵の場合白河駅の開業後機関車の火の粉で置き屋根の蔵が火災にあい、その後土葺きの瓦屋根の蔵が多いことを考えると、それ以前の明治中期の建物と考えられる。増築された部分には昭和7年の新聞が貼ってあるので、その頃増築されたと思われる。  
 ・当初は昭和恐慌（1930年頃）で潰れた不動産業の大棚の持ち物であった。10年前に金沢氏の所有になり改装され展示場等に利用されている。内部はあまり使用されていなかったようで、木材も100年以上たったようには見えない。  
 ・金澤氏が建物を購入した時は現在「月よみの庭」と命名された石庭部分には蔵があったが現在は取壊されている。旧奥州街道の交差点に位置し蔵の前には月よみの庭が配置され遠くからでも目立ちます。年2回開催される蔵ウォークでも集合写真の撮影場所にも利用しています。景観上も重要な歴史的建造物と思います。

(写真・略図など)



## [演習35-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	35 鈴木茂久
①名称	万持寺庫裡	④用途	庫裡
②所有者	添田恭道	⑤建築年代	昭和9年以前
③所在地	白河市巡り矢65		

## ⑥構造形式

木造2階建て約50坪 入母屋瓦葺き屋根、化粧垂木 外壁：木板張り（一部漆喰壁）

## ⑦特徴

正確な建築時期は不明であるが、昭和9年以前に白河の円明寺（えんみょうじ）地内にあった料亭を、解体移築したのが昭和9年11月14日の日付で棟札に残っている。

1、2階に広間があり、特に2階は以前、襖で仕切られた3部屋続きで、全体で3間×6、5間の大広間となっている。中には書院がしつらえてあり、当時の料亭の趣を残している。また東側廊下には掃出しの木製ガラス建具が嵌められており、そこを開けば手すり越しに中庭を望むつくりも料亭らしい雰囲気を出している。その廊下には約8間の丸太の桁が通っている。欄間飾りには黒柿が使われている。

(写真・略図など)



## [演習35-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	35 鈴木茂久
①名称	遠藤家住宅	④用途	住宅
②所有者	遠藤家	⑤建築年代	不明
③所在地	白河市東下野出島地内		

## ⑥構造形式

木造平屋建て約70坪 入母屋屋根茅葺の上金属瓦葺き 外壁：真壁漆喰塗り

## ⑦特徴

正確な建築時期は不明であるが、3代前の主により今から120～130以前に建てられたものと思われる。元々茅葺屋根で、24～25年前に茅を葺き代えたが、雨漏れが防げず今の金属瓦をその上に葺いている。その後、雨漏れは防げたが、虫が湧き、落ちてくることもあり、茅葺屋根の維持保全の難しさを物語っている。屋根を見上げると、軒先には建設当時の茅とその後葺き代えた茅と2段になっているのがわかる。

以前あった雨戸の戸袋には2段の化粧垂木をしつらえた飾り屋根が残る。室内は田の字型プランで、玄関には土間が残り、以前は囲炉裏があった部屋は改装され、小屋梁を残し吹き抜けとした空間が玄関の間としての主のこだわりを見せている。

(写真・略図など)



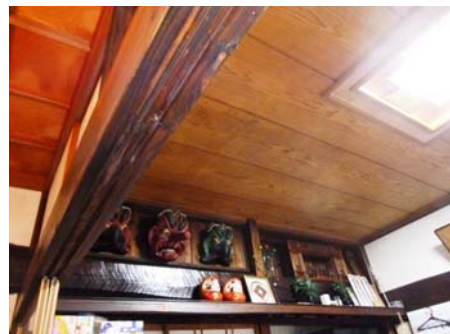
[演習35-3]地域のお宝発見

記入者氏名	35 鈴木茂久
①名称	鈴木家住宅
④用途	住宅
②所有者	鈴木家
⑤建築年代	不明
③所在地	白河市東上野出島地内

⑥構造形式  
木造平屋建て約35坪 入母屋屋根、茅葺の上金属瓦葺き 外壁：真壁漆喰塗り（一部サイディング）

⑦特徴  
正確な建築時期は不明であるが、今の主で37代目であり、33代～36代の主の肖像画が掲げられていた。その33代の鬘を結った主が建てたと思われる。そこからも江戸時代末期150年以上は経過していると思われる。昭和38年ごろの写真を見比べると、そこには立派な門構えと共に、広い庭の中に茅葺屋根の住宅が写っている。屋根の中心には煙抜き小屋根がのっている。この鈴木家はかなりの土地を有した庄屋であつたらしい。  
時代の変化とともに、あちこち手を加えており、昔からのたたずまいは田の字型プランと要所、要所の太い柱や梁などの部材に残されている。大きな神棚には古いお社と共に、天狗の面や大きな仏壇を供えた居間は、代々続く家系の信仰心の表れであり、長く続く家系の在りを見せられた気がする。

(写真・略図など)



[演習36-1]地域のお宝発見

記入者氏名	36 鈴木節夫
①名称	澤野邸造り店舗住宅
④用途	店舗・住宅
②所有者	澤野
⑤建築年代	明治20年
③所在地	白河市道場小路

⑥構造形式  
木造・土蔵造

⑦特徴  
白河の商家。建設当時の形がそのままの形で現存。蔵造りの座敷が2棟、穀物蔵2棟が同一敷地内に現存する。

(写真・略図など)



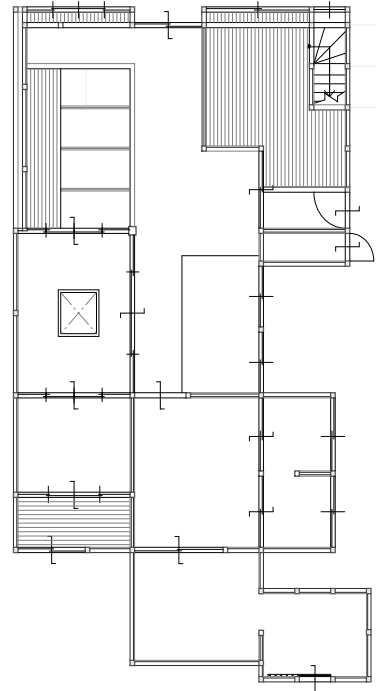
[演習36-2]地域のお宝発見

記入者氏名	36 鈴木節夫
①名称	大野染物店
④用途	店舗・工房・住宅
②所有者	大野
⑤建築年代	明治初頭
③所在地	白河市新蔵町

⑥構造形式  
木造2階建て

⑦特徴  
白河の街区を形成する代表的な妻入形状の店舗。  
作業場部分は土蔵でできている。  
当時は西側駐車場部に土蔵があり、店舗と併設していた。

(写真・略図など)



[演習36-3]地域のお宝発見

記入者氏名	36 鈴木節夫
①名称	清光寺
④用途	寺本堂
②所有者	清光寺護寺会
⑤建築年代	明和5年(1768年)
③所在地	白河市田島黒谷

⑥構造形式  
木造平屋

⑦特徴  
曹洞宗の寺本堂。  
東正面の間口8.5間×梁間6.5間建物。屋根：茅葺を昭和35年頃に瓦葺きに改修。さらに昭和60年に現在の銅版葺きに改修し現在に至る。軸組は建設当初のまま、手を加えていない。  
白河結城氏の菩提寺で、結城廣堯の墓所がある。

(写真・略図など)



[演習37-1]地域のお宝発見		記入者氏名	37 荒川 浩
①名称	鶴城小学校赤煉瓦塀	④用途	小学校の塀
②所有者	会津若松市	⑤建築年代	大正10年頃
③所在地	会津若松市東栄町7番地 地内		
⑥構造形式 組積造一赤煉瓦			
⑦特徴 平成26年度から、2年間の予定で鶴城小学校が改築される。既存の鉄筋コンクリート造3階建の校舎はすべて解体されたが、この赤煉瓦塀だけは解体の憂き目から救われた。この赤煉瓦塀の前の通りは、現在鶴ヶ城に面したマイロード北出丸大通りとして、電線の地中化、歩道の整備がなされ、この地域一体の景観を形成し、その落ち着いた風情は多くの観光客に愛されている。 この赤煉瓦塀のルーツを探ると、明治17年に若松監獄支署が移転してきたが、大正6年にこの監獄も再度移転し、大正10年から11年にかけて旧鶴城小学校が建設された。この頃に赤煉瓦塀も築造されたと考えられている。ちょうど市制執行25周年の頃で、当時の市勢の進展と文化のシンボルとして築造された。 また、この煉瓦の窯元を探ると現在は、栃木県野木町の古河瓦ではないかと考えられている。目地巾が均一で通りが良く、優秀な専門職人でなければ出来ない仕事である。			

(写真・略図など)



[演習37-2]地域のお宝発見		記入者氏名	37 荒川 浩
①名称	小野瀬賢治宅 別棟蔵	④用途	蔵
②所有者	小野瀬賢治	⑤建築年代	大正後期
③所在地	会津若松市馬場町5-13		
⑥構造形式 木造2階建て土蔵造り			
⑦特徴 前の所有者の時代とは、蔵の配置が異なっており現在の所有者になってからは前面道路沿いに移築された。 この地域には、漆器関係のお店が多くこの建物も漆塗りの作業小屋として使われていた。室温や湿度を一定に保ちやすい蔵造りの建物であるが、現在は趣味の部屋として利用されている。重厚な開き窓と細長い窓のバランスが良く独特の風景を生み出している。 また東日本大震災の影響で漆喰の外壁や扉に少なからずの被害が生じ、外部、内部ともに補修をしいられた。外壁の一部に補強の為モルタルを使用する等して、昔ながらの工法がとれなかったそうである。			

(写真・略図など)



[演習37-3]地域のお宝発見

記入者氏名	37 荒川 浩
①名称	小池嘉吉宅
④用途	住宅
②所有者	小池嘉吉
⑤建築年代	明治初期
③所在地	会津若松市中央三丁目6-24

⑥構造形式  
木造2階建て切妻造り平入り

⑦特徴  
新潟県旧白根氏から昭和50年に移築した建物で間口18間、総床面積250坪程の大規模建築である。元は醤油製造も行っていた、県下有数の豪農の住宅であった。移築に際しては法の規制もあり、屋根瓦などは使用できたものの、解体材料の1/3程の復元に留まったそうである。

(写真・略図など)



[演習38・39-1]地域のお宝発見

記入者氏名	和泉健司 (No. 38) 和泉健太郎 (No. 39)
①名称	牧原家住宅
④用途	住宅
②所有者	牧原源蔵
⑤建築年代	明治時代
③所在地	会津若松市北会津町二日町 地内

⑥構造形式  
木造2階建て 屋根：寄せ棟 カ-鉄板横葺き 外壁：土塗り壁

⑦特徴  
敷地周囲には昭和期に建てられた板塀がまわされ、正面入口には台湾桧の1枚板で造られた門を構えている。駿河地方から会津に渡ってきた武士の家系とのこと。土蔵と棟続きの母屋を中心に周囲には池、庭が広がり、別棟で土蔵や厩跡が点在し、広大な屋敷構えとなっている。

(写真・略図など)



[演習38・39-2]地域のお宝発見		記入者氏名	和泉健司 (No. 38) 和泉健太郎 (No. 39)
①名称	曹洞宗吉高山 福昌寺	④用途	寺院
②所有者		⑤建築年代	不明
③所在地	会津若松市神指町大字高瀬字高瀬 地内		
⑥構造形式 木造平屋建て 屋根：寄せ棟 カ-鉄板横葺き 外壁：縦板張り			
⑦特徴 承安2年(1172年)、京に向かう途中に大川で溺死した商人の冥福を祈るために建立されたとされる。会津三十三観音の第十五番札所。虹梁上部ランマの竜や木鼻の獅子、象など、各所に細やかな彫刻が施され、建物裏には、本堂と庫裡を繋ぐ太鼓橋設けられ、歴史を感じさせる外観となっている。			

(写真・略図など)



[演習38・39-3]地域のお宝発見		記入者氏名	和泉健司 (No. 38) 和泉健太郎 (No. 39)
①名称	廣木酒造本店	④用途	酒蔵
②所有者	廣木健司	⑤建築年代	
③所在地	河沼郡会津坂下町字市中 地内		
⑥構造形式 木造2階建て 屋根：切妻 金属瓦葺き 外壁：下見板張り+漆喰塗り			
⑦特徴 かつて会津若松と新潟を結ぶ越後街道沿いの宿場町であった会津坂下町の通り沿いに建つ、江戸時代中期(文政年間)に創業した蔵元。建物内部は店部分から建物内を裏へ抜ける通り土間等、当時の雰囲気を残している。屋根や外壁に近年の改修の子が見られるが、サッシ部分の木製化粧格子や外部色彩等、通りの景観に配慮した改修がなされている。			

(写真・略図など)





## [演習38・39-4]地域のお宝発見

		記入者氏名	和泉健司 (No. 38) 和泉健太郎 (No. 39)
①名称	伴野邸 (長屋門、堀)	④用途	長屋門、堀
②所有者	伴野武夫	⑤建築年代	明治44年頃
③所在地	会津若松市河東町大字福島字島原 地内		

## ⑥構造形式

木造2階建て 屋根：切妻 瓦葺き 外壁：土塗り壁、漆喰塗り

## ⑦特徴

当時、約6反 (約1800坪) の広さの敷地正面に長屋門を構え、母屋を囲むように杉林があった。台風や雷等の天災の度に倒木の心配、維持の困難さを感じ、現在はほぼ全て伐採した。  
※伐採した木は、母屋の一部を建て替える際に、小屋組等の材木として利用した。  
敷地周囲をまわっている堀は、車の通行の度に崩れてきたこともあり、道路拡幅の際に、約1反の敷地と合わせて町に寄付し、整備してもらった。  
現在は町所有になっており、年1回の堀掃除等、町で管理している。

(写真・略図など)



## [演習38・39-5]地域のお宝発見

		記入者氏名	和泉健司 (No. 38) 和泉健太郎 (No. 39)
①名称	足利ギャラリー(母屋)	④用途	カフェ
②所有者	足利純一	⑤建築年代	約280年前(江戸・享保年代)
③所在地	会津若松市河東町広田田中原 地内		

## ⑥構造形式

木造平屋建て 屋根：寄せ棟 (片側は兜造り) 銅板葺き 外壁：漆喰塗り

## ⑦特徴

約2000坪の敷地に母屋、穀物倉、味噌蔵の3棟が残っている。  
敷地周囲には堀がまわされ、正面入口にはカギの字状に積まれた珍しい形状の石垣がみられる。  
築280年の母屋を改装し、カフェとして利用している。  
当時、武家屋敷だった母屋の東側には2間続きの和室があり、その周囲にまわした縁側から庭を眺めることのできる。

(写真・略図など)



[演習38・39-6]地域のお宝発見		記入者氏名	和泉健司(No. 38) 和泉健太郎(No. 39)
①名称	足利ギャラリー(蔵)	④用途	ギャラリー
②所有者	足利純一	⑤建築年代	約170～180年前(江戸・天保年代)
③所在地	会津若松市河東町広田中原 地内		
⑥構造形式 木造平屋建て 屋根：切妻 カラ鉄板横葺き 外壁：土塗り壁			
⑦特徴 祖母が関西から会津に嫁いでくる際に、築170～180年の味噌蔵だったものを移築した。現在は改修し、絵画を展示するギャラリーとして利用している。現しとなった軒裏からは茅葺き屋根が見え、特徴的な小屋組の形状を活かした改修が内外ともに施され、当時の佇まいが感じられる。			

(写真・略図など)



[演習40-1]地域のお宝発見		記入者氏名	40 金親丈史
①名称	金田洋品店 蔵	④用途	店舗
②所有者	金田亮二	⑤建築年代	明治45年
③所在地	喜多方市字一丁目4638		
⑥構造形式 間口4.5間、奥行5.0間、1階煉瓦組積造(1丁半イギリス積)、2階木骨煉瓦造、切妻屋根棧瓦葺き、軒煉瓦蛇腹、平入り、3連アーチ入口、鉄板防火扉			
⑦特徴 明治45年竣工の記録が残る。地元の樋口窯業製造の施釉煉瓦を煉瓦職人田中又一が積んだ建築である。喜多方に現存する煉瓦造の建築物の中では比較的初期のものであり、店舗入り口の3連のアーチ、5段に迫り出した煉瓦蛇腹の軒先、うだつ風の下り棟の納まり、および端部の化粧積、妻壁に描かれた店名のシックイ文字等、随所に意匠的な創意の跡が残されている。煉瓦組積造の階上に、木骨煉瓦造の構造を有する建築として、また近年減少の一途を辿っている、樋口窯業製の施釉棧瓦が葺かれている建築物として希少的価値が高まって来ている。平成19年に近代化産業遺産として選定されたが、竣工当時の姿を良く留めており、中心市街地のランドマーク的役割も果たしていることから、歴史的建造物としての保存が望まれる建築である。			

(写真・略図など)



[演習40-2]地域のお宝発見

記入者氏名	40 金親丈史
①名称	J A会津いいで喜多方駅前石倉
④用途	倉庫
②所有者	J A会津いいで
⑤建築年代	大正13年(東棟)昭和9年(西棟)
③所在地	喜多方市宇町田下8243-2

⑥構造形式  
 東・西棟共通：間口6間、奥行20間 喜多方市高郷町荻野産の緑色凝灰岩による組石造  
 東棟：軒高約5.2Mキングポストトラスによる小屋組み、銅板葺き  
 西棟：軒高約6.3Mクイーンポストトラスによる小屋組み、喜多方産施釉棧瓦葺き

⑦特徴  
 銘板により建築年代が、大正13年(東棟)昭和9年(西棟)と明らかになっている。現JA会津いいでの前身の慶徳農協の農産物貯蔵用倉庫として建造された。喜多方駅前に立地しており、竣工当時、この地域の農産物の物流拠点となっていたことが伺える。  
 両棟の建築面積は同じであるが、組積の1個あたりの寸法や石材表面のハツリ痕、小屋組み、棟の納め方等に違いが見られる。南面の下屋は鉄骨造であるが、それ以外の下屋は木造の小屋組みを有し、竣工当初の姿を今に伝えているものと思われる。  
 現在は、東棟が農産物の直売所として使用されているが、西棟は空いており、一部屋根瓦の損傷による雨漏りや軒瓦の破損が見られ、早急な対策が望まれる。

(写真・略図など)



[演習40-3]地域のお宝発見

記入者氏名	40 金親丈史
①名称	鶴水家住宅
④用途	住宅
②所有者	鶴水フチエ
⑤建築年代	昭和初期
③所在地	喜多方市慶徳町松舞家字走下り2446

⑥構造形式  
 木造軸組み2階建、切妻屋根棧瓦葺き、内外真壁づくり、外壁土塗り壁漆喰仕上げ(母屋)  
 間口2.5間、桁行6.0間、喜多方産煉瓦による木骨式煉瓦造2階建、イギリス積、棧瓦葺き(蔵)

⑦特徴  
 使用されている煉瓦の寸法がJIS規格以前の物である点、未だ益子の釉が施されていない点から戦前の建築であることが推測される。  
 平入の母屋に妻入の蔵の組み合わせは、喜多方地域では散見されるが、煉瓦蔵である点に希少性を有している。蔵の1階は2間続きの座敷になっており、2階は家財の収納空間として使用されている。喜多方に多い座敷蔵の典型的な使われ方であり、往時の気風を良く伝える建築である。  
 現在は空き家になっており、敷地内にもう一棟あった煉瓦蔵が昨冬の大雪によって倒壊するなど、管理に難を生じている。往來の比較的に多い道路に面し、地区のシンボリックな建築となっており、近隣住民からも保存活用が切望されている。

(写真・略図など)



[演習42-1]地域のお宝発見		記入者氏名	42 鈴木奈津子
①名称	春日部家住宅	④用途	住宅
②所有者	春日部 斎(ひとし)	⑤建築年代	
③所在地	会津若松市河東町高野町平塚38		
⑥構造形式 木造平屋 切妻煙出し 漆喰壁、腰下見板張り			
⑦特徴 日本水彩連盟創立者、春日部たすく氏の生家。江戸～明治にかけての豪農。(春日部氏の先祖は、埼玉県春日部市の豪族で市の由来になっている。天正18年(1590)豊臣秀吉の後北条攻めで北条太田氏であったため敗北。慶長6年(1601)頃に会津に入る。)明治33年の火災以来殆ど手を加えていない。北側に蔵、西側に米蔵(置き屋根)、南側に文庫蔵(明治式/座敷蔵)終戦時蔵には七日町金剛寺の仏像が置かれていた。床の間の天袋の絵は、画家 野出焦雨の作品。南北には庭を配置。10寸角檼の床柱、敷地内にあった櫓を使用。のりこみ口、控えの間			

(写真・略図など)



[演習42-2]地域のお宝発見		記入者氏名	42 鈴木奈津子
①名称	初瀬川家住宅	④用途	住宅
②所有者	初瀬川健増	⑤建築年代	
③所在地	会津若松市大戸町小谷川端10番地		
⑥構造形式 木造2階建 入母屋造り 明治以降 10間			
⑦特徴 奈良、長谷寺出身 葦名時代の平家 南北朝時代600年前に追われ会津に入る。漆の生産に貢献の豪農。明治時代に市内で苗木を作って全国に分けていた。古文書を収容する初瀬川文庫(南側 置き屋根の蔵 2階建 日露戦争後)隣接する東側に市内唯一の水車小屋。1898年 明治31年、清国へ漆栽培、皮取り法調査の為、飯盛家、六角家と共に渡る。内部10寸角檼の大黒柱4本、差鴨居10寸 北側 米蔵 物置 庭に登録文化財 江戸彼岸桜(しだれ桜) 北側に竹林 南西に樹齢800年の銀杏の木			

(写真・略図など)



[演習42-3]地域のお宝発見

記入者氏名	42 鈴木奈津子
①名称	荒井家住宅
④用途	住宅
②所有者	荒井義隆
⑤建築年代	
③所在地	会津若松市北会津町下荒井21

⑥構造形式  
木造2階建昭和39年大改造 本化粧作り 土蔵 明治34年 2間×5間  
昭和の改造前の住宅 11間×5間 茅葺にトタン のりこみ口があった。

⑦特徴  
天保8年 下の荒井の肝いり（親方様、商屋、名主）  
以前の建物には戊辰戦後、無政府状態になった時、明治元年9/24ヤ一揆による刀傷が柱3本にあった。  
母屋には米沢の武士が滞在。周りはハンノキや葦が茂る湿地帯で、松平容保が鷹狩に来ていた。昼食時に立ち寄っていた。  
簾外柳・・・松平容保の歌  
左・・・西郷近思（頼母の父）の歌  
三顧の礼・・・いわさひ硝石の絵  
書・絵・・・うんば、應湖

(写真・略図など)



[演習43-1]地域のお宝発見

記入者氏名	43 鈴木利有規
①名称	五十嵐用品店
④用途	店蔵併用住宅
②所有者	五十嵐英二
⑤建築年代	明治期
③所在地	会津若松市旭町6-6

⑥構造形式  
店蔵：土蔵2階建て 外壁：白漆喰 屋根：赤瓦葺き 間口4間程度  
内部：板張り 木造梁及び2階床板現し 2階は倉庫として使用

⑦特徴  
蔵は出桁形式で妻面の塗り込めの母屋と厚い破風と合わせ、シンプルな外観にも重厚感を与えている。  
内部は建設当時の板張りの仕上げが残っている。2階の床梁（梁成尺2寸程度）が1mピッチ程度に細かく掛かっており、重厚な造りが力強い印象を与える。また、洋品メーカーのめずらしい金看板が上部に今も陳列されていて興味を引く。  
隣り合う4間（蔵-蔵-木造-蔵）の建物が軒を連ねて連帯しており、2階の軒がほぼそろっている。  
当該蔵は、正面の出入口がアルミサッシとなっていたり、北側の妻面は鉄板張りに改修されており、震災で損傷を受けた南側の妻壁も鉄板を張る予定だということで、造りが良いだけに惜しい気もする。

(写真・略図など)



[演習43-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	43 鈴木利有規
①名称	鯉料理うなぎ あら池	④用途	店舗（飲食店）併用住宅
②所有者	荒池定之	⑤建築年代	大正期（900～100年経過）
③所在地	会津若松市馬場町1-50		

⑥構造形式  
木造一部3階建て（3FはPH） 外壁 モルタル洗い出し仕上り一部タイル貼り  
奥の1階店舗座敷部分は当初は平家だったが、後から2階を増築した。3階は現在封鎖し、未使用。

⑦特徴  
（経過）大正期に建てられ、当初は呉服商（一説には鋸工場）であったと伝えられている。戦後一時期GHQ関連の施設として使われていた。昭和30年代より近所から当地に移り営業している。  
2階の洋間は、ダンスホールとしても使われていたとのことであるが、現在は和室に改修し住まいとして使用。  
（特徴）甲賀町通りに面して当時としては斬新な洋風モルタル造で、丸窓のペントハウスがシンボリックにデザインされている。塔屋の軒蛇腹、中断の帯（水切）など意匠的に凝っている。カタカナの「イ」の屋号を含め、ほとんど建設当初のままで残っているが、正面のシャッターは後付けである。  
（震災被害）震災により北側についていた庇を撤去、その際モルタル自体はまだまだしっかりしていることが分かった。正面の、軒蛇腹の破損やモルタルに多数あるクラックはそのままになっており、早急な措置が必要。建物内部の漆喰かべの亀裂や崩落箇所も居住部分はそのままにして生活している。市の登録を受ければ補助制度もある旨説明。柔軟な補助制度や基金などがあればと考えさせられた。

(写真・略図など)



[演習43-3]地域のお宝発見

		記入者氏名	43 鈴木利有規
①名称	辰泉酒造	④用途	店舗（酒造・酒店）
②所有者	新城新次	⑤建築年代	江戸期1867年以前（147年以上経過）
③所在地	会津若松市上町5-26		

⑥構造形式  
土蔵（4棟） 屋根：現状切り妻銅板葺き 外壁：東側、西側の蔵は漆喰（西の蔵は大正7年造）  
その他はラスモルタル、サイディング、一部板張り

⑦特徴  
市の登録物件とはなっていないが、平成21年度に「美しい会津若松市の景観賞（まもる賞）」を受賞している。登録することによるデメリットが不安で、登録に踏み切れないとのこと。  
（経過）もともと造り酒屋が営まれていたこの地で明治15年に創業。奥に見える煙突は創業時に建てられたもの。（特徴）東側正面の連なる切り妻屋根と奥に見えるレンガ煙突が歴史的景観を形成している。また、蔵の前にシンボリックに植えられた松・ヒバや、入り口に下げられている酒林が、アクセントになっている。H19年の中越地震時は、壁の一部が剥落したり、建物の一部が傾いたりしたが、金銭的理由で、伝統工法での補修は出来なかった（モルタルによる壁復旧）。また、レンガ煙突の鉄の筋違いが一部はずれた。表の町並みと合わせて見えない裏の顔の再生もできれば、本来の意味での景観を「まもる」になると思われ、今後とも、登録文化財への登録の働きかけ（十分な説明）の必要性を感じた。

(写真・略図など)



[演習44-1]地域のお宝発見

		記入者氏名	44 関澤一幸
①名称	湯川村 牛舎	④用途	牛舎
②所有者	菅沼章生（あきお）氏	⑤建築年代	昭和37年
③所在地	河沼郡湯川村大字湊字村中		

⑥構造形式  
コンクリートブロック造+木造（小屋組トラス工法）

⑦特徴  
会津若松市街より北へ10km程走った、日橋川手前の田園が広がる地域に建つ。周辺は昔から変わらない田園が広がり、20~30棟の集落が点在している。その中に周囲の建物と異を成した、会津地域には珍しい形態の牛舎が建つ。建物は持ち主である菅沼氏が昭和36年に自ら設計し、隣町である塩川町（現在喜多方市）の湯浅建設（現在は無い）に請負を依頼し、地元大工の手により昭和37年に完成したとのこと。当時の価格で100万円程度。1階の平面形態が15角形と多面体であり外壁面はコンクリートブロック積み。飼育スペースが6~7区画。核となる中心部付近はコンクリート造りの筒となっており、2階に積んだ干し草を1階へ容易に落とせる仕組み。屋根形状は1階平面に倣ったマンサード屋根の構成であり洋小屋組。南北方向の屋根にはドーマーが設けてあり、採光を取り入れている。2階床は木床で、1階の家畜飼育の仕切りに合わせ木柱が建ち、2階床を支えている。非常に無駄のない機能的な空間造りで、材料も適材適所でスパルタンな建物。  
菅沼氏が設計時に参考にした資料は無かったとのことであったが、学生時代に北海道へ農業を学ぶ機会があったことで、向こうでの体験が知らずのうちに青写真となっているかもしれないと思われた。避雷針のような棟飾りも建物のバランスを考えて金物屋に造らせたとのこと。オシャレな遊び感覚も存在する。独自の形態と機能的な空間造り、施主自ら手掛けた観点からも突出した存在である建物と思われた。

(写真・略図など)



[演習44-2]地域のお宝発見

		記入者氏名	44 関澤一幸
①名称	攬勝亭(らんしょうてい)	④用途	庭園
②所有者	佐藤歯科医院	⑤建築年代	天文年間（1532~頃）
③所在地	会津若松市柳原町2丁目2		

⑥構造形式  
庭園

⑦特徴  
参考資料：会津の名園攬勝亭（神指町柳原）神指町郷土資料集（第三輯）昭和41年4月1日発行 会津三庭園の一つ(御薬園等)  
東奥会津若松鶴ヶ城の西柳原に位置し、天文年間に長尾信景がこの地に住み始めて庭園を築き、朝夕遠山近里の風景を眺望する為、天然と人工による茶園とし、藩士の遊覧場に充てられた。寛永21年、保科正(会津松平家初代、陸奥会津藩初代藩主)が庭号攬勝亭と命名。  
持ち主は元肝煎長尾代吉から、大正15年8月には片柳町森弥五郎の別邸となり、庭の南と東側の拡張、数寄の茶室の築造、その後キンタイ漆器社長二瓶初太郎氏へと変わり、現在は佐藤齋亀歯科医師の娘さんが受け継がれる。佐藤氏によれば、当時、庭園周りの樹木背丈が今よりも低く、北東側に望む磐梯山が庭園の入口を潜ると借景として存在し見事であったらうとのこと。庭から遠くの方々を眺めた記録もあり、園内には石碑も多数存在する。現在は個人所有により、公に見学する事が出来ない。又、佐藤氏もこの由緒ある庭園維持存続に大変骨を折られている様子であった。  
歴史的にも大変価値のある庭園であり、付属の茶室も建築的に再調査すべき案件と思われる。

(写真・略図など)



【演習44-3】地域のお宝発見

①名称		新井田邸	④用途	住宅
②所有者		新井田 大	⑤建築年代	昭和初期
③所在地		耶麻郡西会津町下谷字如法房甲473番地		
⑥構造形式 木造軸組				
⑦特 徴 西会津市街地より西方街道を南へ10数キロほど、更に峠の頂きから山奥へ進んだ行き止まりの部落に建つ。土蔵を北側へ背負い間口12間、奥行き4.5間の母屋。昭和初期に建てられ、台所や玄関のある建物西側を何度か改修を経たものの、大広間や客間のある東側は当時のまま。大広間の吹き抜け、差し鴨居、化粧梁は一目を置く存在感。				

(写真・略図など)



【演習45-1】地域のお宝発見

①名称		猪俣家住宅	④用途	住宅
②所有者		猪俣幸意	⑤建築年代	1836年代（天保6年）
③所在地		会津若松市河東町大字熊野堂字村内75		
⑥構造形式 ・木造（平屋建て）農家住宅で建物西側部分は土間で馬屋があった、また東側は典型的な「田の字」配置の座敷間取りで広縁からは庭を愛でることができる。				
⑦特 徴 天保6年（1836年）築177年の農家住宅である、肝入役（地区における年貢の徴収役）を務めていた為に百姓一揆の折についたと言われる傷跡が生々しく柱に残る。建物西半分の土間（水廻り）部分や屋根葺きは三十年以上前に改修されていたが、つい最近では建物全体へのリフォームが行われたが外殻や旧土間以外の間取りは当時と変わっていない。 各所に残る傷を含めて、「維持」してゆきたいと言う当主の思いが伺える。				

(2013・9・29)

(写真・略図など)





## [演習45-2]地域のお宝発見

[演習45-2]地域のお宝発見		記入者氏名	45 田勢光夫
①名称	男山酒造店と土蔵の並び	④用途	店舗（酒造）併用住宅
②所有者	合資会社 男山酒造店	⑤建築年代	1880年代（明治初期）
③所在地	大沼郡会津美里町大字旭杉原乙94		

## ⑥構造形式

- ・店舗部分：木造2階建て（住宅、工場部分と明確な区分が無い）
- ・住宅部分：木造2階建て（店舗帳場であったと思われる奥にある蔵座敷は共用部分）
- ・工場部分：土蔵+木造（瓶詰め等の作業は帳場に近い木造建物で行われていた）

## ⑦特徴

創業から数回の増築や棟別での住宅新築を行ってきたが、主要な建物（木造の店舗兼瓶詰め作業場、酒蔵、座敷蔵・・）が敷地内に残置されている。  
東と北に道路がある角地で東道路面への蔵の並びは通りとしての心地よい景観が伺えるが、道路面が敷地面よりも高い為に蔵部分は痛みが激しい。また、敷地内で最も大きい酒蔵の床面はコンクリートが施工されているが温度調整用の換気窓を持つ建具や建物躯体からは、生産繁忙当時の子を感じることができる。  
酒造業は既に行っていないと言われる当主（六代目 千葉不二雄 氏）は、全解体も視野と言われるが、当主奥さまからは維持活用出来るものであればと、苦慮されている。（2013・10・14）

(写真・略図など)



## [演習45-3]地域のお宝発見

[演習45-3]地域のお宝発見		記入者氏名	45 田勢光夫
①名称	木野田邸	④用途	住宅
②所有者	木野田ミツ子	⑤建築年代	1920年代（昭和初期）
③所在地	会津若松市神指町高瀬715		

## ⑥構造形式

- 木造総2階建て寄棟造り（建築当時より建坪60坪以上の総2階）
- 正面中央に主玄関を配し、右手側（居間・水廻り・馬屋？）左手側（広縁をもつ来客時の応接和室）で使用形態にて区分されている。

## ⑦特徴

写真でも確認できるが、1階床面から2階床面までの高さが低く、二階床組みに直接床板を施工していると当家、奥の説明である。室内をお見せ頂けなかったが新潟より大工を呼び寄せての新築で、玄関式台を始め座敷には檜材を用いている子をガラス越しに拝見できた。  
二階にあっても天井は低く、作業用（養蚕）のスペースで現在の居住には使用していなかったらしい。後日、東側にあった畜舎を解体する事で現状の姿を確認出来るようになり、土間域も同様に二階と下屋を増築したと推察される。

(写真・略図など)



[演習46-1]地域のお宝発見		記入者氏名	46 新関 永
①名称	境野家住宅（主屋）	④用途	専用住宅
②所有者	境野健児	⑤建築年代	明治中期
③所在地	福島市飯野町大字青木字平石72		
⑥構造形式 木造2階建て 茅葺き 外壁：土壁			
⑦特徴 信達地方は、阿武隈山地の低い山々が重なるように連なり、少ない平地には水田がつくられ、住宅は山際に建てられる。当方も山際に建てられ、北はいぐねに守られ、水は横井戸で引き、地形をうまく利用している。 建設年次は、棟札等がないことから明確ではないが、前所有者の話から明治中期と思われるとのことである。 現在の所有者は、この家を購入して、平成7年に大規模な改修工事を行っているが、台所を増築する以外は、できるだけ往時の面影を大切にしており、囲炉裏を残し、屋根も茅葺きのままとしている。 往時は、裕福な農家であったそうで、天井が低いなど、当地によくみられる養蚕農家の造りが見られる。			

(写真・略図など)



[演習46-2]地域のお宝発見		記入者氏名	46 新関 永
①名称	N家住宅（主屋）	④用途	専用住宅
②所有者	T. N	⑤建築年代	嘉永7年（1855）頃
③所在地	福島市大森字城ノ内地内		
⑥構造形式 木造平屋（一部2階）建て 鋼板葺き			
⑦特徴 当家は、江戸時代小嶋田村の最後の庄屋を務めた記録があり、集められた年貢米が、西側の大森川から船で舟場町まで運ばれたと言い伝えられている。 主屋は、棟札等がないことから建設年代は明確ではないが、普請帳に嘉永7年の資材調達記録があることから、この頃の建設時期と思われる。 広い土間と広間（おかみ）が特徴であり、土間に1本の独立柱があることから、古い建築工法であることがうかがえる。 平成23年の東日本大震災で屋根瓦が落下する被害を受けたのを機会に、外内部の大規模な改修を行ったが、往時の面影を大切に、土間と囲炉裏をそのまま残している。			

(写真・略図など)



[演習46-3]地域のお宝発見		記入者氏名	46 新関 永
①名称	可月亭庭園と離れ	④用途	専用住宅
②所有者	K. H.	⑤建築年代	昭和初期
③所在地	会津若松市材木町2丁目5-7		
⑥構造形式 庭園：小堀遠州の流れをくむ書院式庭園（可月亭（茶室）から鑑賞する庭園） 約1,000坪 離れ：木造平屋建て 瓦葺き			
⑦特徴 H家は、約400年前に蒲生氏郷公の命を受け、酒造りを伝えるために当地に来たとの伝えがある。 また、松平家五代藩主容頌公が、小堀遠州の流れをくむ目黒浄定に「御薬園」を改修させた際に、他に領内2つの庭の改修も行った記録があり、「可月亭庭園」、「攬勝亭庭園」の3つが会津三庭園として今に残されている。当家の庭が可月亭庭園にあたる。 現在、酒造業は廃業し、可月亭（茶室）は既に消失して、庭園と離れ及び土蔵が残るのみである。 離れは、棟札等がなく建設年代が確定できないが、現在の当主の聞き伝えによると、昭和初期であるとのことである。 当時、家業の酒づくりの関係で、大切な来客をもてなすために造られたものであり、床の間、床脇、長押、欄間、建具等に、上質な木材を用いた丁寧なつくりと細工が見られる。			
(写真・略図など)			
			
			

[演習46-4]地域のお宝発見		記入者氏名	46 新関 永
①名称	佐藤家住宅の主屋と土蔵	④用途	専用住宅
②所有者	佐藤 光	⑤建築年代	江戸後期頃
③所在地	伊達市霊山町上小国字腰巻3 2		
⑥構造形式 主屋：木造2階建て茅葺きの上にトタン葺き／外壁：土壁 土蔵：木造2階建て瓦葺き／外壁：土壁			
⑦特徴 佐藤家は、日本最初の農業協同組合創設者と言われる佐藤忠望氏の分家にあたり、福島市出身の世界的バイオリニスト佐藤陽子氏の父親が生まれた家でもある。 小屋裏には養蚕を営んだ形跡が見られ、合掌造りで大きな空間を造りだしている。 建設年代は、棟札等がなく確かではないが、当初は廊下が無く、土間、広間、田の字型に配置された座敷で構成されていることから、江戸時代後期に建設されたものと思われる。 土蔵も同時期に建設されたものと考えられ、内部は家財道具を収納していたようで、防犯上の観点から、全面板張りとなっている。			
(写真・略図など)			
			
			

[演習47-1]地域のお宝発見		記入者氏名	47 舟木政一
①名称	大谷川橋梁	④用途	橋梁
②所有者	JR東日本	⑤建築年代	昭和14年完成 昭和16年共用開始
③所在地	大沼郡三島町大字宮下		
⑥構造形式 単線開腹式上路1連RCアーチ橋 アーチ支間45m、アーチライズ15mで完成当時は国内の鉄道橋としては最長のアーチ橋だった。			
⑦特徴 戦前に建造されたにも関わらず耐久性に優れ、今も美しいアーチを見せている。現存する鉄道RC橋としてはJR内房線の山生橋梁に次ぐ2番目に古いものです。(参考文献有り) 鉄道橋を中に、下が県道に架かるコンクリート橋で昭和30年代の完成。発注の最古参橋で貴重な土木遺産となりつつあります。上は国道に架かる鉄骨橋で昭和60年代に完成しています。他の橋梁に合わせ、アーチ形状が採用されました。 三つのアーチ橋が重なって一望できるのは国内ではここだけで、視点場の整備など見学者の受け入れ活動も行っています。名称は「アーチ三兄弟」です。			

(写真・略図など)



[演習47-2]地域のお宝発見		記入者氏名	47 舟木政一
①名称	JR会津宮下駅	④用途	駅舎
②所有者	JR東日本	⑤建築年代	昭和16年
③所在地	大沼郡三島町大字宮下		
⑥構造形式 木造平屋建て切り妻、屋根：カラー鋼板葺き、外壁：シックイ塗り一部下部サイディング張り			
⑦特徴 宮下大火の前年に完成したが幸いにも類焼をまぬがれて現在までほぼ当時の姿を留めている。時代は只見川の電源開発の最中で、宮下ダム建設もこの宮下駅までの延伸と共に開始されている。駅舎はサイディングが施されたり、玄関部分の丸太柱やハーフテンパー部分がペンキ塗りにされるなど、残念な修景も見られる。 JR担当部署への調査許可依頼が遅れ、資料の入手や内部調査を今回はできませんでした。宮下地区の景観形成にも重要な建物ですので、今後の完全無人化に伴う部分利活用など関心をもって行きたいと思います。			

(写真・略図など)



[演習47-3]地域のお宝発見

[演習47-3]地域のお宝発見		記入者氏名	47 舟木政一
①名称	山一商店・栗城家住宅	④用途	住宅（商家）
②所有者	栗城隆彦	⑤建築年代	昭和17年
③所在地	大沼郡三島町大字宮下		

⑥構造形式  
木造2階屋建て入り母屋造り。 屋根：金属瓦葺き（新築当時は木端葺き、その後赤瓦に改修され、現在に至る） 外壁：1階下見板張り、2階シッコイ塗り

⑦特徴  
宮下地区は三島町の中心に位置し、昭和17年4月の大火により、地区中心部の大半に当たる142戸を消失した。この住宅の上棟は大火から5ヶ月後の9月に行われている。  
宮下地区の特徴として、大火から2年程の間に100戸強の住宅が完成し、今日まで多くの建物が残されている事で、地区の人は、この住宅式を「宮下型住宅」と呼び、保存、活用に向けた取り組みを継続している。  
「宮下型住宅」の幾つかを調査するなかで、興味深い発見がありました。建設需要に地元の工務店や大工だけでは対応しきれないので、近隣からの応援も多くあったようで、建物の用途による構えや建て主の財力、棟梁の系譜などで々な表情を見せている。  
この建物は米、塩などの小売、取次の商いをしていた店舗併用住宅で、地区の中でも大きな建物です。大火からの復興に際しては早大の今和次郎先生が現地を訪れ、計画案を提案している。

(写真・略図など)



[演習48-1]地域のお宝発見

[演習48-1]地域のお宝発見		記入者氏名	48 遠藤一善
①名称	早川家住宅	④用途	専用住宅
②所有者	早川雅通	⑤建築年代	明治頃
③所在地	双葉郡富岡町大字仏浜字釜田348		

⑥構造形式  
木造二階建て、土壁、入母屋瓦葺き

⑦特徴  
早川家住宅は、富岡駅の西側高台に位置し、町内には珍しい本格的二階建て住宅です。現在、避難中であり詳しい話は聞き取りができませんが、明治時代の建築と推察されます。建物内部は見る事が出来ませんでした。敷地内には、土蔵、井戸小屋も有り、当時の生活状況を知ることが出来る建物です。また、軒先の持ち送り等も潇洒なデザインになっており、民家づくりと、数寄屋づくりが混合した住宅です。  
原子力事故による避難が続いている中、取り壊される住宅が多くなると考えられますが、是非とも富岡町の住宅として、残したい建物です。

(写真・略図など)



[演習48-2]地域のお宝発見		記入者氏名	48 遠藤一善
①名称	大原本店旧店舗	④用途	店舗併用住宅
②所有者	大原弘道	⑤建築年代	昭和前期頃
③所在地	双葉郡富岡町中央一丁目62		
⑥構造形式 店舗部分：木骨レンガ造モルタル塗り擬洋風二階建て、片流れ瓦棒葺き、 住宅部分：木造平屋建て、切り妻瓦葺き			
⑦特徴 大原本店旧店舗は、中央商店街に位置し富岡町には珍しい擬洋風建築物で、木骨レンガ造を下地としてモルタル洗い出しにて構成された建築です。 現在、避難中であり詳しい話は聞き取りができませんが、昭和初期の建築と推察されます。住宅部分は数寄屋造りとなっており、質の高い建築です。また、住居部分西側の外壁はレンガ造となっており、昭和初期の富岡を代表する建築です。地震による建物の傷みが激し上に、原子力事故による避難で取り壊される可能性が高いと考えられますが、富岡町の発展を支えてきた商店街の遺構としては是非とも残したい建物です。			

(写真・略図など)



[演習48-3]地域のお宝発見		記入者氏名	48 遠藤一善
①名称	中央商店街煉瓦蔵	④用途	蔵
②所有者		⑤建築年代	明治～昭和初期頃
③所在地	双葉郡富岡町中央商店街		
⑥構造形式 木骨煉瓦造、煉瓦造			
⑦特徴 富岡町には明治後期に煉瓦製造工場が有り、明治31年の常磐線開通を契機として煉瓦製造が発展しました。町内各所に煉瓦を使用した遺構は残っていますが、近世中期以降の宿場町として栄えた中央商店街には木骨煉瓦造の蔵をはじめ、本格的な煉瓦蔵まで複数の蔵が残っております。 東日本大震災による被害は甚大で、本格的煉瓦蔵は2階部分が倒壊したり、壁に亀裂が入ったりしております。しかしながら、近代の富岡町の文化を残すためにも、是非とも残していきたい建物です。 写真は、大竹家、菊地家、渡辺家、仲山家の煉瓦蔵です。			

(写真・略図など)



[演習49-1]地域のお宝発見		記入者氏名	49 松本庸器
①名称	豊間 浄応寺山門	④用途	寺院 門
②所有者	小野照道	⑤建築年代	江戸以前
③所在地	いわき市平豊間字寺前11		
⑥構造形式 一間一戸薬医門			
⑦特徴 樋口館にあった、裏門と言われる。近くの宝蔵寺には表門と言われるが、江戸時代の改造で形態が変わっていると思われる。樋口館の主は樋口玄蕃と言われる。			

(写真・略図など)



[演習49-2]地域のお宝発見		記入者氏名	49 松本庸器
①名称	藁谷家 表門	④用途	寺院 門
②所有者	藁谷美久	⑤建築年代	江戸末期
③所在地	いわき市三和町差塩字東作148		
⑥構造形式 一間一戸門			
⑦特徴 総檜造り 庄屋 肝煎百姓として苗字帯刀を許された当時の建立。			

(写真・略図など)



[演習49-3]地域のお宝発見		記入者氏名	49 松本庸器
①名称	四倉 恵日寺山門	④用途	寺院 門
②所有者	薬王寺兼務	⑤建築年代	江戸初期
③所在地	いわき市四倉町玉山字牧ノ下53		
⑥構造形式 一間一戸四脚門			
⑦特徴 元和五年（1619）に磐城平城主内藤政長の寄進による。左甚五郎の作と伝えられている。門前で拍手を打つと竜が鳴くため「鳴き竜の門」と言われている。			

(写真・略図など)



[演習49-4]地域のお宝発見		記入者氏名	49 松本庸器
①名称	吉田家門	④用途	門
②所有者	吉田正博	⑤建築年代	江戸後期
③所在地	いわき市泉町		
⑥構造形式 一間一戸門			
⑦特徴 元、泉館門で裏門とも伝えられている。吉田家には、明治に払下げられた。敷地両側に蔵があったため、門の大きさを調整している。鬼瓦をモルタルで盛付重厚さを醸し出していた。震災の影響があり、早急な修繕が必要だ。			

(写真・略図など)





## ■H26年度福島県ヘリテージマネージャー[地域のお宝物件リスト]

[方部別]

物件方部	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年(西暦)	建築年(和暦)	構造	階数	件数
県北	2-1	諏訪神社	諏訪神社	伊達市保原町富沢字諏訪	寺院・神社	神社	約450~500年前		木造	1	1
	2-2	O家住宅	O・S	伊達市	住宅	住宅	1887年頃	明治20年頃	木造	2	1
	2-3	H家住宅	H・T	伊達市	住宅	住宅	約250年前		木造	1	1
	3-1	H家酒造店	H	福島市	店舗兼住居	住宅蔵/酒造倉庫	1814年	文化11年	木造	2	1
	3-2	T家蔵	T	福島市	蔵・倉庫	蔵		明治期	土蔵造り	3	1
	3-3	I家離れ	I(神奈川県在住)	福島市	住宅	住宅(離屋)		明治後期	木造 土蔵造り		1
	7-1	T家住宅	T・K	伊達市	住宅	住宅	1919年	大正8年	木造	3	1
	7-2	須川南宮諏訪神社	宗教法人須川南宮諏訪神社	福島市伏拝字清水内	寺院・神社	神社	拝殿:1855年 本殿建替え:1896年	拝殿:安政2年 本殿建替え:明治29年	木造	1	1
	7-3	りょうぜん里山がっこう	NPO法人りょうぜん里山がっこう	伊達市霊山町大石字田代5-1	その他	地域交流体験施設	1948年	昭和23年	木造	2	1
	8-1	八雲神社(牛頭天王)	八雲神社	伊達市片町37	寺院・神社	神社	神殿:1812年 拝殿:1857年	神殿:文化9年 拝殿:安政4年	木造	1	1
	8-2	KISSACO KURA	K・K	伊達市保原4-19	店舗	飲食店(喫茶店)	1899年	明治32年	木造	2	1
	8-3	観音寺 拝殿観音堂	観音寺	伊達郡桑折町大字万正寺字坂町20	寺院・神社	寺院	1689年	元禄2年	木造	1	1
	9-1	泉秀寺山門(曹洞宗)	泉秀寺	伊達郡国見町大字泉田字立町18-3	門	寺院(山門)	年代不詳	寺院は明治5焼失	木造		1
	9-2	G家住宅	G・M	伊達郡国見町	住宅	住宅	1942年	昭和17年	木造	2	1
	9-3	福源寺地藏庵観音堂	仏母寺	伊達郡国見町大字鳥取字鳥取24	寺院・神社	寺院	1875年	明治8年	木造	1	1
	12-1	福島聖ステパノ教会	日本聖公会東北教区	福島市置賜町8-29	寺院・神社	教会	1905年	明治38年	木造	1	1
	12-3	本内八幡神社	本内八幡神社	福島市本内字南古館	寺院・神社	神社	1944年	昭和19年	木造	1	1
	15-2	御倉邸	福島市	福島市御倉町1番78号	その他	文化施設	1927年	昭和2年	木造	1	1
	20-1	Y家住宅	Y・T	福島市	住宅	住宅	1887年~1914年~	明治20年~大正3年~昭和初期	木造 土蔵造り	2	1
	20-2	旧渡邊家住宅	旧渡邊家住宅	福島市	住宅	住宅・アトスベース	1883年	明治16年	木造 土蔵造り	2	1
	20-3	A家住宅(奥座敷と土蔵)	T・A	福島市	住宅	住宅	1868年	明治元年	木造 土蔵造り	1 2	1
	23-1	宮下観音堂(もりこ観音)	もりこ観音講(氏子)	福島市大笹生字宮下	寺院・神社	寺院	1771年?	明和8年?	木造	1	1
	23-3	多宝山東禅寺 山門	多宝山東禅寺	福島市大笹生字上ノ寺9	寺院・神社	寺院(山門)	1862年	文久2年	木造	2	1
	25-1	松川橋(めがね橋)	福島市	福島市松川町天明根17-2	橋	橋(市道中町・下中島線)	1885年	明治18年	空石積み		1
	25-2	原田山西光寺 本殿・経蔵(大般若堂)	原田山西光寺	福島市松川町字町裏35番地	寺院・神社	寺院	1799年	寛政11年	木造	1	1
	25-3	天龍山盛林寺 殿堂	天龍山盛林寺	福島市松川町本町西裡15番地	寺院・神社	寺院	1866年	慶応2年	木造	1	1
	29-1	宮代山王宮 日枝神社	宮代山王宮 日枝神社	福島市宮代字鍛冶畑40番地	寺院・神社	神社	1905年	明治38年	木造	1	1
	29-2	大原神社	大原神社	福島市笹木野字町東17番地	寺院・神社	神社	1915年	大正4年	木造	1	1
	29-3	白和瀬神社	白和瀬神社	福島市大笹生字折戸41番地	寺院・神社	神社	1586年	天正年中	木造	1	1
	32-1	奥州八丁目天満宮	奥州八丁目天満宮	福島市松川町古天神8-8	寺院・神社	神社	不明	不明	木造		1
	32-2	川俣町の文化財候補	S・K	伊達郡川俣町	住宅	住宅		明治初期?	木造		1
	32-3	藤金旅館	藤金旅館	福島市中町1-8	旅館	旅館					1
	32-4	川俣町の蔵町中の蔵		伊達郡川俣町	蔵・倉庫	蔵					1
	34-1	金谷川小学校旧金沢分校	金沢 永仁寺(借家人:表具処 菴舎)	福島市金沢字明内29	事務所	事務所・作業場	1885年	明治18年	木造	2	1
	34-2	郷社 黒沼神社	黒沼神社	福島市金沢字宮ノ前45	寺院・神社	神社		江戸時代中期頃?	木造	1	1
	34-3	八幡神社	黒沼神社	福島市金沢字猿田(八幡山)	寺院・神社	神社		明治時代?	木造	1	1
36-1	安達太良神社	安達太良神社	本宮市本宮字館ノ越232	寺院・神社	神社	1816年	文化13年	木造	1	1	
36-2	大天狗酒造	大天狗酒造	本宮市本宮字九縄18	店舗	店舗(酒造・倉庫)		昭和初期	木造	2	1	
36-3	通称「定舞台」	株式会社本宮座	本宮市本宮字中條9番地	芝居小屋・映画館	劇場	1914年	大正3年	木造	3	1	

県北 集計

39

物件 方部	物件 No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	構造	階 数	件 数
県中	23-2	福島県郡山合同庁舎本庁舎	福島県	郡山市麓山一丁目1番1号	その他	役所	1930年	昭和5年	RC造	2	1
	24-1	高屋敷稲荷神社	高屋敷稲荷神社	福島県郡山市白岩町高屋敷277-2	寺院・神社	神社	1934年	昭和9年	木造	1	1
	24-2	酒仙宿月形曲り家	酒仙宿月形	郡山市田村町細田 地内	店舗	店舗	不明 (2004年移築)	不明 (平成16年移築)	木造	2	1
	24-3	酒仙宿月形ギャラリー	酒仙宿月形	郡山市田村町細田地内	店舗	店舗	不明 (2010年移築)	不明 (平成22年移築)	木造	1	1
	30-1	S家住宅	S・I	石川郡石川町	住宅	住宅		明治後期頃	木造	1	1
	30-2	A家土蔵	A・M	石川郡石川町	蔵・倉庫	蔵座敷	1912年	大正元年	土蔵 造り	2	1
	30-3	A家住宅	A・M	石川郡石川町	住宅	住宅	1894年	明治27年	木造	2	1
	31-1	陶工房冬樹窯	S・F	郡山市熱海町安子ヶ島字竹之内150	店舗兼住居	陶工房兼住居	1916年	大正5年	木造	1	1
	31-2	白幡神社	白幡神社	郡山市三穂田町川田字東16番地	寺院・神社	神社	本殿：1675年 拜殿：1832年	本殿：延宝3年 拜殿：天保3年	木造	1	1
	31-3	木ノ宮神社	木ノ宮神社	郡山市熱海町安子ヶ島字木ノ宮5番地	寺院・神社	神社	不明	不明	木造	1	1
	35-1	逢瀬川第一取水場	郡山市水道局	郡山市桜木一丁目	その他	取水ポンプ上屋	1923年	大正13年	RC造	1	1
	35-2	T家住宅	T	郡山市	住宅	住宅	1968年	昭和43年	木造	1	1
35-3	某協同組合連合会事務所	某協同組合連合会	郡山市	事務所	事務所		昭和30~40年代	木造	2	1	
<b>県中 集計</b>											<b>13</b>
県南	12-2	白河駅プラットフォーム	JR東日本	白河市郭内	その他	駅舎及びプラットフォーム	1921年	大正10年	木造	1	1
<b>県南 集計</b>											<b>1</b>
会津	1-1	松坂屋商会	H・K	会津若松市東栄町3-40	店舗	店舗	不明	不明	木造	2	1
	1-2	大徳寺	大徳寺	河沼郡会津坂下町大字牛川4202	寺院・神社	寺院	1849年	嘉永2年	木造	1	1
	26-1	旧榎会津電気工事の土蔵	榎会津電気工事	会津若松市本町4-3	住宅	住宅	1880年以前	明治13年以前	土蔵 造り	2	1
	26-2	三笠園茶舗	K・Y	会津若松市本町3-13	店舗	店舗/倉庫	1904年	明治37年	木造 土蔵造り	2	1
	26-3	四国屋の土蔵の連なり	四国屋	会津若松市本町4-16	住宅	住宅/倉庫	1878年	明治11年	土蔵 造り	2	1
<b>会津 集計</b>											<b>5</b>
喜多方	15-1	H医院	Y・H	喜多方市	病院・診療所	診療所	1929年	昭和4年	木造	2	1
	15-3	T家住宅 主屋/土蔵	N・T	喜多方市	住宅	住宅		昭和初期	木造	2	1
	33-1	稲川酒造精米所	合資会社 稲川酒造店	耶麻郡猪苗代町字新町4916	蔵・倉庫	酒米蔵	1868年	明治元年	木造	1	1
	33-2	S家住宅	M・S	耶麻郡猪苗代町	住宅	住宅		大正初期	木造	2	1
	33-3	R家住宅	R・H	耶麻郡猪苗代町	住宅	住宅	1844年	大正15年	木造	1	1
<b>喜多方 集計</b>											<b>5</b>
南会津	1-3	旧佐藤材木	S・S	南会津郡下郷町	事務所	旧事務所	1930年	昭和5年	木造	2	1
<b>南会津 集計</b>											<b>1</b>
相双	18-2	榎葉八幡神社	宮司	双葉郡広野町	寺院・神社	神社	拜殿：1965年	本殿：江戸中期 拜殿：昭和40年	木造	1	1
	18-3	益多嶺神社(甲子大國社)	宮司	南相馬市小高区	寺院・神社	神社	1944年	昭和19年	木造	1	1
<b>相双 集計</b>											<b>2</b>
いわき	18-1	K家住宅	K・Y(元船主)	いわき市	住宅	住宅		昭和20年代	木造	2	1
<b>いわき 集計</b>											<b>1</b>
											<b>67</b>

H26年度へリテージマネージャー  
【地域のお宝発見】

福島県歴史的建造物保全活用促進協議会

[演習 1-1] 地域のお宝発見

記入者氏名 1 五十嵐 聡

①名 称	松坂屋商会	④用 途	店舗
②所 有 者	平山健次郎	⑤建築年代	不明

③所 在 地 会津若松市東栄町 3-40

⑥構造形式  
 木造 2 階建て約 30 坪  
 屋根：寄棟赤瓦葺き  
 外壁：白漆喰仕上げ、一部(腰壁)下見板張り

⑦特 徴  
 会津若松市役所通りは会津若松市役所を中心として、東西及び南北約 300 メートルの商店街であり、いろいろなお店があるところから、「会津まちなかごった市」と呼ばれている。その中に、通りから一歩下がって目隠しをされているかのように日の目を見られない建物がある。  
 現在の店主の経営するバイク屋の前の持ち主であった、開業医を開いていた方の建物をそのまま利用して全面に下屋を増築した形となっていますが、景観上は少し残念な外印象となっている。  
 会津の特徴の一つである赤瓦、開口部は蛇腹の飾りに化粧格子ガラスの上下げ窓、化粧木鼻を用い、また玄関部分は片持ちの庇を設けることにより当時は病院としての特徴を演出していたであろう和洋の要素が入り混じった建物の造りとなっている。

(写真・略図など)



修景後 立面図

[演習 1-2] 地域のお宝発見

記入者氏名 1 五十嵐 聡

①名 称	大徳寺	④用 途	寺院
②所 有 者	大徳寺	⑤建築年代	嘉永 2 年(1849 年)

③所 在 地 河沼都会津坂下町大字牛川 4202

⑥構造形式  
 木造平屋建て(一部中 2 階)約 185 坪  
 曲がり屋、茅葺きの上カラー鉄板葺き  
 外壁：真壁漆喰塗り(一部、下見板張り)

⑦特 徴  
 会津には寺や仏像など歴史のある建物が多くあり、それは僧侶の徳一、又は空也の存在が大きく関係し会津の地に仏教文化が花開いたと考えられている。  
 本堂の創建年は 1548 年であったが嘉永元年に焼失し、翌年に再建され昔の風格を漂わせる造りとなっている。  
 本堂の奥の方に中 2 階の部屋があり、一見漆喰仕上げの壁と思いきやさらにその奥に隠し部屋があり、外観上は東側土間上部に部屋があるかのように騙し部屋の造りとなっていて防犯対策や密会が行われたと考えられている。  
 震災(中越から東日本)の影響として内部の漆喰壁が崩落し、建物全体的が傾いている。柱の傾きの大きいところでは 1/35 となっていて、柱と壁の隙間が目立ち部分補修はされているが早急の改修が望まれる。

(写真・略図など)



[演習 1-3] 地域のお宝発見

		記入者氏名	1 五十嵐 聡
①名 称	旧佐藤材木	④用 途	事務所
②所 有 者	佐藤定由	⑤建築年代	昭和 5 年(1930 年)
③所 在 地	南会津郡下郷町大字塩生字豊後海 1716		
⑥構造形式	木造 2 階建て約 30 坪 屋根：カラー鉄板葺き 外壁：御影石洗い出し仕上げ		
⑦特 徴	大正時代から材木業を営んでおり、木場と木材の切り出し場でもあって近所の家を借りて操業しており昭和 5 年に社屋を建設した。その後、昭和 30 年に旧下郷役場の建設にともない、木場の土地は売却することになった。 1 階部分は事務所と社長室・応接室、2 階は職人の寄宿舎として使用されていたが、現在は廃業され、家主の行事等に使われている。 外観は全て御影石の洗い出し仕上げの壁となっている。最上のパラペット部分には材木屋ならではの地場産無垢材を用い、また所々に壁飾りや屋号などを演出するエレガントなアクセントを加えている。内部の特徴として、廊下の突き当たり両側に階段がありループ状の構造となっている。		

(写真・略図など)



[演習 2-1] 地域のお宝発見

		記入者氏名	2 石津伸一
①名 称	諏訪神社	④用 途	神社
②所 有 者	諏訪神社	⑤建築年代	約 450~500 年前
③所 在 地	伊達市保原町富沢字諏訪		
⑥構造形式	木造平屋建て		
⑦特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 伊達市保原町富沢地区に位置する。</li> <li>■ 伊達氏初代朝宗が信州諏訪より勧請、当地に石宮を建立したと伝わります。</li> <li>■ 境内には、県北一の樹齢 400 年の大杉群があり天然記念物として指定されている。</li> <li>■ 本殿は古く、屋根はこけら葺き、上屋を掛け保存され現在に至る。</li> <li>■ 拝殿は大正期以前と推定される。</li> </ul>		

(写真・略図など)



演習 2-2] 地域のお宝発見

		記入者氏名	2 石津伸一
①名 称	小野家住宅	④用 途	住宅
②所 有 者	小野茂明	⑤建築年代	明治 20 年頃(1887 年頃)
③所 在 地	伊達市伏黒字北屋敷 3		

⑥構造形式  
木造 2 階建て

⑦特 徴

- 伊達市大正橋近くに位置し所有者は 9 代目。豪農として 90 町歩を有し、造り酒屋も営む。
- 住宅北側に井戸が 2 つあった事から二井屋と言う屋号を持つ。
- 建設には保原町の棟梁、広瀬藤太郎と言う方が関わり京都にも出向いたらしい。
- 当初は敷地内に母屋、文庫、酒蔵等が点在したが、腐朽により母屋、文庫は解体、酒蔵については、東日本大震災において大きく損傷し解体に至る。
- 終戦前には高松宮様の疎開先とされたが、終戦を迎え叶わなかった。

(写真・略図など)



[演習 2-3] 地域のお宝発見

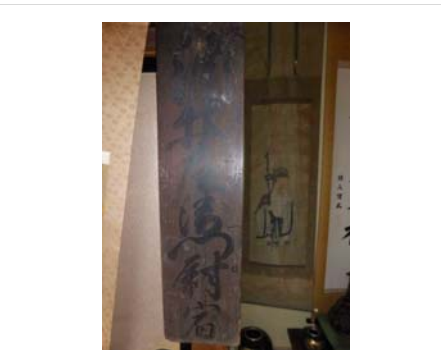
		記入者氏名	2 石津伸一
①名 称	樋口家住宅	④用 途	住宅
②所 有 者	樋口孝家	⑤建築年代	約 250 年前
③所 在 地	伊達市保原町上保原字大地内 32		

⑥構造形式  
木造平屋建て(伝統工法)

⑦特 徴

- 伊達市上保原のセントクリニック脇に位置する。
- 古くから庄屋、仕長として地域に貢献し 29 代目と言い伝えられる。
- 伝統工法で造られ地盤が良いことから震災での被害は殆ど無かった。
- 建設当時は 68 坪あったとされるが、現在は 50 坪と減築されている。
- 文化 11 年に庄内藩藩主、酒井左右衛門尉が宿泊された記録が残っている。
- 周辺には明治期に建築された住宅が点在している。

(写真・略図など)



演習 6-1] 地域のお宝発見

		記入者氏名	6 加藤孝栄
①名称	H家酒造店	④用途	住宅蔵酒造倉庫
②所有者	H様	⑤建築年代	築 200 年 文化 11 年(1814 年)
③所在地	福島市飯野町		

⑥構造形式  
木造 2 階建て(在来木造工法) 土蔵造り腰瓦 軒天 鼻隠し 土塗漆喰仕上げ 蔵塀赤瓦葺き 主屋銅板葺き 赤煉瓦煙突 檜造り門 井戸水屋 米蔵 倉庫蔵 全 9 棟

⑦特徴  
昭和 40 年ごろまで酒造製造販売をしていた。町中心部にあり赤煉瓦造りの煙突と大壁漆喰塗に腰瓦屋根葺き瓦の赤のコントラスト、外周を漆喰壁と石積みは一際目立つ建物である。  
また馬に乗って出入り出来る檜造りの門があり、脇には見張り番のぞき窓がある。その脇はガラスの引違いの 4 間開口の店の入り口があり、洗出し土間となり 3 枚組の板戸がシャッターの様に収納される。2 階は客間となり、宿泊できるようになっていて其処の階段は箱引出し階段で収納もされるようになっている。左側には高貴な客様に総檜造りの客間と 4 間長さの一枚檜板造りの廊下がある。  
主屋は木造 2 階建てとなり 1 階は檜の差し鴨居が見られる位で今風にリフォームされている。2 階は杜氏や作業人の宿泊できるように仕切れ、あとは製品の加工場になっている。  
酒蔵は一部改造されているが当時の面影がわかり、そびえ立つ煉瓦の煙突は震災で一部落下した。また当時の道具機械類がそのままに残っていて、2 キロ先位から引き水をしていた用水井戸があり、その脇には手入れされている庭がある。  
震災では瓦屋根と漆喰壁が割れ落ちたがどちらも補修されていた。  
屋敷と主屋が大きくて手入れが大変との事でした。主人は壊すことは無いとの事。公開はしていません。

(写真・略図など)



演習 6-2] 地域のお宝発見

		記入者氏名	6 加藤孝栄
①名称	T様蔵	④用途	蔵
②所有者	T様	⑤建築年代	明治期
③所在地	福島市飯野町		

⑥構造形式  
土蔵造り 3 階建て 腰瓦 益子焼瓦

⑦特徴  
ここ飯野町内には店舗兼、住宅、倉庫の土蔵が点在する中でもひとときわ目に付く土蔵です。二つ並ぶ蔵の左側は蚕のときに使用していたとの事、一方は蔵座敷に成り 3 階には後付けの展望廊下が取り付けられて居ます。その少し離れたところには呉服倉庫と蔵座敷の蔵が有その屋根の鬼瓦は目に付く、土蔵と物置を併合し、防火盗難防止を兼ねた建築様式で屋根、腰瓦ともに赤瓦で外壁は大壁漆喰仕上げ、軒天、鼻隠し、と木部を一つも表さず赤と白、瓦のコントラストが美しく、何とも言えない。  
震災であちらこちらひび割れと壁の剥離がまだ治っていない。内部の公開は致しませんとの事。

(写真・略図など)



演習 6-3] 地域のお宝発見

		記入者氏名	6 加藤孝栄
①名称	I 様邸離れ	④用途	住宅、離屋
②所有者	神奈川県在住 I 様	⑤建築年代	明治後期
③所在地	福島市飯野町		

⑥構造形式  
木造在来工法 土蔵造り(なまこ壁) 日本瓦葺 銅板葺き

⑦特徴  
昭和 30 年代まで酒造りをしていた I 家の離れ。  
総檜造りの門構え、屋根は以前銅板葺でしたが何年か前に銀黒瓦に取り換え、その後震災で漆喰壁、なまこ壁が剥がれたまま。  
母屋は総檜造りで差し鴨居、柱他造作は檜普請で 1 番の見応えは 4 間間口奥行 0.5 間の廻り廊下、板は一枚板の檜の板張で木目が美しく、奥には隠し部屋が在り床の間と書院が作られている。  
何代も続く当時の酒屋の繁盛した時期の贅沢な造り、地元の宮大工小柴作で釘を使わないでの造作は大工の手本になる建物です。  
脇の土蔵は倉庫と台所で、通路になる部分に二層式風呂場と大小用の瀬戸の便器トイレがあり、配管は最近の物に成って居るが、他は当時のままに成っている。  
酒蔵と主屋と工場は取り壊され工場が建っていますがその敷石は残っています。  
公開はできませんとの事。

(写真・略図など)



[演習 7-1] 地域のお宝発見

		記入者氏名	7 川崎直竹
①名称	T 家住宅	④用途	専用住宅
②所有者	T・K	⑤建築年代	大正 8 年(1919 年)・昭和 50 年(1975 年)に屋根及び外部建具の改修
③所在地	伊達市霊山町		

⑥構造形式  
木造 3 階建て・屋根：(創建時木庭葺き～現況和瓦葺き)  
外壁：土壁(荒壁)

⑦特徴  
■養蚕農家・田の字プラン・煙出しの越屋根があり、この地方特有の民家スタイルである。  
■切妻屋根のせがい(船柁)造りで軒の出が深く、建物のボリュームに合ったスケール感が良い。  
■大工は地元の岡崎建築所。建築主所有の山から材木を切りだして建てられた。栗の土台が素晴らしい。  
■屋根は緩い「むくり屋根」となっており、養蚕農家の屋根としては珍しい。

(写真・略図など)



せがい(船柁)造り



[演習 7-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		7 川崎直竹	
①名称	須川南宮諏訪神社	④用途	神社
②所有者	宗教法人 須川南宮諏訪神社	⑤建築年代	安政 2年(1855年)拝殿建立 明治 29年(1896年)本殿建替え
③所在地	福島市伏拝字清水内		
⑥構造形式 木造平屋建て 拝殿：流れ造・板倉造・石場建て 幣殿：切妻屋根 本殿：神明造・土壁 屋根：拝殿 創建時(安政 2年)不明 明治 29年に和瓦に葺き替え 本殿 和瓦 平成 23年東日本大震災により屋根の破損。平成 25年ガルバニウム鋼板に葺き替える。			
⑦特徴 ■ 明治 29年本殿建替え後、明治 30年郷社に昇格。当時、郷社は福島市内で稲荷神社他 5社のみ。 ■ 棟札に大工：丹治忠吉・渡辺茂七・丹治伝之助 石工：渡辺佐七の銘あり。 ■ 虹梁・蝦虹梁・たばさみ・木鼻・彫刻欄間の出来が素晴らしい。 ■ 「たばさみ」は無垢材を削り貫き、中に鯉の彫刻がはめ込まれており、とても珍しいものです。			

(写真・略図など)



虹梁と彫刻欄間



木鼻(象の鼻と獅子)



海老虹梁と手狭(たばさみ)

[演習 7-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		7 川崎直竹	
①名称	りょうぜん里山がっこう	④用途	地域交流体験施設
②所有者	NPO 法人りょうぜん里山がっこう	⑤建築年代	昭和 23年(1948年) 石戸村石戸村立中学校 昭和 44年(1969年) 霊山中に統合(廃校) 昭和 44年(1969年) 現在地に移築 昭和 44年～平成 4年 (1969年～1992年) ニット工場として再活用 平成 12年～現在 (2000年～) 交流体験施設として再活用
③所在地	伊達市霊山町大石字田代 5-1		
⑥構造形式 木造 2階建て・切妻屋根・スレート瓦葺き・外壁(創建時下見板張り～現在金属サイディング張り) 将来外壁は創建時の下見板張りに復元予定。			
⑦特徴 ■ 校舎として建設され、町村合併により廃校となり、繊維会社の工場として再活用された後、社会的時代背景により繊維会社の廃業が決まり、現在は NPO 法人の地域交流施設として活用されている。 ■ 歴史を感じさせる建物の活用例として取り上げました。			

(写真・略図など)



創建時の写真



## [演習 8-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		8 菅野禎人	
①名 称	八雲神社(牛頭天王)	④用 途	神社
②所 有 者	八雲神社	⑤建築年代	神殿：文化9年(1812年) 拝殿：安政4年(1857年)
③所 在 地	福島県伊達市片町37		
⑥構造形式(拝殿に関して：伊達町史 第5巻参照) 木造：平六間半×妻二間半 外側桝組：二手先 ・母屋桝組：出組 妻虹梁：菊カ彫 ・二重虹梁：カ若葉 ・表虹梁：浪ノ彫 屋根流破風			
⑦特 徴 ■尾張国(現名古屋)の熱田神社八雲神社の御分霊とされ、大同2年に征夷大将軍坂上田村麿が先勝を祈願し、無事に東夷をなしたことにより遷座勧請された。神号は牛頭天であった。 ■寛政10年(約170年前)に火災のために、古文書古器物とともに焼失している。その後、文化9年に神殿を、安政4年に拝殿を再建している。 ■明治2年の神仏分離令により神号を牛頭天王から八雲神社となった。 ■近くの熱田神社と合わせて行われる例大祭である「天王祭」が昭和31年に福島民報社より福島県十大祭に顕揚されている。 ■天王祭は7/24, 25に行われており、今なお地域の活力を生む場を作り出している。			

(写真・略図など)



## [演習 8-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		8 菅野禎人	
①名 称	喫茶店 クラ KISSACO KURA	④用 途	飲食店(喫茶店)
②所 有 者	熊坂国男	⑤建築年代	明治32年(1899年)
③所 在 地	伊達市保原4-19		
⑥構造形式 煉瓦蔵 小屋組：トラス構造			
⑦特 徴 ■元の用途は真綿の保存に用いていた蔵。 ■湿気を防ぐため、床は地面から高くしてある。 ■柱梁は杉材を用いているが、床壁板はすべて栗材を用いている。 ■蔵内部少しでも広く取るため、2階へ上がる階段は半螺旋形状となっている。(写真参照) ■小屋組のトラス吊束に建築年代の記名有り。(写真参照) ■店舗(蔵の前)にはもともと母屋があったが、今は解体されている。解体された家にあった神棚が店舗に設置されている(写真参照)。店舗の什器も蔵や家の廃材を活用したものでつくられている。			

(写真・略図など)



演習 8-3] 地域のお宝発見

記入者氏名	8 菅野禎人
④用途	拝殿観音堂
⑤建築年代	再建：元禄 2 年(1689 年)
③所在地	伊達郡桑折町大字万正寺字坂町 20

⑥構造形式  
 木造：三間四面  
 屋根：茅葺→後に銅葺(文政 9 年)

⑦特 徴  
 ■ 観音寺は信達三十三観音霊場の第 19 番霊場、奥州第 12 番霊場である。  
 ■ 宗派は浄土宗であり、伊達五山の一つとして宝治元年に建立された。  
 ■ 御堂にはご本尊である正観世音の他、不動明王、毘沙門天の 3 体が安置されている。  
 ■ 寛政 8 年に御堂廻りを修理している。その際、廻縁、高欄、唐金擬宝珠を再建している。  
 (桑折町史より)

(写真・略図など)



[演習 9-1] 地域のお宝発見

記入者氏名	9 小坂和也
④用途	山門
⑤建築年代	年代不明 (寺院は明治 5 年焼失)
③所在地	伊達郡国見町大字泉田字立町 18-3

⑥構造形式  
 切り妻屋根 瓦葺(以前はカヤ葺) 2 間×2 間

⑦特 徴  
 福島盆地には、観音霊場巡りを行なう霊場が存在していた。その中の信達坂東三十三観音の 27 番目の観音信仰と養蚕を願う巡礼路として整備されていた。  
 山門を入ると口元を赤色に塗られた迫力のある龍の彫刻に感銘するとともに、その他の彫刻の素晴らしさに驚嘆した。  
 和尚に伺ったところ、屋根はカヤ葺きの記憶があるとのこと。詳しい資料は明治 5 年に焼失したが、建物の重厚さや彫刻の力強さに時代を感じる。  
 また、明治 6 年にこの寺に小学校を開設し、現在の桑折町立半田醸芳小学校に至っている。

(写真・略図など)



[演習 9-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	9 小坂和也
-------	--------

①名 称	後藤征男邸	④用 途	住宅
②所 有 者	後藤征男	⑤建築年代	昭和 17 年(1942 年)
③所 在 地	伊達郡国見町		

⑥構造形式  
切妻屋根 2 階建て 5 間×10 間 換気口(養蚕住宅の煙出し) 船柵造り(軒)  
1 階住宅 2・3 階吹き抜けで外壁土壁造り

⑦特 徴  
かつて、小坂地区も養蚕が盛んであり、養蚕住宅が点在していた。今では珍しく、玄関に入って土間と囲炉裏があり、自在鉤が梁から吊るされていた。現在は、土間と囲炉裏をガラス戸で仕切っているが形は残っている。(施主)  
2・3 階には蚕の飼育部屋を設置してあった。住宅と蚕室を併用した住宅構造を持ち、室内温度を効率的に管理するため、人と蚕が一体となって生活していた今では珍しい住宅である。  
また、桑の葉を貯蔵していた地下室が今も残っている。手前の納屋は昭和初期の建物で、屋根はセメント瓦、壁は土塗壁である。  
また、東日本大震災の影響がほとんど無かったということには驚きを隠せない。

(写真・略図など)



[演習 9-3] 地域のお宝発見

記入者氏名	9 小坂和也
-------	--------

①名 称	福源寺地藏庵観音堂	④用 途	寺院
②所 有 者	仏母寺(小野睦雄様)	⑤建築年代	明治 8 年(1875 年)
③所 在 地	伊達郡国見町大字鳥取字鳥取 24		

⑥構造形式  
白漆喰の土蔵造り、四面庇 切妻屋根赤トタン葺 正面は切妻に鬼瓦

⑦特 徴  
正面切妻の鬼瓦、隅部の持送りなどの意匠が凝らされている。  
内部の天井には明治 9 年(1876 年)に描かれた花や鳳凰の絵が描かれ、透かし彫りの彫刻などの装飾が施されている。正面板戸の裏側には山口村棟梁宇源次との墨書が確認できる。  
福島盆地には観音霊場巡りを行なう霊場が存在する。その中の信達三十三観音霊場の 21 番札所が福源寺地藏庵観音堂であり、巡礼者が奉納した板札が堂内にある。  
鎌倉方の武将が藤原方の本陣に後方の山々から奇襲をかける際「鳥取峠を越えて」との記述があり、江戸時代に小坂宿が存在する以前からこの地が小坂地区の中心である事がわかる。

(写真・略図など)



[演習 12-1] 地域のお宝発見

記入者氏名	12 斎藤祐一
④用途	教会
⑤建築年代	明治 38 年(1905 年)

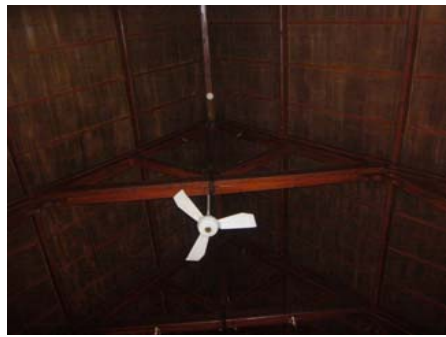
①名称	福島聖ステパノ教会
②所有者	日本聖公会東北教区
③所在地	福島市置賜町 8-29

⑥構造形式  
山小屋風木造建築

⑦特徴

- 設計者は宣教師のジェームズ・マクドナルド・ガーディナー(1857~1925)。
- 街中のビルの谷間にひっそりと建つ、三角屋根が重なる山小屋風教会であり、聖公会の東北地方宣教の第一歩となった教会である。
- 三角屋根の勾配はかなり急(矩勾配程度か)で、外壁は三角形のバットレスで支えられている。
- 窓枠は荒削りで手作り感が漂い、尖塔型や変わった三重ねの窓もある。
- 内部は天井がよし張りで和風建築の名残を感じさせる。祭壇には木彫りが施されている。
- 震災によりヴォーリス設計の福島教会が取り壊されるなどの影響がある中で、この教会は震災の被害はほとんどなかったが、今年 2 月の大雪で雨樋が全て破損したとのことである。
- 設計者の J・M・ガーディナーは、1880 年に来日し立教大学初代校長を務めた。このため、本教会の祭壇と立教大学にある教会の祭壇は、ほぼ同じ意匠・飾りとのことであった。

(写真・略図など)



[演習 12-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	12 斎藤祐一
④用途	白河駅舎及びプラットフォーム
⑤建築年代	大正 10 年(1921 年)

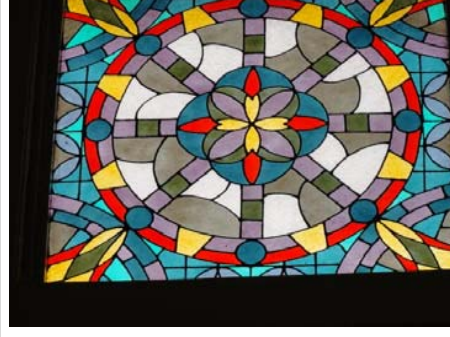
①名称	白河駅プラットフォーム
②所有者	J R 東日本
③所在地	白河市郭内

⑥構造形式  
木造平屋建て片側入母屋造り

⑦特徴

- 駅の開業は明治 20 年であるが、駅舎は大正時代の建設で、装飾やステンドグラスに大正浪漫が感じられる。
- 外装は赤瓦と白壁のコントラストを基調とし、正二等辺三角形の巨大なファサードで、ボリューム感のある重厚なプロポーションである。また、幾何学模様ステンドグラスの明かり窓が装飾されている。
- 改札口は広く取られていたが、新白河駅の開業等により、現在開いているのは 1 つだけである。
- プラットフォームは 1 面 2 線を有する島式地上ホーム。木造のプラットフォームが現存するのは珍しい。駅舎とは地下通路で繋がっており、1 日約 900 人の乗降客がある。
- 白河市景観形成基準では、市街地から小峰城への眺望確保のため、プラットフォームの屋根を超えない高さとすることや、大正ロマンの雰囲気を損なわない意匠への配慮を求めており、駅周辺の景観拠点として位置付けられている。

(写真・略図など)



[演習 12-3] 地域のお宝発見

記入者氏名	12 斎藤祐一
-------	---------

①名称	本内八幡神社	④用途	神社
②所有者	本内八幡神社	⑤建築年代	昭和 19 年(1944 年)
③所在地	福島市本内字南古館		

⑥構造形式  
切妻造り平入りの八幡造り。  
拝殿が本殿より大きく、弊殿で繋がっており、純粋な双堂形のM字型八幡造りとは異なる。

⑦特 徴  
 ■ 文徳天皇天安元年(857 年)に、27 村の鎮守として創建されたと伝えられ、本内館の北側に位置し、福島市内に残る飯坂八幡、瀬上八幡、荒井八幡などとともに、中世土衆の館に付随した古社と考えられている。  
 ■ 江戸時代に建てられた神社が昭和 19 年まで残っていたとのこと、また、千木の外削ぎ内削ぎと男神女神との関係はない、との神官の話であったが、この神社は外削ぎである。  
 ■ 4 代前の神官は、伊勢神宮から来ていただいたとのこと。  
 ■ 建設当時の屋根は木羽葺きであり、その後瓦葺きとなったが、平成 17 年に銅版葺きにしており、屋根を軽くしたために、東日本大震災で大きな被害がなかったものと思われる。  
 ■ 周辺には館の名残りで、今も土塁の空堀の遺構が残っている。

(写真・略図など)



[演習 15-1] 地域のお宝発見

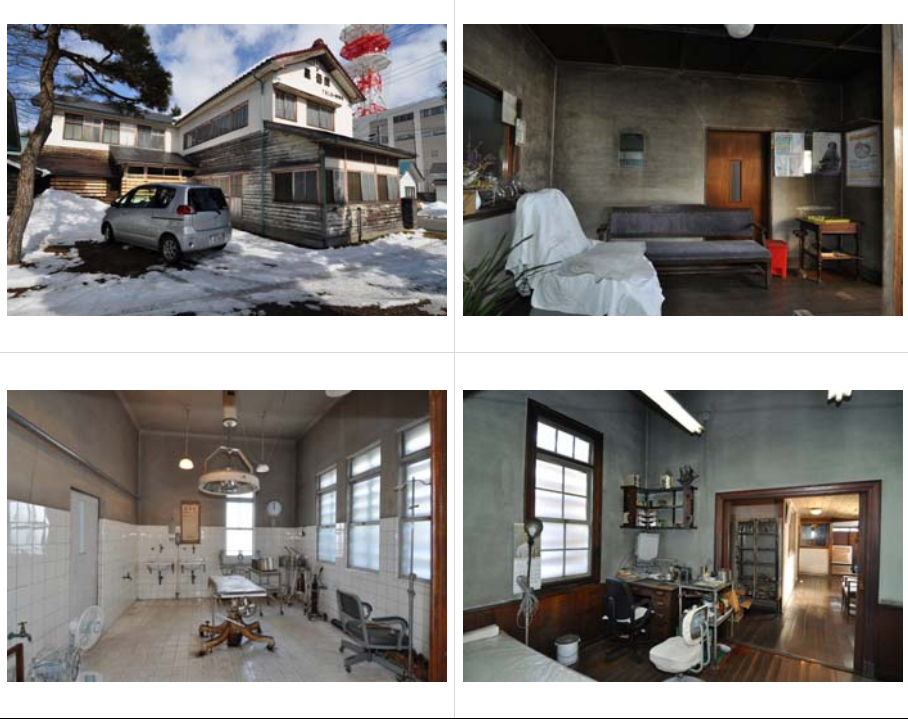
記入者氏名	15 佐藤綾美
-------	---------

①名称	H 医院	④用途	診療所
②所有者	Y. H	⑤建築年代	昭和 4 年(1929 年)
③所在地	喜多方市内		

⑥構造形式  
木造 2 階建て 瓦葺き (一部カラー鉄板葺き)

⑦特 徴  
 当医院は、昭和 4 年に建築された外科診療所です。当時の病院・診療所建築を代表する建築と言える平面計画となっており、受付、待合室、診察室、手術室、病室等が合理的に配置されています。  
 手術室は、建設当時の面影をそのまま残しており、明るく清潔感のある大きな白いタイル張りが特徴となっています。  
 また、H 院長は 2 代にわたって監察医として検死を担当した外科医だったとのこと、当医院が平成 27 年 2 月に公開予定の映画「悼む人」のロケ地ともなりました。  
 現在は、医院は廃業されていますが、奥さんが綺麗に維持管理しており、趣味の絵画のギャラリーとして活用したりしていますが、今後も面白い活用が期待されます。

(写真・略図など)

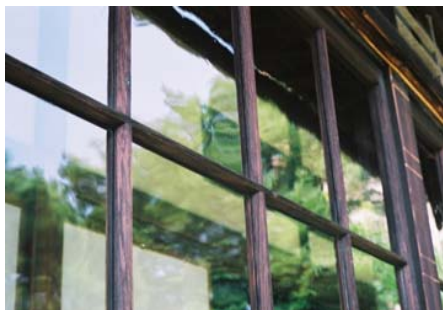


[演習 15-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		15 佐藤綾美	
①名称	M家住宅	④用途	専用住宅
②所有者	福島市	⑤建築年代	昭和2年(1927年)
③所在地	福島市		
⑥構造形式 木造平屋建て、寄棟、瓦葺き屋根			

⑦特徴  
昭和2年には、純和風建築の旧日本銀行福島支店長役宅が建てられた（戦前の日本銀行の役宅として現存するのは福島と新潟（昭和8年築）の2つだけ）  
木造平屋建て、寄棟、瓦葺きの建物で、阿武隈川を借景にした日本庭園と中庭を取り囲むように各部屋が配置されており、畳廊下や手づくりガラスなど昔ながらの懐かしい雰囲気を残している。  
平成12年3月、都心地区の回遊の拠点及び賑わいの創出を目的に旧役宅を福島市の所有とした。建物は、名称を「御倉邸」としてそのまま残し、御倉町地区公園として、一般に開放している。  
園内では、茶道連絡協議会による定例茶会の実施や、地元協議会で開催される演奏会などのイベントのほか、隣接する河川敷についても公園として活用し、大変美しい水辺景観をもつ限畔散策や御倉町地区の歴史と文化を実感できる「市民の憩いの場」として多くの市民や観光客に親しまれている。

(写真・略図など)



[演習 15-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		15 佐藤綾美	
④名称	T家住宅の主屋と土蔵	④用途	専用住宅
⑤所有者	N. T	⑤建築年代	昭和初期
⑥所在地	喜多方市		
⑥構造形式 主 屋：木造2階建て 屋根：瓦葺き / 外壁：土壁 土 蔵：木造2階建て 屋根：瓦葺き / 外壁：三津谷煉瓦			

⑦特徴  
T家住宅は、昭和初期に建てられ、当時の家業は養鶏業（ヒヨコ生産）を営み一財をなしました。入母屋の屋根や玄関、また座敷の柱、梁、天井は漆塗りで仕上げられて、丁寧に造り込まれています。土蔵も同時期に建てられ、喜多方市の地場産業であった三津谷煉瓦を使用しており、飯豊連峰を背景に喜多方を代表する景観を形成しています。

(写真・略図など)



[演習 18-1] 地域のお宝発見

記入者氏名	18 嶋貴光喜
④用途	住宅(元船主)
⑤建築年代	昭和 20 年代

①名称	小松家住宅
②所有者	小松様
③所在地	いわき市江名

⑥構造形式  
木造 2 階建て軸組構造  
屋根：道路側入母屋・反対側切妻、瓦葺き

⑦特徴  
壁は下見板張、上部漆喰塗りで、軒を深く出すため出桁構造となっています。津波は床上まで上がったようで、震災後玄関サッシを入れ替えています。玄関を入ると上部に廊下が外部に面して有り、1・2 階吹き抜けとなっている居間には、往時を思わせる大きなお宮があります。また座敷や床の間の欄間も透かし彫りで素晴らしいものです。うだつが上がっている家で隆盛を誇っていた当時を彷彿とさせます。庭にあった井戸は津波で使えなくなり埋めたそうです。井戸のそばにあった灯籠も礎石だけ残り灯籠本体は流されてしまっで行方がわからないとのことでした。  
また、この周辺には同年代の物と思われる建物がいくつか残っており将来に残していきたいものです。震災前は港に面した通りにこうした建物が沢山存在していたそうです。5.6m もの津波が押し寄せ被害にあい、壊されてしまったのはとても残念です。  
今後「江名の町再生プロジェクト」の皆さんに、私に出来る事があれば協力させて頂きたいと思います。

(写真・略図など)



[演習 18-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	18 嶋貴光喜
④用途	神社(宗教法人)
⑤建築年代	本殿：江戸中期 拝殿：昭和 40 年(1965 年)

①名称	檜葉八幡神社
②所有者	(宮司)岡田正士
③所在地	双葉郡広野町

⑥構造形式  
木造  
拝殿：入母屋瓦葺き、唐破風で彫刻も深く部分的に透かしとなっている。  
神殿：流れ造り

⑦特徴  
昔は五社山に鎮座されていたが、江戸時代、明暦 3 年(西暦 1658 年)の火災により、現在地に遷宮されたとの事。その後江戸時代中期に火災にあい建て直した、また昭和 30 年初期拝殿が火災に合うが神殿は焼け残った。  
しばらく仮拝殿であったが昭和 40 年 9 月、現在の拝殿が竣工した。また、神殿に架かる大屋根は明治中頃のもので修繕しながら時を重ね現在に至っているとの事でした。  
この神社は鎌倉の鶴岡八幡宮を起点とし、勿来の関をこえて植田八幡・飯野八幡・檜葉八幡と続く、五里ごとに石清水八幡宮を勧請して造られた八幡宮の一つである。  
神殿は流れ造りです。礎石が沈下したようで、柱の下に木端を入れてレベル調整されており、早急に修繕が必要と思われる。今回の震災で拝殿の瓦が落ち葺き直したとの事です。  
岡田宮司は長年続けてきた地域の伝統を守る為に早く帰郷し氏子らが一日も早く戻ってこれるように、いつでも参拝出来るように配慮しながら、住民の安寧を祈っている。

(写真・略図など)





## 〔演習 18-3〕地域のお宝発見

記入者氏名		18 嶋貴光喜	
①名称	益多嶺神社(甲子大国社)	④用途	神社
②所有者	(宮司)田代公啓	⑤建築年代	昭和 19 年(1944 年)
③所在地	南相馬市小高区		

## ⑥構造形式

木造 拝殿：入母屋瓦葺き 神殿：流れ造り

## ⑦特徴

元創建は日本武尊の実父景行天皇の御世、東夷平定の折出雲大社から勧請したと伝えられている。元は中郷北原(現原町区)にあったとされ、南北朝が合一して間もない応永2年(西暦1395年)現在地に遷宮された。平坦部はその当時深い入り江で太平洋の波が輝く景勝の地であったであろう。現在小高神社がある場所、小高城を浮船城と云っていた事を思えば納得できる。

延喜式内社で祭神は出雲大社より分霊した大国主命・少彦名命と伝えられている。京都府亀岡市郊外にある元出雲と云われる出雲大神宮の境内に雰囲気似ている。一般的には「甲子大国社」と呼ばれ親しまれており、震災前までは「甲子溝」を組織しての参拝者が多かった。

明治35年4月29日の小谷大火により焼失、さらに昭和19年6月1日の落雷により社殿及び宝物等を失い、その後昭和23年に再建されたのが現在の社殿である。

拝殿は入母屋で瓦葺き、神殿は流れ造りとなっている。神殿の石積みは昔のままだそうです。

(写真・略図など)



## 〔演習 20-1〕地域のお宝発見

記入者氏名		20 鈴木宏幸	
①名称	矢吹家住宅	④用途	住宅
②所有者	T. Y	⑤建築年代	明治20年(1887年)～大正3年(1914年)～昭和初期
③所在地	福島市		

## ⑥構造形式(主なもの)

座敷蔵(明治20年)：土蔵造り2階建て、切妻銅板葺、白漆喰、腰なまこ壁

主屋(明治45年)：木造2階建て、入母屋風のあずま造り金属瓦葺、真壁・漆喰塗

文庫蔵(大正3年)：土蔵造り2階建て(組石造基礎・1階なまこ壁)、切妻瓦葺

新蔵(昭和初期)：土蔵造り2階建て、切妻瓦葺屋根

その他、仏間・新座敷・味噌蔵・木小屋・板の間・道具家・大門・小門・門・塀がある。

## ⑦特徴

矢吹家(現在：9代当主)は、福島市成川地区に位置し古くから福島の豪農として繁栄されてきました。敷地全体が、水路と土蔵群・門・塀に囲まれ、明治・大正時代の趣を伝える屋敷景観を演出しています。

特に、座敷蔵と文庫蔵の切妻屋根・外壁の美しさは、保存状況の良さを感じさせます。さらに、母屋の大屋根(特にあずま造りと言われる屋根形態)は、明治後期の技術の高さと意匠性を感じさせます。

また、建物内部、特に座敷蔵は当時の繁栄を思わせる檜などの素材・床の間・書院窓・屏風ふすま・細かい組子の欄間・建具などがあり、仏間の天井・壁にも貴重な時代装飾が施されています。さらに、蔵座敷と新座敷には茶の湯の炉が切られ、茶道にも親しめる文化的しつらえとなっています。

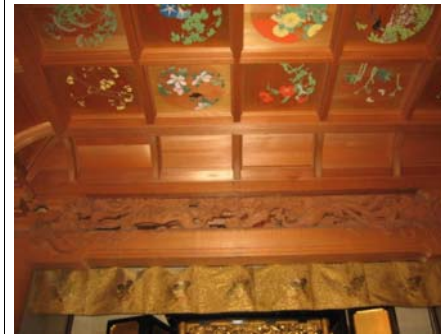
(写真・略図など)



文庫蔵と母屋の外観



座敷蔵の外観



仏間の天井



座敷蔵(床の間)

## 【演習 20-2】地域のお宝発見

記入者氏名		20 鈴木宏幸	
①名称	旧渡邊家住宅	④用途	住宅・アートスペース
②所有者	佐藤 有	⑤建築年代	明治16年(1883年)登記(江戸末期)
③所在地	福島市大森字下町27		

## ⑥構造形式

母屋：木造2階建て、切妻瓦葺  
 座敷蔵：土蔵造り2階建て、切妻及び寄棟瓦葺、組石造基礎、  
 作業場：木造2階建て、越屋根瓦葺  
 合計：127坪(1階：90.7坪、2階：36.3坪)

## ⑦特徴

旧渡邊家は、福島市・大森街道のT字路正面(見附)に位置し、昭和40年頃までは「月光醤油」と言う醤油製造を営まれてきました。そして、その地理的立地から地域の人々は「見附」と言う通称で親しんできました。現在は佐藤家が所有し「ART SPACE 月光醤油(平成24年から)」として活用されています。

建築物は、旧家の当主・渡邊七郎治が分家し江戸末期に建築されたとされ、母屋・座敷蔵・作業場で構成されています。部分補修・改修は施されているものの大半は当時のまま保存されています。また、8年頃前の道路拡張工事により前庭が半分になりましたが、門・塀の移築を行い当時の面影を継承し旧城下町(旧大森城址)の沿道景観形成に寄与しています。

(写真・略図など)



門・塀と建築物全体の外観



座敷蔵の外観



玄関正面の母屋の座敷



座敷蔵の1階座敷(床の間)

## 【演習 20-3】地域のお宝発見

記入者氏名		20 鈴木宏幸	
①名称	阿部家住宅(奥座敷と土蔵)	④用途	住宅
②所有者	T. A	⑤建築年代	明治元年(1868年)登記
③所在地	福島市		

## ⑥構造形式

奥座敷：木造平屋建て(※改築母屋は木造2階建て)、梁間2間半・桁行7間、切妻瓦葺屋根  
 土蔵：土蔵造2階建て、切妻金属屋根葺き、梁間3間・桁行5間半

## ⑦特徴

福島市笹木野地区にある「阿部紀家」の分家にあたる家系の住宅です。「阿部紀家」が、明治元年に建築したとされる民家を大正後期に現所有者の祖父(阿部紀家から分家)が譲り受け、住まわれてきた住宅です。昭和52年に母屋の大半を改築し奥座敷の外壁・屋根の改修も行っていますが、奥座敷内部は保存され今も客間として使用されています。その奥座敷を廻る「縁」も当時のまま保存され、北側の便所(明治時代の陶器)も保存されています。

また、母屋の北西に配置された土蔵も保存され、倉庫として使用されています。外装仕上は現代の塗装で修繕されていますが、土蔵づくりの壁及び屋根を構成する木材などは当時のままと考えられます。

(写真・略図など)



奥座敷の床の間



奥座敷の書院窓



震災で崩れた座敷の壁(竹木舞下地)



土蔵の外観(外壁・屋根は近年改修)

[演習 23-1] 地域のお宝発見

記入者氏名	23 但野 廣
-------	---------

①名 称	宮下観音堂 (もりこ観音)	④用 途	寺院
②所 有 者	もりこ観音講(氏子)	⑤建築年代	明和 8 年(1771 年)?
③所 在 地	福島市大笹生字宮下		

⑥構造形式  
木造 平屋建て 宝形型屋根 鉄板葺き  
正面 3 間 幅 3.86 メートル 奥行 2 間 幅 3.86 メートル 高さ 約 6 メートル

⑦特 徴  
■ 宮下観音の本尊は千手観音菩薩で信達坂東第十七番札所になっており、通称は「もりこ観音」と呼ばれて親しまれてきました。「もりこ観音」とは観音堂内に慈母観音が祀られていることから、このように呼ばれております。胸に幼児を両手に抱えた石造の観音様で、微笑ましいお姿をしているそうです。  
■ 観音堂は宝形型の茅葺屋根でしたが、平成 6 年(1994)に鉄板屋根に葺き替えられております。頂きには石造の露盤付き宝珠が乗っております。  
■ 建物全体が赤く着色されており、組物にも極彩色が施されております。入口の両側には金剛力士像、壁には聖賢人の浮彫が施されていますが摩耗や損傷が見られて残念です。桁上の墓股には龍、虎、鹿、椿、芍薬などの彩色された透かし彫りの彫刻が施されております。  
■ 堂前に明和八年(1771)魁樹和尚代に造立された常夜燈があることから、建築年代はその以前と推測されます。

(写真・略図など)



「もりこ観音」全景



垂木・組物状況



北側壁面状況



彩色浮き彫(龍)

[演習 23-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	23 但野 廣
-------	---------

①名 称	福島県郡山合同庁舎本庁舎	④用 途	役所建築
②所 有 者	福島県	⑤建築年代	昭和 5 年(1930 年)
③所 在 地	郡山市麓山一丁目 1 番 1 号		

⑥構造形式  
鉄筋コンクリート造 2 階建て(搭屋を含めると 4 階建て)  
建築面積 1,610.35 平方メートル  
延べ床面積 3,906.93 平方メートル

⑦特 徴  
■ 福島県郡山合同庁舎は昭和 5 年(1930)に旧郡山市役所として建てられた近代建築で、現在では少なくなった当時の「権威の象徴としての役所建築」として非常に貴重な存在です。  
■ 鉄筋コンクリート 2 階建て(搭屋を含めると 4 階建て)、陸屋根、設計は宮田荘七郎、施工は益子組が担当している。  
■ 基本的に左右対称のシンメトリーな構成で、玄関ポーチを含め中心部に凝った意匠を施し、搭屋があることで印象深い建築物であり、映画のロケ地として使用されたこともある。  
■ 昭和 43 年(1968)まで市役所として利用され現在は県の合同庁舎となっている。安積歴史博物館(旧福島県尋常中学校)、郡山開成館、郡山公会堂と郡山市の文化ゾーンとして保存すべき建物である。

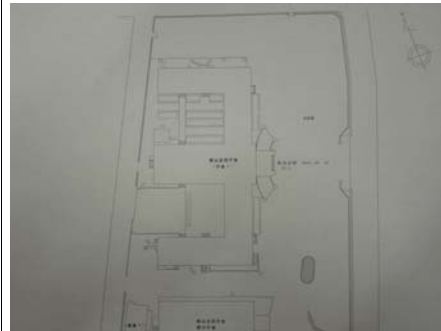
(写真・略図など)



正面



郡山合同庁舎全景



配置図(「ㄩ」の字型)



搭屋部分拡大

[演習 23-3] 地域のお宝発見

		記入者氏名	23 但野 廣
①名称	多宝山 東禅寺 山門	④用途	寺院
②所有者	多宝山東禅寺	⑤建築年代	文久 2 年(1862 年)
③所在地	福島市大笹生字上ノ寺 9		

⑥構造形式

木造 2階建て 入母屋屋根 銅板葺き  
間口 4.7メートル 奥行 3.44メートル 高さ 約12メートル

⑦特徴

- 「信達二郡村史」では、東禅寺は伊達家人瀬上氏八世康秀が瀬上館より大笹生城に移った後、明応 7 年 (1498) 開基となり、米沢輪王寺二世極堂宋三和尚を迎えて次号を「統禅寺」として開山された。
- その後、伊達氏は天文 19 年陸前岩出山に移り伊達氏ゆかりのほとんどの寺院は伊達氏と共に移り去ることになったが、統禅寺はそのまま残り、弘治 2 年陸奥の国白馬寺三世護叟洞守大和尚を請し、寺号を「東禅寺」と改めた。慶長年間上杉領となり、家臣福島郡代奉行跡部外記が中興する。
- 正徳 3 年火災により全堂宇を焼失。享保 7 年、本堂再建 (昭和 55 年大修理)。宝暦 4 年、庫裡再建 (昭和 48 年再建)。寛延 3 年大鐘を鋳造し鐘楼建立。天保 11 年、経堂再建 (昭和 55 年再建)。安政年間に観音堂建立 (昭和 52 年移転再建)。文久 2 年 (1862)、山門が建立された。
- 山門は建立年代が特定されており、また、当地方に少ない木造 2 階建ての堂々とした山門であり、2 階の窓は火灯窓となっているなどの特徴を持っている。

(写真・略図など)



山門正面



山門裏面



組み物状況



2階火灯窓

[演習 24-1] 地域のお宝発見

		記入者氏名	24 田母神一吉
①名称	高屋敷稻荷神社	④用途	神社
②所有者	高屋敷稻荷神社	⑤建築年代	昭和 9 年(1934 年)
③所在地	郡山市白岩町高屋敷 277-2		

⑥構造形式

本殿 木造平屋建て 日吉造  
屋根：カラー鉄板 外壁：土塗り

⑦特徴

- 伏見稻荷神社の流れを受け継ぐ稲荷神社。境内まで数多くの鳥居が連なっている独特の景観が特徴の稲荷神社である。商売繁盛の祈願に良いとされる。彫刻は彫師 渡邊左近によるものである。

(写真・略図など)



[演習 24-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	24 田母神一吉
-------	----------

①名 称	酒仙宿月形曲り家	④用 途	店舗
②所 有 者	酒仙宿月形	⑤建築年代	不明 平成 16 年(2004 年)移築
③所 在 地	郡山市田村町細田 地内		

⑥構造形式  
木造 2 階建て  
伝統的農家の建築様式  
曲り家 母屋と馬屋が L 型配置されている

⑦特 徴  
建築年代不明ですが、所有者が南会津郡伊南村より郡山に移築。同じ状態で移築したかったが法的規制で写真のようになりました。  
現在は住居兼店舗で使用しています。

(写真・略図など)



[演習 24-3] 地域のお宝発見

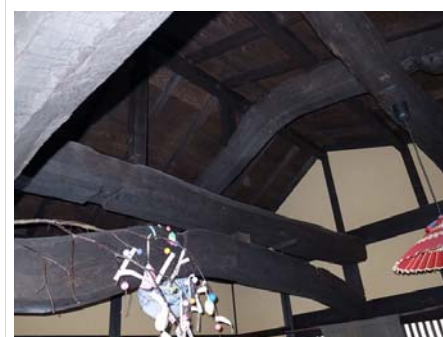
記入者氏名	24 田母神一吉
-------	----------

①名 称	酒仙宿月形ギャラリー	④用 途	店舗
②所 有 者	酒仙宿月形	⑤建築年代	不明 平成 22 年(2010 年)移築
③所 在 地	郡山市田村町細田 地内		

構造形式  
木造平屋建て  
伝統的建築様式

⑦特 徴  
建築年代不明ですが、所有者が湖南地方より郡山に移築。同じ状態で移築したかったが法的規制で写真のようになりました。  
内部は前の状態を保存され、所在地に溶け込んで存在しています。  
現在は店舗で使用しています。

(写真・略図など)



〔演習 25-1〕地域のお宝発見

記入者氏名		25 丹野義明	
①名 称	松川橋(めがね橋)	④用 途	橋(市道中町・下中島線)
②所 有 者	福島市	⑤建築年代	明治 18 年(1885 年)
③所 在 地	福島市松川町天明根 17-2		

⑥構造形式

アーチ橋(空石積み)橋長：15.40m  
幅員：道路部 5.6m 全体 6.22m

⑦特 徴

県令 三島通庸のとき、陸羽街道改修に伴い福島の信夫橋が 13 のアーチ橋により架設されるのを聞き及び、松川(現水原川)にもアーチ橋を架けようと戸長杉内省三郎らが、日夜奔走して架設された。石材は、金谷川浅川字五斗内から切り出された。

明治 18 年 10 月 10 日松川小学校校舎落成と同時に盛大に渡橋式が行われた。以来幾多の風雪に耐え、河川改修時の解体も逃れ、今も現役の市道として活用されている。

周辺の景観整備とともに後世に繋いでゆきたいアーチ橋である。

(写真・略図など)



〔演習 25-2〕地域のお宝発見

記入者氏名		25 丹野義明	
①名 称	本殿・経蔵(大般若堂)	④用 途	お寺
②所 有 者	原田山西光寺	⑤建築年代	1780 年代・寛政 11 年(1799 年)
③所 在 地	福島市松川町字町裏 35 番地		

⑥構造形式

【本 殿】木造平家建 屋根：入母屋銅板葺き(当初は寄棟茅葺き)平成 4 年改修  
壁：漆喰塗り 平面：当初より内陣奥一部改造

【経蔵(大般若堂)】土蔵造り平家建 屋根：切妻銅板葺き(当初は小羽葺き、その後鉄板葺き)震災後平成 24 年屋根、壁：漆喰塗り腰石貼り(当初はなまこ壁)外壁改修

⑦特 徴

【本 殿】開山は 16 世紀中頃 17 世紀中頃に現在地に移ってきたと伝えられている。本尊は、木造阿弥陀如来座像(福島県重要文化財)宝暦 12 年(1762)奈良東大寺より迎えた内陣が東西に軸を取り、内陣奥の西壁に葺土を設けてあり阿弥陀如来に対して光の調節を考えたのではと現住職が話された。(現在は板壁に改修され牌堂として使用)

【経蔵(大般若堂)】お経収める蔵として作られたが明治維新の神仏分離令により菅原神社の十一面観世音を祀るようになり、観音堂として地域住民はもとより街道を行き交う人々に広く親しまれた。(現在は本殿に安置されている。)

(写真・略図など)



[演習 25-3] 地域のお宝発見

記入者氏名 25 丹野義明

①名称	殿堂	④用途	お寺
②所有者	天龍山盛林寺	⑤建築年代	慶応2年(1866年)
③所在地	福島市松川町本町西裡15番地		

⑥構造形式  
木造平家建 屋根：寄棟茅葺き(1999年銅板葺きに改修) 壁：漆喰塗り、腰壁板貼り  
平面：内陣を中心にした基本的な寺院の形態(当時のまま)

⑦特徴  
奈良時代の創建と伝えられている。  
奥州街道八丁目宿の中ほど、八丁目城社の入口に位置し、八丁目宿を偲ぶ景観上大変重要な建造物である。  
明治6年八丁目小学校として、明治18年から松川村役場庁舎として、さらに昭和30年からは一時期ではあったが、天心保育園として活用され、この地域の学問や行政の発展に寄与してきた。  
昭和53年鐘楼が再建、新造された梵鐘には草野心平が命名した「一念百音」が刻まれている

(写真・略図など)



[演習 26-1] 地域のお宝発見

記入者氏名 26 長山圭一

①名称	旧俣会津電気工事の土蔵	④用途	居宅
②所有者	俣会津電気工事	⑤建築年代	明治初期：明治13年(1880年)以前
③所在地	会津若松市本町4-3		

⑥構造形式  
土蔵造り2階建て  
切妻屋根 金属瓦葺き、外壁黒色塗装仕上げ

⑦特徴  
■東日本大震災の被害により、多くの土蔵が解体されていく中、平成24年から2カ年の年月をかけ再生、修復されている。  
■俣会津電気工事は門田町日吉に移転したことから、地域への恩返しとして、蔵のある町並みを残す、「本町蔵再生事業」として保存工事を実施。  
■明治初期の通りに面していた店蔵を東向きから、南向きに曳きやし、壁、柱、敷き石等をそのまま活用しながら、下屋部分を増築。あわせて門、塀、植栽等を一体的に整備。  
■建築時は7代続いた金成薬店の店蔵であったが、現俣会津電気工事の先代の頃に取得し現在に至る。  
■建築時には他にも2棟の土蔵(座敷蔵、穀蔵)が存在していた。  
■会津若松市景観条例に基づく景観協定認定地区「融通寺町町並み協定」内の貴重な歴史的建造物。

(写真・略図など)



[演習 26-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	26 長山圭一
-------	---------

①名称	三笠園茶舗	④用途	店舗、倉庫
②所有者	國分洋子	⑤建築年代	明治後期：明治 37 年(1904 年)
③所在地	会津若松市本町 3-13		

⑥構造形式

店舗：木造平屋建て、切妻屋根 金属瓦葺き  
倉庫：土蔵造り 2 階建て、切妻屋根 赤瓦葺き

⑦特徴

- 明治後期に建築された当時は、呉服店(長門屋)の座売り店舗として活用されていた。その後、現在の茶舗となり現在の姿となった。
- 平成 17 年に景観協定地区における市の助成制度を活用し、店舗の妻壁に取り付けられていたサイディング等を取り外し、建築当時に近い姿に改修されている。また、店舗に付属する土蔵も同時に修繕が施された。
- 敷地内には店舗、土蔵との調和を図った自宅が建築されている。
- 会津若松市景観条例に基づく景観協定認定地区「融通寺町町並み協定」内の貴重な歴史的建造物。

(写真・略図など)



[演習 26-3] 地域のお宝発見

記入者氏名	26 長山圭一
-------	---------

①名称	四国屋の土蔵の連なり	④用途	居宅、倉庫
②所有者	四国屋	⑤建築年代	明治初期：明治 11 年(1878 年)
③所在地	会津若松市本町 4-16		

⑥構造形式

土蔵(母屋部)座敷蔵 1 棟：土蔵造り 2 階建て、切妻屋根 赤瓦葺き  
土蔵(路地側)倉庫蔵 2 棟：土蔵造り 2 階建て、切妻屋根 赤瓦葺き

⑦特徴

- 店舗は昭和 40 年代にパラペット形式の建物に建替えられているが、奥には 3 棟の土蔵が現存する。
- 3 棟の土蔵は裏路地から見ると赤瓦と白漆喰の「土蔵の連なり」を形成しており、会津若松のまちなかには数少なくなった土蔵の一団である。
- 土蔵には四国屋の荷印である「利(カネリ)」が鬼瓦や蔵印(妻印)に見られる。また、土蔵の腰回りには釉薬が施された陶板が埋め込まれている。
- 明治期に大規模な藍染工場として創業され、藍染は徳島県の特産物であったことから四国屋の名称となった。
- 会津若松市景観条例に基づく景観協定認定地区「融通寺町町並み協定」内の貴重な歴史的建造物。

(写真・略図など)





## 【演習 29-1】地域のお宝発見

		記入者氏名	29 蛭川礼二
①名称	宮代山王宮 日枝神社	④用途	神社
②所有者	宮代山王宮 日枝神社	⑤建築年代	明治 38 年(1905 年)
③所在地	福島市宮代字鍛冶畑 40 番地		

## ⑥構造形式

木造平屋建て神明造り

拝殿屋根：金属板一文字葺き(千木・鯉木有り)外壁：板倉造り(本実板張り)

幣殿屋根：金属板瓦棒葺き(千木・鯉木無し)外壁：堅羽目板(相じゃくり張り)

本殿屋根：金属板横葺き(千木・鯉木有り)外壁：板倉造り(本実板張り)

## ⑦特徴

永承年中源頼義陸奥守に任せられ、安倍頼時を征討(天喜元年鎮守府將軍となる)の際この地に早城を築き、伸位門に宮地を設け国家鎮護武運長久を祈願するため日枝大社を齋祀地方大鎮守とす。

康平五年(1062)子義家さらに当社を尊崇すること厚く宮祀を改造す。

其の後乾元元年源朝定のご朝明神殿を再宮せりと云う。尚天正年中領主瀬上筑後守代々社宇を経営し三ヶ村(宮代村・瀬上村・下飯坂)の大鎮守として崇敬厚し。文化元年当時の領主木下肥後守及び三ヶ村氏子崇敬者の寄付を以て荘厳なる神殿を造営す。領主の祈願所たり。

明治四年九月余目郷(摺上川と松川の間二十五ヶ村)の郷社に列せらる。明治三十七年秋社殿炎上。

時恰も東北三県の大凶作に加うるも日露戦争にて大困難の時期なりしも、氏子並びに多数県北地方崇敬者の寄進により社殿を造営す。日本で最大規模の農民一揆発祥の地でもある。

(写真・略図など)



## 【演習 29-2】地域のお宝発見

		記入者氏名	29 蛭川礼二
①名称	大原神社	④用途	神社
②所有者	大原神社	⑤建築年代	大正 4 年(1915 年)
③所在地	福島市笹木野字町東 17 番地		

## ⑥構造形式

木造平屋建て神明造り

拝殿屋根：金属瓦葺き(千木・鯉木無し)外壁：板倉造り(本実板張り)

幣殿屋根：金属板瓦棒葺き(千木・鯉木無し)外壁：堅羽目板(相じゃくり張り)

本殿屋根：金属板一文字葺き(千木・鯉木有り)外壁：板倉造り(本実板張り)

## ⑦特徴

創建年代不詳。奈良時代、既に当地には銅や鉄を作る窯があったので、火の神を祀ったと伝えられる。神殿を極めた社であり、付近一帯笹木野原という原であったので、明治 4 年に社名を大原神社と改めた。その後土地が拓けて、大正 4 年富国館製糸工場開設のとき、工場主 両角幸助が土地 1000 坪を寄進して、現在の地に遷宮した。

(写真・略図など)



〔演習 29-3〕地域のお宝発見

記入者氏名		29 蛭川礼二	
①名 称	白和瀬神社	④用 途	神社
②所 有 者	白和瀬神社	⑤建築年代	天正年中(1586年)
③所 在 地		福島市大笹生字折戸 41 番地	
⑥構造形式 木造平屋建て神明造り 拝殿屋根：金属板一文字葺き(千木・鰹木有り)外壁：板倉造り(本実板張り) 幣殿屋根：金属板一文字葺き(千木・鰹木無し)外壁：板倉造り(本実板張り) 拝殿屋根：木 賊 葺 き(千木・鰹木有り)外壁：板倉造り(本実板張り)			
⑦特 徴 奥の宮は大笹生字西川烏帽子岳(475m)。伝承によると当社は大化元年(645年)当烏帽子岳山頂に鎮座されたと伝えられ、延喜式年の小社に班し、東北地方陸奥の国有社中の一社として中央からの尊崇を受けていた。 天正年中(凡 420 年前)に参拝者の便利を図り、現在の降都の地に社殿を設け、遷座されて今日にいたっている。 現在地には元来、現摂社「車末神社」が祀られてあった地であると共に、烏帽子岳を源流とする八反田川(八反川)の川岸の高所であり、背後に奥宮が望見できる所である。			

(写真・略図など)



〔演習 30-1〕地域のお宝発見

記入者氏名		30 溝井宇一	
①名 称	酒井家住居	④用 途	住宅
②所 有 者	酒井 巖	⑤建築年代	明治後期頃
③所 在 地		石川郡石川町大字谷沢字馬場ノ内 55	
⑥構造形式 木造平屋 11間×せがいで造り			
⑦特 徴 家主は建築してから5代目となり、全て婿取りの女系家族である。 建物は自由民権運動家の鈴木重謙氏住宅とほぼ同じ間取りである。煙出しから空が見えるように、萱屋根に鉄板をかぶせ、サッシを取付けた程度の改修で建築当時の姿がそのまま残されている。			

(写真・略図など)



## [演習 30-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		30 溝井宇一	
④名 称	有賀家土蔵	④用 途	蔵座敷
⑤所 有 者	有賀正泰	⑤建築年代	明治 38 年(1905 年)着工 大正 元 年(1912 年)完成
⑥所 在 地	石川県石川町大字形見字尾巻 124		
⑥構造形式 土蔵造り 3 間×5 間			
⑦特 徴 母屋より 10 年後に建てられたものであり、この地域一帯が養蚕農家を営み、生糸の生産により財を成し造られた蔵座敷である。 フスマの下紙に大正元年の新聞紙が見つかったことで、建築年代が口伝い通りである事が確認された。内外部共建築当時のまま残されており、所有者は国登録文化財を希望している。			

(写真・略図など)



## [演習 30-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		30 溝井宇一	
⑦名 称	有賀家住居	④用 途	住宅
⑧所 有 者	有賀正泰	⑤建築年代	明治 24 年(1891 年)着工 明治 27 年(1894 年)完成
⑨所 在 地	福島県石川郡石川町大字形見字尾巻 124		
⑥構造形式 木造 2 階建て 11 間×5.5 間 総 2 階建て せがいで造			
⑦特 徴 この住宅が建つ石川町は自由民権運動の東北発祥の地である。運動の拠点となった鈴木家住宅と 1 階間取りがよく似ており、当時のこの地方における住宅形式を見ることができる。2 階は養蚕に使用されていた。 「にわ」部分の改修は見られるが、「ざしき」「いま」「板戸」等建築当時のままである。			

(写真・略図など)



〔演習 31-1〕地域のお宝発見

記入者氏名		31 村井 淳	
①名 称	陶工房冬樹窯	④用 途	陶工房兼住居
②所 有 者	佐藤冬樹	⑤建築年代	主屋：大正 5 年(1916 年)
③所 在 地	郡山市熱海町安子ヶ島字竹之内 150		
⑥構造形式 主 屋：半切妻入母屋造り 木造平屋一部 2 階建て 屋根菱葺き(トタン下地萱葺き) 外壁漆喰仕上げ その他：生活棟・陶工房・離れ：昭和 60 年～平成 22 年頃の増築			
⑦特 徴 大正 4 年に起きた大火により村内全戸消失し、同 5 年再建のため、3 組の大工集団が入村しました。当佐藤家は会津の大工さんが関わり、藩政期の様式は残しつつ再建されました。建具、神棚等は火災の中取り外し事なきを得たとのこと。一部中 2 階部分は蚕棚、1 階部分は牛、馬小屋として使われていました。当家の山林には栗材が多く、柱材はすべて栗材使用しています。 他の棟は北側のからの景観を考慮し、母屋とのハーモニーを大切に配置されています。版画家の斎藤清氏の会津の冬シリーズ「中山」で当家と周辺部落が取り上げられています。また当家は各種の広葉樹林の屋敷森に囲まれており、郡山市景観まちづくり賞を受賞しております。			

(写真・略図など)



北側の景観



主屋南側部分



南側テラス部



内部喫茶室

〔演習 31-2〕地域のお宝発見

記入者氏名		31 村井 淳	
④名 称	白幡神社	④用 途	神社
⑤所 有 者	白幡神社	⑤建築年代	度々の戦場となり寛永 6 年(1629 年)現在地に移転 現在の御本殿は延宝 3 年(1675 年)拝殿は天保 3 年(1832 年)の建築とされている。
⑥所 在 地	郡山市三穂田町川田字東 16 番地		
⑥構造形式 本殿：流造 銅版葺 拝殿：唐破風付入母屋造り、トタン葺 その他幣殿、神楽殿、神庫、収納庫、及び境内末社の阿波島神社、石宮 36 社等がある。			
⑦特 徴 当神社の御祭神は東北巡察の際、当地に留まり開拓の道を説いた武内宿禰命(タケナリノミコト)と言われて います。 また当神社は源義家が参拝し戦勝祈願をし、戦勝したため帰途社殿を奉納したとのこと。その恩に報いるため源氏の旗印の白幡を神社の名に冠したと言われてます。付近の高幡山、大将旗山等も物語に関連した地名と思われます。 こじんまり神社ですが春秋の例祭はいまだに盛んであり特に秋の神輿渡御(ミコトヰヨ)は迫力があります。			

(写真・略図など)



参道より拝殿



拝殿



本殿



神楽殿

[演習 31-3] 地域のお宝発見

記入者氏名 31 村井 淳

⑦名称	木ノ宮神社	④用途	神社
⑧所有者	木ノ宮神社	⑤建築年代	八百数十年前頃から信仰されていたが建設年代は不明
⑨所在地	郡山市熱海町安子ヶ島字木ノ宮 5 番地		

⑥構造形式  
 本殿：切妻あるいは流造りか？（千木あり）  
 拝殿：唐破風付入母屋造り、石ノ間部は繋ぎの機能であり全体の形態を規定していない。  
 他に神楽殿がある。

⑦特徴  
 御祭神は久々能智命(クケノチノミコ)という木の神様。頼朝の奥州征伐により工藤祐経の恩顧となり、次男の祐長が安積に入り安積伊東氏の祖となっています。  
 この神社は祐長の本国伊豆国で氏神をしていた神社の一つ来宮を安積地方に定着させたものです。伊豆の来宮神社は今も熱海に鎮座しており、古代からの信仰を続けています。火伏せ、縁結び、路を守る靈験信仰もまた同じように信仰されています。  
 竹ノ内の十二神楽は元禄 12 年(1699 年)ころにはすでに行われていたと言われています。戦争を潜り抜け、いまだに村の青年たちが継承し続けていることは称賛に値します。

(写真・略図など)



参道入口



拝殿



本殿



神楽殿十神楽の舞 (写真撮影は須田悦弘氏)

[演習 32-1] 地域のお宝発見

記入者氏名 32 八木澤希代治

①名称	奥州八丁目天満宮	④用途	神社
②所有者		⑤建築年代	
③所在地	福島市松川町古天神 8-8		

⑥構造形式

⑦特徴  
 この天満宮は、福島市松川町にあり、奥州八丁宿入口であり米沢街道及び相馬街道の合流点にある。二本松城下と福島城下の中間点に位置するため江戸時代には奥州街道の宿場町として奥州でも屈指の繁栄を誇った。(酒館、青桜多し妓娼をおき客を招き、宴にはべらむ)とある。  
 本陣は桜内家である。  
 千百年少し前の建物と思われ、本堂は粋を凝らした彫刻が施してある。  
 名前が示す通り本家は福岡天満宮であり、住民が福岡まで行くのは大変である事からご神体を分けてもらい、現地に天満宮を建立したと思われる。  
 なお、松川町文化保存会によって、石の匠の枝常夜灯の記念碑が建てられている。  
 境内の木々も大きく伸びており、歴史を感じさせる。

(写真・略図など)



## [演習 32-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		32 八木澤希代治	
①名 称	川俣町の文化財候補	④用 途	住宅
②所 有 者	斉藤謙二	⑤建築年代	明治初期?
③所 在 地	伊達郡川俣町西福沢白子田		
⑥構造形式			
⑦特 徴 家主は斉藤謙二さんで、謙二さんの妻がこの家で生まれ、その母、祖母もこの家で生まれたそうであることから、この建物は時代と共に改修はなされているが、明治の初め頃のものかと思われる。 山間にひっそりと佇む古民家で、茅葺屋根の上にトタン板を被せてある。軒先からは古い茅葺が見られる。 現在の地は明治元年西五十沢村から明治9年西福沢村、明治22年中富田村、昭和33年川俣町に合併となった経緯から西五十沢村時代の建物であろう。 中に入るとさまざまな当時にしのぼせる物が残っている。			

(写真・略図など)



## [演習 32-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		32 八木澤希代治	
①名 称	藤金旅館	④用 途	旅館
②所 有 者	藤金旅館	⑤建築年代	
③所 在 地	福島市中町 1-8		
⑥構造形式			
⑦特 徴 藤金旅館は福島市の中心街にあり福島駅までも数分という距離である。 明治元年に開業をし、明治天皇巡幸に同行した木戸孝光が宿泊し、大正時代には竹久夢二が泊まった。 藤金旅館の屋号は初代遠藤金治の二文字をとり藤金としたのが由来。 万が一家事が起きても燃えにくいようにと、お客様第一の考えから当時としては珍しい蔵造としたそうである。現在では当然の防火対策を当時よりしていた。 客室に飾られている「道を守るは天をしるにあり」扁額は木戸孝光の書である。			

(写真・略図など)



## [演習 32-4] 地域のお宝発見

		記入者氏名	32 八木澤希代治
①名称	川俣町の蔵町中の蔵	④用途	蔵
②所有者		⑤建築年代	
③所在地	伊達郡川俣町		
⑥構造形式			
⑦特徴 川俣町中丁通りにあるスーパー駐車場の真ん中にある、数寄屋造りの建物と黒塗りの蔵は周りの雰囲気とはミスマッチであるが、残しておきたい建物である。 建物の持ち主はすでに亡くなり、後継者も東京に住んでおり現在は空き家状態になっている。 外観の具合から見て戦後のものかもしれないが、ゆうに50年以上は経っているようです。			

(写真・略図など)



## [演習 33-1] 地域のお宝発見

		記入者氏名	33 山口一男
①名称	稲川酒造精米所	④用途	酒米蔵
②所有者	合資会社 稲川酒造店	⑤建築年代	明治元年(1868年)
③所在地	耶麻郡猪苗代町字新町 4916		
⑥構造形式 木造平屋建て			
⑦特徴 明治元年建築の建物が、現在も酒造りの一部として、機能を發揮している。			

(写真・略図など)



[演習 33-2] 地域のお宝発見

		記入者氏名	33 山口一男
①名称	S家住宅	④用途	住宅
②所有者	M・S	⑤建築年代	大正初期
③所在地	耶麻郡猪苗代町字新町 4917-1		
⑥構造形式	木造 2階建て 洋館づくり		
⑦特徴	木材軸組構造		

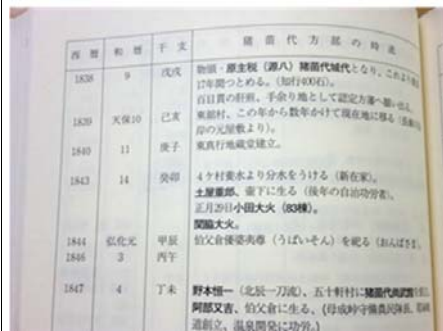
(写真・略図など)



[演習 33-3] 地域のお宝発見

		記入者氏名	33 山口一男
①名称	六角家住宅	④用途	住宅
②所有者	六角弘通	⑤建築年代	天保 15年(1844年)
③所在地	耶麻郡猪苗代町大字関戸字関脇 1142		
⑥構造形式	木造平屋建て		
⑦特徴	1843年、関脇大火。翌年、村中の木材を集めて、再建したと言われている。		

(写真・略図など)





[演習 34-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		34 和田靖夫	
①名称	金谷川小学校旧金沢分校	④用途	学校(事務所・作業場)
②所有者	金沢 永仁寺	⑤建築年代	明治 18 年(1885 年)
③所在地	福島市金沢字明内 29(借家人：表具処 菑舎)		
⑥構造形式 木造一字型平屋建て 一部 2 階建て			

⑦特徴  
 明治 18 年に金沢小学校として校舎を新築し、開校式を行う。建坪 49 坪半。  
 明治 23 年関谷・浅川両小学校の分教場となる。明治 25 年金谷川村立金沢尋常小学校と称する。大正 12 年児童増により、一教室を増築する。昭和 8 年一教室を増築、昭和 9 年廊下・便所及び物置を付設。昭和 16 年校名が金沢国民学校となる。昭和 18 年浅川・金沢の 2 学区を廃止・統合、金谷川国民学校と改称し、旧浅川小を本校、旧金沢校を分校とした。  
 戦後廃校となり、平成 23 年に「表具処 菑舎」の事務所兼作業場として床等改修し、現在に至る。大震災の影響なのか開業当初から建物北側の雨漏りがひどいとのこと。  
 開校当時の写真はムクリ屋根の玄関があり、金沢村の文化の中心となっていたようだ。今後、当該建物の修復による保存と長期的な活用が図ればと思う。

(写真・略図など)



[演習 34-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		34 和田靖夫	
④名称	郷社 黒沼神社	④用途	神社
⑤所有者	黒沼神社	⑤建築年代	江戸時代中期頃?
⑥所在地	福島市金沢字宮ノ前 45		
⑥構造形式 木造平屋建て			

⑦特徴  
 延喜式神名帳に名前が残る「陸奥国、信夫郡黒沼神社」の論社の一つ。福島市名木保存樹林に指定された杉林の中に、創建年代不詳の本殿とその左手に二つの境内社および倉で構成されている。  
 本殿の屋根には、剣の紋が付けられている。千年以上にわたり、原始的な古い日本人の信仰の姿が残っており、貴重な神事「金沢 羽山ごもり」として昭和 55 年、国指定重要無形民俗文化財の指定を受ける。さらに同年、この社独特に伝わる出雲流の神楽で「黒沼神社 十二神楽」として県指定重要無形民俗文化財の指定を受ける。  
 写真より昭和 40 年頃、萱葺き屋根を銅版葺き等改修工事が推察される。

(写真・略図など)



〔演習 34-3〕地域のお宝発見

		記入者氏名	34 和田靖夫
①名 称	八幡神社	④用 途	神社
⑧所 有 者	黒沼神社	⑤建築年代	明治時代?
⑨所 在 地	福島市金沢字猿田(八幡山)		

⑥構造形式  
木造平屋建て

⑦特 徴  
延喜式神名帳に名前が残る「郷社 黒沼神社」の社群の一つ。杉木立の中に、創建年代不詳の本殿とその右手に八道神社(小さな石社3体)で構成されている。  
千年以上にわたり黒沼神社に伝わる神事、国指定重要無形民俗文化財「金沢 羽山ごもり」の際には、八幡神社の神様も信仰としている。  
平成23年の大震災で、石組の基礎が沈下し、階段が崩れかけている。建物規模は小さいが、何とか修復させる事ができればと考えている。

(写真・略図など)



〔演習 35-1〕地域のお宝発見

		記入者氏名	35 渡邊 平
①名 称	逢瀬川第一取水場	④用 途	取水ポンプ上屋
②所 有 者	郡山市水道局	⑤建築年代	大正13年(1923年)
③所 在 地	郡山市桜木一丁目		

⑥構造形式  
鉄筋コンクリート造、鉄骨トラス小屋組  
切妻屋根 鉄板葺き

⑦特 徴  
大正末期郡山市の人口増加による対策の為、計画された第一次拡張事業で建設された。期的には、関東大震災直後の建設であり、理由は不明だが当時としては珍しい鉄筋コンクリート造とした理由かもしれない。  
その様式は基台と左官による化粧ボーダー、西洋建築風の上げ下げ窓(木製)などポンプ上屋にしては趣のあるものである。  
明治期の郡山の水道事業は安積疏水などの明治日本の威信をかけて行われており、その流れが残っていたのだろうか。  
そんな近代日本の雰囲気も感じさせる建築である。

(写真・略図など)



[演習 35-2] 地域のお宝発見

記入者氏名	35 渡邊 平
-------	---------

①名 称	T家住宅	④用 途	戸建住宅
②所 有 者	T氏	⑤建築年代	昭和 43 年(1968 年)
③所 在 地	郡山市内		

⑥構造形式  
 木造平屋建て 切妻屋根 瓦葺き一部銅板葺き  
 外壁モルタルかき落とし  
 敷地北には大谷石積み蔵

⑦特 徴  
 比較的新しい建築ではあるが、昭和の高度成長期後期の時代、新材材が多く簡易な住宅が増えている中、材料を吟味し丁寧に造られた和風建築である。  
 雨戸は無垢板 2 枚で造られ、雨どいも銅板を加工して造られている。

(写真・略図など)



[演習 35-3] 地域のお宝発見

記入者氏名	35 渡邊 平
-------	---------

①名 称	某協同組合連合会事務所	④用 途	事務所
②所 有 者	某協同組合連合会	⑤建築年代	昭和 30~40 年代
③所 在 地	郡山市内		

⑥構造形式  
 木造 2 階建て モルタル壁(震災後銅板張りに改修)  
 切妻屋根 鉄板葺き

⑦特 徴  
 昭和中期のモルタル左官仕上げの外壁、事務所建築だが、当時の木造住宅にも使われた様式。建築年代は不明だがモルタルの外壁、木製の外部建具などから昭和 30~40 年代の建築と思われる。  
 総モルタルの外壁は震災で破損し、銅板に改修された。  
 ありふれた様式のようなだが、南側の連装の木製建具のリズムが良い趣がある。近現代の建築だが現代の建物にはない味わいがある。

(写真・略図など)



[演習 36-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		36 渡辺 仁	
①名 称	安達太良神社	④用 途	神社
②所 有 者	安達太良神社	⑤建築年代	文化 13 年(1816 年)
③所 在 地	本宮市本宮字館ノ越 232		
⑥構造形式 木造平家建、銅板葺、入母屋造り。			
⑦特 徴 屋根は大正 12 年(1923 年)銅板に葺替えている。緑青の吹いた屋根が、銀鼠色になった社殿の木部と美しく調和しており、清々しい。 彫刻も素晴らしく、奉納されている「三十六歌仙額」と共に一流のセンスを持った人々によって敬愛され、守られてきた神社である。			

(写真・略図など)



[演習 36-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		36 渡辺 仁	
④名 称	大天狗酒造	④用 途	店舗(酒造・倉庫)
⑤所 有 者	大天狗酒造	⑤建築年代	昭和初期
⑥所 在 地	本宮市本宮字九縄 18		
⑥構造形式 木造平家建(一部 2 建て)、瓦・銅板葺き。			
⑦特 徴 創業は明治 5 年(1872 年)、本宮市本宮字仲町。その後明治 20 年に現在地の本宮市本宮字九縄に移転した。 レンガ造りの煙突がそびえ立ち、JR 本宮駅前のシンボルタワーといえる。 また正面の門の破風飾りの彫刻が見事である。			

(写真・略図など)



[演習 36-3] 地域のお宝発見

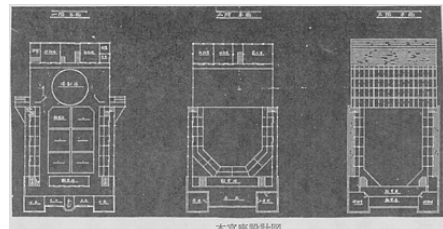
記入者氏名	36 渡辺 仁
-------	---------

⑦名 称	通称「定舞台」	④用 途	劇場
⑧所 有 者	株式会社本宮座	⑤建築年代	大正 3 年(1914 年)
⑨所 在 地	本宮市本宮字中條 9 番地		

⑥構造形式  
木造 3 建て、外部モルタル塗り、内部木摺漆喰の劇場建築。総建坪 142 坪余り。

⑦特 徴  
内部には人力による回り舞台や役者の入退通路である「花道」を備えている。400 人収容で、大正・昭和初期の本宮市の娯楽の中心を担ったとされる。  
中央観覧場は桁行 42 尺、梁間 55 尺の 64 坪。周囲 3 建てで、売店・食堂などを備えていた。  
昭和 40 年代まで映画劇場として利用され、現在は閉鎖中。最近の時折映画のイベントが催される。

(写真・略図など)



本宮座設計図

■H27年度福島県ヘリテージマネージャー[地域のお宝物件リスト]

[方部別]

物件方部	物件No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年(西暦)	建築年(和暦)	構造	階数	件数
県北	2-1	N家住宅(母屋・土蔵)	N	伊達市	住宅	住宅・倉庫蔵	母屋：1934年 土蔵：1927～1928年	母屋：昭和9年 土蔵：(昭和2～3年)	木造	2	1
	2-2	(株)檜物屋(ひものや)酒造店〔千功成〕	(株)檜物屋酒造店	二本松市松岡173番地	蔵・倉庫	文庫蔵・仕込蔵	1932年	文庫蔵：明治32年以前 仕込蔵：昭和7年	土蔵造り	2	1
	2-3	T家土蔵	T	伊達市	蔵・倉庫	穀蔵		明治後期～大正初期	土蔵造り	2	1
	3-3	K家住宅(離れ)	K	福島市	住宅	回遊離れ(ギャラリー)		明治中期	木造	1	1
	5-1	O.Tアトリエ	O・N	伊達郡川俣町	その他	アトリエ	1940年代		木造	1	1
	5-2	S家住宅(通称・桜川邸)	S・T	伊達郡川俣町	住宅	住宅		明治中期	木造	2	1
	5-3	S家住宅	S・A	伊達郡川俣町	住宅	住宅	1955年	昭和30年	木造	2	1
	6-1	T家住宅	T	伊達市	住宅	住宅	1900年頃	明治30年頃	木造		1
	6-2	Y家住宅	Y・T	福島市	住宅	住宅	1883年	明治16年	木造	1	1
	6-3	K家住宅	K	福島市	住宅	住宅	1912年	明治45年	木造	2	1
	11-1	S家住宅	S・K	福島市	住宅	住宅		江戸後期	木造	3	1
	11-2	旧伏黒郵便局	TY	伊達市伏黒字館の内23	その他	郵便局	1936年	昭和11年	木造	3	1
	11-3	富田蛭種製造所	T・K	伊達市伏黒字北谷藪46	店舗兼住居	住宅兼蛭種製造所	1900年	明治33年	木造	2	1
12-2	岩色堰	某土地改良区	本宮市	その他	農業用水	1932年	昭和7年	RC造		1	
<b>県北 集計</b>											<b>14</b>
県中	3-2	S家住宅	S	郡山市	住宅	農家住宅		江戸末期	木造	1	1
	8-3	旧吉田家住宅蔵座敷「紫雲閣」	三春町	田村郡三春町字大町82番地	美術館	三春町文化伝承館	1895年	明治28年	木造	2	1
	12-3	日和田八幡神社	日和田八幡神社	郡山市日和田町	寺院・神社	神社	1865年	慶応元年	木造	1	1
	13-1	H家住宅	H・I	郡山市	住宅	住宅		大正前期	木造	1	1
	13-2	S家住宅	S・N	郡山市	住宅	住宅		大正前期	木造	2	1
	13-3	川柳会館	K・I	郡山市清水台1丁目1-38	事務所	事務所	1885年	明治18年	木造	2	1
	14-1	百杯宴記碑	三春町	田村郡三春町字大町地内(町中央部裏、一級河川桜川沿いの一画)	その他	記念碑	1857年	安政4年	天然石		1
	14-2	三春町文化伝承館	三春町	田村郡三春町字大町82番地	美術館	集会・展示施設			木造	2	1
	14-3	旧遠藤医院	E	田村郡三春町字大町82番地	病院・診療所	旧医院建築(使用していない)	1923年	大正12年	木造	2	1
<b>県中 集計</b>											<b>9</b>
県南	3-1	思門庵	I	東白川郡棚倉町	門	長屋門(茶室)		江戸末期	木造	1	1
	16-1	旧釜子郵便局	S・T	白河市釜子字本町95-2	その他	郵便局・電話交換室		大正末期	木造	2	1
	16-2	熊谷酒店	K・K	白河市釜子字本町27	店舗兼住居	店舗兼住宅・養蚕室・蔵(3棟)		【店舗兼住宅】江戸末期 【蔵】江戸末期、明治初期	木造	2	1

物件 方面	物件 No.	名称	所有者	所在地	用途	用途詳細	建築年 (西暦)	建築年 (和暦)	構造	階 数	件 数
県南	16-3	H家住宅	H・K	白河市	店舗兼 住居	農家住宅兼養 蚕場		【住宅】江戸末期 【蔵】明治初期	木造	2	1
	16-4	S家住宅	S・T	白河市	住宅	住宅・蔵		【住宅】大正 【蔵】明治	木造	2	1
<b>県南 集計</b>											<b>5</b>
会津	8-1	足利館「氏季カ フェ」母屋他	足利純一氏(鎌倉公方足 利持氏の流れを汲む初 代季氏後の18代当主)	会津若松市河東町広田 田中原5	店舗	カフェレスト ラン(旧農家住 宅)	1735年頃	江戸時代	木造	1	1
	8-2	足利館石垣・土塁	足利純一氏(鎌倉公方足 利持氏の流れを汲む初 代季氏後の18代当主)	会津若松市河東町広田 田中原5	その他	中世に築かれ た館跡	中世(15~16 世紀)		組石造		1
	19-2	山城屋	山城屋	会津若松市蚕養町	店舗	店舗及び蔵(米 店)		江戸末期~昭和30年代	石造り	1	1
	19-3	F家住宅 土蔵	N・F	会津若松市	住宅	住宅	1882年	明治15年	木造	2	1
	20-3	関山N邸	K・N	大沼都会津美里町	住宅	住宅	1873年	江戸、明治6年	木造	2	1
<b>会津 集計</b>											<b>5</b>
喜多方	17-1	W家住宅と土蔵	W・J	耶麻郡猪苗代町	住宅	住宅・蔵	1899年	住宅：明治32年 蔵：江戸末期	木造	2	1
	17-2	千里地区旧米蔵	あいづ農業協同組合	耶麻郡猪苗代町	その他	庫(旧常温米 倉庫)	1957年	昭和32年	石造り	1	1
	17-3	滝川屋旅館 自炊棟 (横向温泉)	A	耶麻郡猪苗代町	旅館	温泉旅館(旧 湯治場)	1877年	明治10年	木造	2	1
	20-1	二十間蔵ほか2棟	Y・N	喜多方市南町	その他	イベントス ペース及び倉 庫	1912年	江戸・明治 二十間蔵：大正元年	木造	2	1
	20-2	旧吉川倉庫	Y・K	喜多方市上町	蔵・倉 庫	倉庫	1911年	明治44年	煉瓦組積 造・木骨 煉瓦造	2	1
<b>喜多方 集計</b>											<b>5</b>
南会津	19-1	会津ジイゴ坂学舎	下郷町 (管理：会津ジイゴ坂学 舎)	南会津郡下郷町落合字 ジイゴ坂	店舗	カフェ・ギャ ラリー	1950年	昭和25年	木造	1	1
<b>南会津 集計</b>											<b>1</b>
相双	12-1	石蔵	某会社所有	相馬市	店舗	イベントホー ル(旧倉庫)	1926年	昭和元年	木造トラ ス小屋組 十造	1	1
	12-4	山形屋商店	山形屋商店	相馬市	店舗	店舗・醤油味 噌蔵	1865年	慶応元年	木造	2	1
	12-5	旧某家屋敷	相馬市	相馬市	住宅	住宅	1961年	昭和36年	木造	1	1
<b>相双 集計</b>											<b>3</b>
											<b>42</b>

H27年度へリテージマネージャー  
【地域のお宝発見】

福島県歴史的建造物保全活用促進協議会



## [演習 2-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		2 内田 恵	
①名 称	N家住宅(母屋・土蔵)	④用 途	住宅・倉庫蔵
②所 有 者	N	⑤建築年代	母屋：昭和9年(1934年) 土蔵：(昭和2～3年)(1927～1928年)
③所 在 地	伊達市		

## ⑥構造形式

【母屋】木造2階建て・半切妻屋根瓦葺き・桁行13間×梁間5間4尺  
【土蔵】土蔵造り2階建て・切妻屋根瓦葺き・桁行3間×梁間2.5間

## ⑦特 徴

煙出しの越屋根がある母屋がどっしりとしていて、母屋の前方南側には庭、そして畑が広がり、東南には漆喰塗なまこ壁の土蔵が建っており、コントラストが素晴らしく一際目を引きまします。この辺りの地域の農家を代表するような美しい風景です。

母屋は、天井・梁や桁は当時の建てられた状態です。内壁は漆喰、一部現代の塗り壁にリフォームされています。

土蔵の内壁は当時塗られた土壁のまま、外壁は平成元年に改修、土壁の上に漆喰が塗られ、腰にはなまこ壁が施されました。

母屋・土蔵ともに歴史的景観に寄与していると判断しましたので、選定いたしました。

## (写真・略図など)



## [演習 2-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		2 内田 恵	
①名 称	(株)檜物屋(ひものや)酒造店 [千功成]	④用 途	文庫蔵・仕込蔵
②所 有 者	(株)檜物屋(ひものや)酒造店	⑤建築年代	文庫蔵：明治32年以前 仕込蔵：昭和7年(1932年)
③所 在 地	二本松市松岡173番地		

## ⑥構造形式

【文庫蔵】土蔵造り2階建て・寄棟置屋根・桁行4間×梁間3間  
【仕込蔵】土蔵造り2階建て・寄棟置屋根・桁行12間×梁間4間

## ⑦特 徴

県道沿いの角に文庫蔵があり、続いて事務室、店、貯蔵庫、瓶詰場があります。貯蔵庫の2階が住居、文庫蔵1階も住居として使われています。この角を曲った隣の建物は昭和50年代に建て替えた鉄骨造の釜場と、そして奥が貯蔵庫です。貯蔵庫の西側に昭和7年に建てられた仕込蔵があります。

仕込蔵の2階の半分は酒母室です。内壁は漆喰仕上、外壁は下見板張りで下地は土壁です。漆喰塗り、石積も使われています。

文庫蔵には、今でいうシャッターの役目をする蔀戸(しとみど)が残されており、時代を感じました。

酒名の千功成で地元の人に愛され親しまれている(株)檜物屋酒造店は地域の宝であり、国土の歴史的景観に寄与していると判断しましたので、選定いたしました。

## (写真・略図など)



## [演習 2-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		2 内田 恵	
①名 称	T家土蔵	④用 途	穀蔵
②所 有 者	T	⑤建築年代	明治後期～ 大正初期（約100年前）
③所 在 地	伊達市		
⑥構造形式 土蔵造り2階建て・切妻屋根瓦葺き・桁行6間×梁間3間			
⑦特 徴 母屋の西側に位置し、当時は小作人から収められる、米や麦を保存する蔵として建てられました。内壁は板張り、外壁は土壁仕上で当時のままです。屋根からの雨漏りのため約30年前に改修され、瓦は葺き替えられました。庇屋根については、当時の瓦です。外壁の土壁仕上は色むらがなく、とても綺麗な土色です。たるきの部分にも土が塗られています。観音扉全体の仕上りの精度が高い蔵で、観音扉上部の冠木と掛子まわりは、特に素晴らしい仕上がりです。当時の左官職人の技術には圧倒されます。この左官仕上を再現することが容易でないものと判断しましたので、選定いたしました。			

(写真・略図など)



## [演習 3-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		3 遠藤知世吉	
①名 称	思門庵	④用 途	長屋門(茶室)
②所 有 者	I	⑤建築年代	江戸末期
③所 在 地	東白川郡棚倉町		
⑥構造形式 木造平屋建て 銅版平葺屋根 外壁：漆喰塗一部化粧モルタル欠き落し 間口5.5間 床面積50.46㎡			
⑦特 徴 街道沿いに旧家があり、その門は昔、奉公人の住居と一体となった長屋門であった。近年、住居部分は店舗などに使われていたが、2000年に茶室に改修された。 建設時からの1尺2寸×7寸(36cm×21cm)の檼柱や重厚な小屋組みは、家の繁栄と当時の職人技の高さが垣間見える。何よりも古い建物を活用し茶室を造り、茶会などを通し地域文化に貢献するという家主の姿勢は、歴史的建築物活用において学ぶべき部分は多い。			

(写真・略図など)



## [演習 3-2] 地域のお宝発見

[演習 3-2] 地域のお宝発見		記入者氏名	3 遠藤知世吉
④名 称	S家住宅	⑤用 途	農家住宅
⑤所 有 者	S	⑤建築年代	江戸末期
⑥所 在 地	郡山市		
⑥構造形式	木造平屋建て 茅葺鋼板被膜屋根 外壁：土壁 間口 13 間 奥行 5 間		
⑦特 徴	<p>昭和初めまで 1800 坪の敷地は堀で囲まれ、現存 13 間の母屋はその先の東蔵まで棟が続き、今は残っていないが西と北側には年貢米蔵や氏神の建物もあったという旧家。</p> <p>北西奥には「上段の間」と呼ばれていた賓客(殿様)休憩の間がある。かつては専用の門と入り口、手水場等があり、そこは家族も使用できなかった。造りは素朴で慎ましやかだが、堂々たる外観、南松で囲まれた池跡が当時の繁栄を物語る。</p> <p>戦後、敷地内建物を解体し復員者に住宅材とし提供する等、人格者の名主の家だが、現在は 2 棟の土蔵と母屋が残り、使用されていない。</p> <p>建物の歴史をたどると、近代日本の激動の歴史を彷彿させる。</p>		
(写真・略図など)			



## [演習 3-3] 地域のお宝発見

[演習 3-3] 地域のお宝発見		記入者氏名	3 遠藤知世吉
⑦名 称	K家住宅(離れ)	⑥用 途	回遊離れ(ギャラリー)
⑧所 有 者	K	⑤建築年代	明治中期
⑨所 在 地	福島市		
⑥構造形式	木造平屋建て 24 坪 ガルバリウム鋼板葺き屋根 真壁造り		
⑦特 徴	<p>江戸時代、福島城に隣接し武家屋敷があった場所に明治から量の診察室で親しまれた医院建築がある。廻り廊下周辺が近くにある御倉邸と似ている。</p> <p>2009 年老朽建物の一部(住宅部分)を減築し新たな住まいを建築、象徴的医院部分を保存改修しギャラリーとした。そして 2 つの建物を渡り廊下で結び、邸内を廻れる動線をつくった。</p> <p>「先人の力を借り、寄り添い、新たな生活を切り開く」との思いからの建築は、新築部と合わせ 2011 年グッドデザイン賞に応募し、福島復興の道標を模索した。時を越え身近にあった貴重な存在を活かすことは、個人や地域の糧になり得るからだ。</p>		
(写真・略図など)			



## [演習 5-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		5 後藤由美子	
①名称	O. Tアトリエ	④用途	アトリエ
②所有者	O・N	⑤建築年代	1940年代
③所在地	伊達郡川俣町(旧町内)		

## ⑥構造形式

【アトリエ】木造平屋建て

【お稲荷様】大正時代

## ⑦特徴

所有者の曾祖父が、大正時代この土地に住宅を建築。その後、昭和前期にかけて土壁の倉を3棟建てた。昭和40年頃、所有者の両親が1棟の倉を改装して学習塾を開業。別の1棟を所有者の父の画家仲間がアトリエに改装した。

昭和62年6月30日、同敷地内に学習塾を新築した為、学習塾として使用していた倉を従来の物置に戻した。その後、住宅も改築された。

平成25年には東日本大震災の影響を受けた倉の補修を断念して、アトリエだけ残り2棟の倉を解体した。アトリエは、所有者の父の友人により何度も改装を繰り返され現在の姿になった。

隣にある小さな建物には、お稲荷様が祀られている。その土台の石と、アトリエ前にある解体された倉に使用されていた石は、同じ時を過ごしてきた石であるため、大正時代に建てられたと推測される。

また所有者の父は、油絵を長年描き続け、二科展に出展して入選している作品がアトリエ内に多数あり、川俣町では数少ない有名な画伯の一人である。

(写真・略図など)



## [演習 5-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		5 後藤由美子	
①名称	S家住宅(通称・桜川邸)	④用途	住宅
②所有者	S・T	⑤建築年代	明治中期
③所在地	伊達郡川俣町		

## ⑥構造形式

【母屋】木造2階建て・瓦葺き・漆喰塗り一部サイディング張り

【馬小屋(現・物置)】平屋建て・セメント瓦葺き・土壁

## ⑦特徴

川沿いに桜が見事に咲いていたので、この地区では桜川邸と呼ばれている。

敷地全体で見ると、母屋、離れの平屋建て住居、奥の物置、風呂・便所、入り口の物置と5つの建物が建っている。

桜川邸は、明治中期に建築され、米の集積所と精米所になっていた。また、養蚕も行われていた。その時の所有者は村会議員を務めていたが、昭和7年頃、権太に渡ることになり、親戚であった所有者の父が当時1000円で譲り受けた。

昭和23年、川俣町飯坂小学校が火事になり、桜川邸はこの小学校の仮校舎の1つとなった。奥の離れは、小学校の校長と教諭の宿舎となっていた。この火事の時、桜川邸は茅葺屋根だったので火の粉が飛んできて防ぐのに必死だったというエピソードがある。

現在物置として使用している母屋の入り口にある建物は、昭和20年頃、齋藤家の次男が、建築の修業をして工務店を設立する前に初めて建てた馬小屋である。

現在、この住宅は、東日本大震災の原発事故で避難してきた、飯館の方に貸している。

(写真・略図など)



## [演習 5-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		5 後藤由美子	
①名称	S家住宅	④用途	住宅
②所有者	S・A	⑤建築年代	昭和30年(1955年)
③所在地	伊達郡川俣町(旧町内)		
⑥構造形式 木造2階建て・瓦葺き・板張り 設計：春山設計(福島市) 瓦：田中瓦店(川俣町)			
⑦特徴 川俣町、旧町内に位置する。建築当時、医院を開業。診察室と病棟が有る医院併用住宅であった。その後、医院から病院になり同敷地内に病院を建設した為、医院として使用していた部分を解体した。現在は専用住宅として使用している。 階段ホールには、明り取りの窓があり、階段も普通住宅より幅があるので広々とした空間となっている。また、2階ホールの壁の上部には換気口が有り、各部屋とつながっている。2階洋室は所有者が小さい時、子供部屋として使用していた為、照明機器は模様が入った洒落たデザインとなっている。 東日本大震災の大地震に遭ったのにも関わらず、壁にはヒビが入っただけで崩落した箇所は見られなかった。 外壁の玄関上部の十字の模様は、医院時代の名残である。赤十字の模様を真似て付けたのではないかと、話していた。			

(写真・略図など)



## [演習 6-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		6 齋藤史博	
①名称	T家住宅	④用途	住宅
②所有者	T	⑤建築年代	明治30年頃(1900年頃)
③所在地	伊達市		
⑥構造形式 【母屋】木造 入母屋 瓦葺き 【蔵】漆喰・なまこ壁 瓦葺き 【塀】赤レンガ 火災消失あり			
⑦特徴 日露戦争のころに建てられた地主のお屋敷で、母屋は一部を除いてケヤキを用いて建てられた。間取りは15畳間を基本間とし、10部屋程。当時から赤瓦が葺かれ、後に修繕をしているものの当時の面影を残す。西洋文化に影響され、塀の築造に赤レンガが用いられた。 母屋の赤瓦と赤レンガの塀が絶妙に調和し、奥羽街道に独特の景観をもたらしている。			

(写真・略図など)



門構え



レンガ塀①



レンガ塀②



母屋

## [演習 6-2] 地域のお宝発見

		記入者氏名	6 齋藤史博
①名称	Y家住宅	④用途	住宅
②所有者	Y・T	⑤建築年代	明治初期(明治16年登記) (1883年)
③所在地	福島市		

## ⑥構造形式

- 【母屋】(明治16年登記): 木造平屋建て 入母屋 鋼製瓦葺き 漆喰壁  
 【土蔵】(明治16年登記): 2階建て 漆喰壁  
 【旧馬屋】(明治16年登記): 木造2階建て 切妻 板張り(土壁を改装)  
 【石蔵】(昭和45年登記): 2階建て 石積み  
 【離れ】(平成08年登記): 木造平屋建て 瓦葺き ※三浦工匠店さん施工の二間の離れ

## ⑦特徴

2014年に登録有形文化財に指定された「Y邸」の本家で、その東側に屋敷を構える。

「Y邸」の土塀が張り巡らされた時に、現存する母屋と土蔵、旧馬屋が現在の位置に移設された。

母屋は典型的な農家のつくりで、南東に大きな土間のある玄関、その北側に台所、その西側に居間があり、奥には田の字に和室が4室ある。屋根は茅から鉄板瓦に葺き替えられている。玄関から現存する茅葺の裏側を見ることができる。

養蚕が盛んだった時期は、蚕棚を設けていたそうだが現在はその面影はない。

当主が、襖絵を自分で描いたり、土蔵をアトリエとして利用していたり、離れを新しく増築するなど、先祖代々の家屋を楽しみながら活用しており好感がもてた。

(写真・略図など)



母屋



居間の神棚



土蔵



旧馬屋

## [演習 6-3] 地域のお宝発見

		記入者氏名	6 齋藤史博
①名称	K家住宅	④用途	住宅
②所有者	K	⑤建築年代	明治時代(明治45年登記) (1912年)
③所在地	福島市		

## ⑥構造形式

- 【母屋】木造平屋建て一部2階建て 入母屋 トタン葺き 漆喰壁  
 【米蔵】木造平屋建て 瓦葺き 板壁  
 【土蔵】2階建て 瓦葺き 漆喰壁・赤レンガ  
 【物置】木造平屋建て(旧馬屋) ※2011年東日本大震災後、土蔵(味噌蔵)を解体

## ⑦特徴

建築年代は不明で、現在の位置に移設された後、登記されたのが明治45年。

東側にある門から敷地に入り、母屋は東向きに桁入りの構えをしている。右側から玄関土間、板の間、居間、奥座敷、土間の奥に台所といった典型的な農家の間取りとなっている。養蚕が盛んだった時期は、蚕棚を設けていたそうだが現在はその面影はない。板塀を兼ねた米蔵が特徴的。

現在、玄関土間と板の間がリフォームされている。既存の立派な梁を見せたり、建物の雰囲気損なうことなく範囲を限定した上手な改修となっており、現在の暮らしを豊かにする工夫がなされていた。

(写真・略図など)



母屋



玄関と板間



米蔵



土蔵

## [演習 8-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		8 野内忠宏	
①名称	足利館「氏季カフェ」母屋他	④用途	カフェレストラン(旧農家住宅)
②所有者	足利純一氏(鎌倉公方足利持氏の流れを汲む初代季氏後の18代当主)	⑤建築年代	江戸時代(1735年頃)
③所在地	会津若松市河東町広田田中原5		

## ⑥構造形式

- 【母屋】木造平屋建て 寄せ棟造り 銅板葺き
- 【土蔵】木造土蔵造り
- 【味噌蔵】木造土蔵造り

## ⑦特徴

(歴史的な経緯) 会津盆地の中央に位置するこの屋敷地約2000坪は中世に築かれた館跡(城跡)である。この屋敷の現当主の純一氏は、足利氏の正統である鎌倉公方足利持氏の流れを汲む初代足利季氏から18代目に当たる。初代当主の季氏は、信濃守の時に上杉景勝と共に会津に入ったが、景勝の米沢移封の1606年に蒲生秀行公から反乱を起こさないことを条件にこの屋敷に住むことを許され、以来400年に渡り槍刀を捨てて武士ではなく農民として村の肝いりや顔役として家督を継承して現在に至っている。

(建物等の特徴) 現当主の純一氏は「母屋を建築した280年前は農民として生活しており、本来であれば農家住宅とすべきであるが、廻りと同じ農家民家を作るのではなく鎌倉公方の末裔であるという気品や高潔さを失わないという気持ちでこの家を建て、そして、あまり人目に触れさせないでひっそりと維持してきたと聞いている。」と言う。住宅として居住していたのは昭和48年までであるが、この言葉の通り、柱の繊細さ、長押の釘隠や天井の高さなどに見る清貧さは武家屋敷の品格を備えている。

(写真・略図など)



## [演習 8-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		8 野内忠宏	
④名称	足利館石垣・土塁	④用途	中世に築かれた館跡
⑤所有者	足利純一(鎌倉公方足利持氏の流れを汲む初代季氏から18代目の当主)	⑤建築年代	中世(15~16世紀)
⑥所在地	会津若松市150広田田中原5		

## ⑥構造形式

中世館跡の石垣・土塁

## ⑦特徴

(歴史的な経緯) 会津盆地の中央に位置するこの屋敷地約2000坪は中世に築かれた館跡(城跡)である。この屋敷の初代当主の季氏は、信濃守の時に上杉景勝と共に会津に入ったが、景勝の米沢移封の1606年に蒲生秀行公から反乱を起こさないことを条件に農民としてこの屋敷に住むことを許された。その時点でこの館は中世の城跡の形態をとっていたと推定される。

(石垣等の特徴) 屋敷の入り口付近に残る石垣は、鶴ヶ城等の城跡に見られるように外部からの進入に対して敵溜まりを設ける形となっており、館までの入り口は石垣の鍵手の形状となっている。石垣の後方には防備を固めるための土塁が残されている。

(写真・略図など)



## [演習 8-3] 地域のお宝発見

[演習 8-3] 地域のお宝発見		記入者氏名	8 野内忠宏
①名称	旧吉田家住宅 蔵座敷「紫雲閣」	④用途	三春町文化伝承館
②所有者	三春町	⑤建築年代	明治 28 年(1895 年)
③所在地	田村郡三春町字大町 82 番地		

## ⑥構造形式

【母屋】木造数寄屋造り 2 階建て

【蔵座敷】土蔵造り 2 階建て

## ⑦特徴

(歴史的背景)

三春の生糸産業は明治中期から後期まで盛況であったが、建築主の吉田誠次郎は生糸産業の取引を三春と横浜の間で頻繁に行い、併せて金融業も商い、一代で財をなし自宅としてこの建物を建築した。

(特色)

母屋は各部屋に床の間があり黒檀・紫檀・白檀・黒柿・鉄刀木などの高級材で、また天井材は薩摩杉などで造られ、数寄屋造りとして多くの材料と手法が用いられている。建築主の意向を美としてどのように表現していくかの工夫が内部装飾の随所に見られる。

蔵座敷紫雲閣は、建築主の趣味が謡曲であったため、三春漆職人による「いそくさ模様」と言われる仕上げがなされており、床柱や落掛には「竜」の彫刻が施され天井も漆仕上げになっている。2 階の一部屋には天井にも漆がなされており、声や音が反響する仕上げになっている。

(写真・略図など)



## [演習 11-1] 地域のお宝発見

[演習 11-1] 地域のお宝発見		記入者氏名	11 八島征彦
①名称	S 家住宅	④用途	住宅
②所有者	S・K	⑤建築年代	江戸後期(約 200 年前)
③所在地	福島市		

## ⑥構造形式

木造 3 階建て(67 坪) 茅葺き切妻

外部壁：土壁 内部壁：漆喰(梁にはしゃくりが入っている。)

## ⑦特徴

福島市飯野町の青木小学校から北側 500m 位の集落地に S 家があります。江戸時代後期(約 200 年前)に養蚕農家として建てられ、何度か改修されたようです。

また戦後は青木村村長(佐藤氏)の邸宅として使われその後は空家となっていました。S 氏御夫妻が有機野菜栽培の為にこの地に移り 20 年前に改修されました。

屋根は茅葺き(飯野町阿曾三郎氏施工)、外壁は土壁(元の土壁を壊し藁すさ混入の上塗り替え)、内部は漆喰仕上げ(入隅は柱、梁にしゃくり施工)、玄関を入ると囲炉裏、雁木が設けられ、落ち着いた佇まいです。

この家の一番の特徴は井戸にあります。裏山の中の水溜り(ツボ?)です。山に向け 15m 位の御影石による横穴を掘り(点検修理用)、下部に土管を埋め込み外部の井戸、台所、流し、また農作業用の溜め井戸(つるべなし、瓦屋根付)等に水を配られています。推察するに、この井戸の水位の高さに合わせ、水汲み作業しない様に GL を設定し造或、建築されたのかと思うと古人の知恵に、感動を禁じえません。

この古民家は贅沢でしょう洒落な庵という感じでした。

(写真・略図など)





## 【演習 11-2】地域のお宝発見

記入者氏名		11 八島征彦	
①名称	旧伏黒郵便局	④用途	郵便局
②所有者	T・Y	⑤建築年代	昭和 11 年 4 月 (1936 年)
③所在地	伊達市伏黒字館の内 23		
⑥構造形式	木造 3 階建て (40 坪) 洋風セメント瓦葺き		

## ⑦特徴

桑折町より阿武隈川の大正橋を経て保原方面に向かうと 200m 位、過ぎると右側に古い洋館建ての郵便局が見えます。

この伏黒地区は大正 5 年に大正橋が、箱崎の伊達橋(伊達～保原)より先に建設され(伊達騒動)、桑折の製糸、掛田の養蚕、川俣の機織の中、蚕種場(たね場)として栄え、郵便局は箱崎の軽便列車を経て全国に発送されました。

建物は、洋風横板張り、ペイント(淡緑色)塗装、内部も昔の窓口が有り、電報電話の交換所でもあった為宿直室も設けられています。又昔ながらの石炭ストーブの煙突も昔の様子が偲べれます。昭和 11 年 4 月に建てられ、所有者で三代目の郵便局長であった T 氏は、何とかこの建物を保存し、奥様の趣味でもある茶道教室を開く事を希望しております。

県北地方では唯一の洋館建て郵便局でも有り、文化的にも歴史的構造物として、貴重な存在と思われま

(写真・略図など)



## 【演習 11-3】地域のお宝発見

記入者氏名		11 八島征彦	
①名称	富田蚕種製造所	④用途	住宅兼蚕種製造所
②所有者	T・K	⑤建築年代	明治 33 年 4 月 (1900 年)
③所在地	伊達市伏黒字北谷敷 46		
⑥構造形式	木造(杉)2 階建て 外部壁：土壁(100m/m)漆喰仕上げ 茅葺き切妻(カラートタン張り)		

## ⑦特徴

前述の伏黒郵便局より東へ 100m、左側に有り、お寺の山門の様な門の奥に明治 33 年 4 月に建てられた土壁漆喰の建物が有ります。

伏黒地区には多くの蚕種場(たね場)が有り、その中でも今も蚕種製造し、全国に発送している稀有の存在です。(全国には、現在、4 事業所しか有りません。)蚕種とは年 2 回(7 月、10 月)繭玉から成虫(蛾)にして交配させ、紙の上に産卵させ、梱包して全国に発送されます。

建物は、瓦葺き、土壁(100m/m 厚)、漆喰仕上げです。蚕は、煙を嫌う為囲炉裏は、居住区のみで使われます。しかし夏でも新鮮な空気が必要とする為、養蚕中は天井が所々開放され屋根にも空気抜け(うだつ)が必要です。

特にこの建物の特徴は、2 階にも巾 1 間のぬれ縁が有り奥の蚕の世話をする作業場として使われました。また隣接する桑を保存する蔵と 2 階で継ながれ、新鮮な桑を蚕に与えました。

富田蚕種製造所は昔ながらのたたずまいの中、現在も操業しているとは養蚕業の奥深さを感じました。

(写真・略図など)



[演習 12-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		12 伊藤登志夫	
①名 称	石蔵	④用 途	イベントホール(旧倉庫)
②所 有 者	某会社所有	⑤建築年代	昭和元年 12 月(1926 年)
③所 在 地	相馬市		
⑥構造形式 石造り・木造トラス小屋組 屋根寄棟 瓦葺き			
⑦特 徴 昭和元年に建築した穀物倉庫で当時としては珍しい白石石を使用し、人の目線のところには大きい材料を使用した造りになっており、材料を丁寧に吟味した造りである。当時の棟札も残っており、施工、土工が記載されている。 東日本大震災に被災し、屋根、外壁の修理を行っている。 現在は数年前に内部を整理してイベントホールとして使用している。			

(写真・略図など)



[演習 12-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		12 伊藤登志夫	
①名 称	岩色堰	④用 途	農業用水
②所 有 者	某土地改良区	⑤建築年代	昭和 7 年(1932 年)
③所 在 地	本宮市		
⑥構造形式 コンクリート造り			
⑦特 徴 永禄年間(1560 年ごろ)に国分六左衛門が最初に堰を構築してから、昭和 7 年の政府による農村振興土木事業で完成(工費五千四百万円)し、本宮市西部地区の開墾に必要な不可欠な施設である。 現在も使用しており今まで堰を維持管理してきた苦勞をしのぶことができる。			

(写真・略図など)



## 〔演習 12-3〕地域のお宝発見

記入者氏名		12 伊藤登志夫	
①名称	日和田八幡神社	④用途	神社
②所有者	日和田八幡神社	⑤建築年代	150年前 慶応元年(1865年)
③所在地	郡山市日和田町		

## ⑥構造形式

切妻造り平入りの八幡造り  
拝殿が本殿より大きく、幣殿で繋がっている一般的な八幡造りとは異なる。

## ⑦特徴

往借八幡神社は安積左衛門忠繁が居城内に祠を建てて、八幡神社を奉納し領内の鎮守となして、住民の信仰をあつめ、安政二年九月日和田中央八幡神社境内に遷し、明治元年、王政復古の際に村社となり、八幡神社と改称した。祭神は応神天皇であるが、勿論武運久を祈る神である。大祭には、恒例の相撲大会が催され古い伝統を誇っている。

この地は付近より一きわ高く、眺望もよいかずかずの祭神が合祀されており城内には数多くの祠がある。弥五郎物語の主人公である小泉弥五郎が献上した「文久二年」「弥五郎」の銘がある大きな石の燈籠がある。

向拝殿入口の彫刻は、当時としては龍の透かし彫りで、作者不詳であるが三春出身の彫刻家だそうです。本殿と向拝殿が当時のおもむきを残しているが幾度となく改修等が行われている。地域としては残していきたい建築物である。

(写真・略図など)



## 〔演習 12-4〕地域のお宝発見

記入者氏名		12 伊藤登志夫	
①名称	山形屋商店	④用途	店舗・醤油味噌蔵
②所有者	山形屋商店	⑤建築年代	150年前 慶応元年(1865年)
③所在地	相馬市		

## ⑥構造形式

木造2階建て 土蔵造り腰瓦 外

## ⑦特徴

江戸末期の町屋(長屋)の面影が残っている。

当初養蚕の材料を販売していたが、明治期は麴づくりを行っていた。大正期は味噌、その後、醤油も製造販売するようになり、全国品評会で昨年、一昨年と2年連続で最高賞を受賞している。

市内には江戸末期頃の建物はほとんど残っていない。商人の生活を知る上で貴重な建物と思われる。東日本大震災に被災し、外壁の剥落等があったが修理は行っていない。

(写真・略図など)



## [演習 12-5] 地域のお宝発見

記入者氏名		12 伊藤登志夫	
①名称	旧某家屋敷	④用途	住宅
②所有者	相馬市	⑤建築年代	昭和36年(1961年)他
③所在地	相馬市		
⑥構造形式			
【母屋(昭和36年)】木造平家建て		瓦葺き	
【土蔵(江戸時代末期)】土蔵造り2階建て		瓦葺き	
【板倉(江戸時代末期)】木造平家建て		瓦葺き	
【門(江戸時代末期)】木造腕木門		瓦葺き 総ケヤキ造り	
⑦特徴			
江戸末期の武家屋敷の面影が残っている。残念ながら母屋は昭和17年に焼失している。夏に行う某祭りの出陣式を執り行うところで由緒ある建物である。			
市内には江戸末期頃の建物はほとんど残っていない。武家の生活も知る上で貴重な建物と思われる。			
東日本大震災に被災した土蔵の傾斜が見られ外壁の剥落等があったが修理は行っていない。			

(写真・略図など)



## [演習 13-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		13 菊池佳彦	
①名称	H家住宅	④用途	住宅
②所有者	H・I	⑤建築年代	大正前期
③所在地	郡山市		
⑥構造形式			
木造平屋建て(当初一部2階建て部分があったが解体)			
屋根:切妻金属板平葺き			
外壁:金属サイディング張り 下見板張り 上部土壁塗り			
⑦特徴			
現在は1家3代目にあたる方が、夫婦2人で住まいとされています。			
1代目の当初所有者が千葉から疎開して、現在の建物を建設し、果物屋をここで営んでいた。当初は隣の駐車場に2階建てがあったり、金属サイディング部の外壁は当初は前面ガラス戸で、商い向けの意匠をしていたが、時代の流れで商いが難しくなり、改修を重ね現在の姿をしている。			
中に入ると、廊下のように土間コンクリート敷になっている。(写真参照)昔は客との賑わいがあった場であったそうで、哀愁を感じさせる空気があった。内部は昔ならではの木製建具で仕切られている。			
北側には福島紡績時代に、2代目が綿関連の仕事場として使われた場所があり、現在は駐車場貸し。郡山市中心部に僅かに残っている、土間形式の住宅で、将来的に利活用できる可能性がある。			

(写真・略図など)



## [演習 13-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		13 菊池佳彦	
④名称	S家住宅	④用途	住宅
⑤所有者	S・N	⑤建築年代	大正前期
⑥所在地	郡山市		
⑥構造形式 木造2階一部平屋建て 屋根：入母屋寄棟 切妻瓦葺き 外壁：下見板ささらご張り			
⑦特徴 弁護士をされていた当初所有者は亡くなっており、現在は姪にあたる方の住まいとなっています。 市内中心部にある、郡山でも数少ない長屋形式(梁間5m桁行26m)の住宅で、現代的コンクリート・鉄骨造の建物が多い郡山市内の中で、ひと際目を引く木を基調とした建物です。 正面玄関前の庭に、手入れされた背の高い松の木がアクセントになり建物を更に際立たせています。特に正面ファサードは映画のワンシーンに出てきそうな佇まいです。坪庭を有しており、狭い敷地でも自然を取り入れている平面構成となっています。 隣地が保育園と月極駐車場で、活用の仕方に可能性のある立地条件となっています。細長い敷地を有効活用している昔ながらの長屋として、現代建築の造形の模範となる存在です。			

(写真・略図など)



## [演習 13-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		13 菊池佳彦	
⑦名称	川柳会館	④用途	事務所
⑧所有者	K・I	⑤建築年代	明治18年(1885年)
⑨所在地	郡山市清水台1丁目1-38		
⑥構造形式 木造2階建て 屋根：切妻日本瓦葺き 基礎部分にコンクリート補強増設 外壁は地震の影響による補修			
⑦特徴 当初所有者の阿久津藤七という方がここで本屋を営んでいた。その後薬屋を営む方に渡り、現在はI氏が所有者となっている。現在は「街こおりやま」というタウン誌を発刊している事務所として使用中。 市内中心部に位置する、金透小学校の向かいにある30坪程度の建物です。建物を象徴するのは東面の5枚の鉄扉で、アクセントになり建物に表情を与えている。 内部2階は小屋組表しで太い梁の豪快さと、軒高が抑えられているため、コンパクトながら小屋裏にいるような体験ができる空間になっている。小屋組みには、建設時に記したと思われる建設年月日と、通り番号が記されている。 歴史のある建物を、地域の情報発信をする場として利用している点(事務所使用者)が魅力です。			

(写真・略図など)



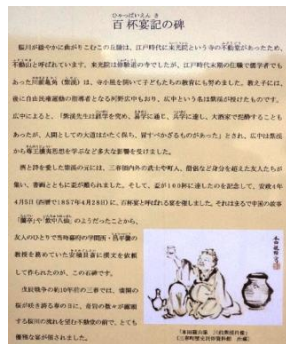
〔演習 14-1〕地域のお宝発見

記入者氏名		14 三瓶一壽	
①名称	百杯宴記碑	④用途	記念碑
②所有者	三春町	⑤建築年代	安政4年(1857年)
③所在地	田村郡三春町字大町地内(町中央部裏、一級河川桜川沿いの一画)		

⑥構造形式  
 【石碑】W850×D400×H1750  
 【基盤】W1400×D800×H550

⑦特徴  
 この石碑には「百杯宴記」と題した、以下に示す漢文が刻まれている。  
 その全文と要旨の現代訳は以下に示す通りであるが、江戸末期の黒船来航、開港を迫られている社会情勢下、当時の三春藩の御膝下に於いて、宴主である「川前紫雲翁」のような、士農工商の身分を問わず集めての大酒宴、まさに中国の歴史にその名を残す「蘭亭」や「飲中八仙の会」のような、豪快で文化的な事が催されていた証としては驚きである。  
 以前から地元歴史関係者の間で話題となり調査をされ、その記録が三春町歴史民俗資料館にもいくつか残っている。この碑文は紫雲翁に頼まれた当時昌平黌教授の安積良斎が書いたもので、これを石碑に刻したものである。  
 現代、平成になってから町民の有志がこれを粹に感じ毎年盆踊りに合わせて「三春のおよばれ百杯宴と絵とうろう祭り」の催しを行い当時の粋を地域民と共有している。

(写真・略図など)



百杯宴記 碑文(原文)

紫雲山人襟度清曠嘗以詩文自娛性嗜酒又愛竹而於宋荆川如也四方  
 雅之士聞其風致雖未有一面之雅者皆謂其曲若屈尼命於四十有二矣而  
 其飲已過一百四又自序百杯樓云今誌四月五日開重筵於不動堂前以  
 邀客是日風日清美極花爛發嘉賓雲集特選雜酒陳書曲禮百五筵前以  
 事定酒令使樂理生每人奉一盃飲畢順送以盡乃陳書曲禮百五筵前有  
 有十餘盃而饋者有二十四杯飲且舞有五十六而揮毫揮毫揮毫揮毫有  
 百盃始醉者酣睡淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓淋漓  
 集其意遇嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉嘉  
 之雅客其平之樂其然或或以或以或以或以或以或以或以或以或以或以  
 風古人所任未必無其然或或以或以或以或以或以或以或以或以或以  
 百三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三  
 獨於山人怪之哉但古人之飲酒等數盃而後止其飲不亦百五何  
 亦如此矣嘗其風流韻事哉山人者龜角字十號號號號號號號號號號號號  
 者山人寄書請記其事故為述其略如此

安政四丁巳七月 良斎 安積信輝 竹隱敬宣書

〔演習 14-2〕地域のお宝発見

記入者氏名		14 三瓶一壽	
①名称	三春町文化伝承館	④用途	集会・展示施設
②所有者	三春町	⑤建築年代	
③所在地	田村郡三春町字大町 82 番地		

⑥構造形式  
 【母屋】木造2階建て 数寄屋造り  
 【納屋】平屋建て 土蔵造り  
 【紫雲閣】2階建て 土蔵造り

⑦特徴  
 三春町のほぼ中心地通りから北側に一筋入る裏通り「磐州通り」に面した屋敷である。  
 現在は三春町の管理になっているが、建設当初は御当主の商売の関係で、横浜等日本の最新の情報を入手でき、また日本中の資材等を入手しての普請を行うことが出来た。建物は素材・技法に於いて至る所に贅と趣向を凝らしたもので見る者を飽きさせない。  
 母屋が極めて数寄屋建築的な様式をとっているのに対して、邸内庭上段(町中を一望できる)に建てられた紫雲閣は趣向的要素が際立つ建物で、その2階は総漆塗の造作で極めて中華的な意匠の建具を配し、床の間の床柱の雙龍や床脇の付書院襖に龍を象形化したデザインの明かり窓が付けられている。また圧巻は天井に設けられた謡曲の為の音響反射天井板(直径1間半)である。  
 町の施設になってからであるが、ここで桜の季節に篠笛のコンサートが行われた。非常に幽玄な一時であった。

(写真・略図など)



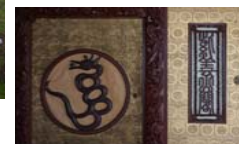
H6年2月撮影



鳥居越の紫雲閣



音響反射天井と雙龍床



龍象形文字デザイン襖



旧吉田邸全景・M42年撮影



伝承館配置図・H6年

## [演習 14-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		14 三瓶一壽	
⑩名称	旧遠藤医院	④用途	旧医院建築(使用していない)
⑪所有者	E	⑤建築年代	大正 12 年(1923 年)
⑫所在地	田村郡三春町字大町 82 番地		

⑥構造形式  
木造 2 階建て(近代洋風建築) 間口 11 間 奥行 5.5 間

## ⑦特徴

三春町の中心地の城山公園南登り口際に立つ、白亜の洋風建築である。屋根は寄棟、瓦葺きでファサードは正面玄関部分と両脇が本体より飛び出したマンサード屋根からなる、シンメトリーな美しい建物である。

外壁を下見板張り、白ペンキ仕上げの病院らしい清潔感あふれる建築である。また窓は大きな縦長の上げ下げ窓であることがさらに洋風観を漂わす。

敷地の正面入り口には大きな対の石柱があり、恐らく立派な門扉が設置されていたと想像するが、敷地周辺を木柵で囲んでいる。

現在は未使用状態であり、三春町に於いては数少ない洋風建築であるので、持ち主と相談で、復元改修をかけて、利活用保存が出来ればと考える。

(写真・略図など)



## [演習 16-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		16 水野谷梯子	
①名称	旧釜子郵便局	④用途	郵便局・電話交換室
②所有者	S・T	⑤建築年代	大正末期
③所在地	白河市釜子字本町 95-2		

⑥構造形式  
木造 2 階建て  
屋根：はかま腰屋根・切妻妻入り(3寸) カラー鉄板葺き(N2)  
外壁：板張り(10YR9/2) 塗装仕上げ

## ⑦特徴

昭和 4 年から現在の釜子郵便局への移転まで、1 階を郵便局、2 階を電話交換室として使用していた。間取りは、1 階が、郵便局受付台、事務室、郵便配送受渡所、宿直休憩室(和室 6 畳、押入 2 間×2)、土間、便所。2 階は、電話交換室(洋間 8 畳)、宿直休憩室(和室 6 畳、床の間、押入 1 間)。

内部には、郵便局が当時使用した金庫、収納棚、照明器具や、大正期のモダンな内装仕上げ(2 階洋間の天井)が残る。南面、西面、東面には、下見板張り壁やアンティークガラス(レストーパー)が一部残っており、大正期の趣のある外観が魅力の建物である。現在は空き家。

県道 44 号(棚倉矢吹線・茨城街道)沿いに面する配置。裏手西側には同所有者所有地内に釜子陣屋の跡があり、江戸期からの古文書を多数所有しているとのことであるため、地域の歴史文化を伝承するミニ資料館兼地域の情報発信交流拠点となるレトロ調カフェなどの活用が望ましいと考える。

(写真・略図など)



茨城街道・南東側からの正面外観



南西側からの外観



1 階内部 郵便局事務室(階段付近)



1 階内部 郵便配送受渡所

## 〔演習 16-2〕地域のお宝発見

		記入者氏名	16 水野谷梯子
④名称	熊谷酒店	④用途	店舗兼住宅・養蚕室・蔵(3棟)
⑤所有者	K・K	⑤建築年代	【店舗兼住宅】江戸末期 【蔵】江戸末期、明治初期
⑥所在地	白河市釜子字本町 27		

## ⑥構造形式

【店舗】木造2階建て(1階:店舗・住宅 2階:住宅・養蚕室)

屋根:切妻平入り(5寸) 外壁:板張り 金属系サイディング

【蔵3棟】木造 屋根:切妻屋根(赤瓦) 外壁:漆喰

【敷地】店舗入り口横の南側に歌舞伎門があり、庭、池、灯籠、多種の樹木が配置する。

## ⑦特徴

所有家の過去帳や釜子陣屋の古文書から、江戸後期頃に越後高田藩柳原家の御用商人として、釜子に移り住み、現在の店舗兼住宅を建てたと想定される。当初は日曜雑貨や魚を取り扱う店舗であったが、その後明治期から造り酒屋を営んだとのこと。2階の一部(2部屋)を養蚕室とした。現在は酒販売業。

間取りは、1階に西側に土間(店舗)、和室(10帖、6帖、8帖×3室)、天窓付き和室(6帖)、台所、廊下、階段、濡れ縁。2階は和室(10帖、8帖×2)、養蚕室(2室)、濡れ縁。1階北側に昭和時代に増築した部屋が隣接する。蔵は当初6棟あり、大きな蔵は農協へ貸していたとのこと。現在は北、東、南に各1棟残る。県道44号(棚倉矢吹線・茨城街道)沿いに店舗が面する配置。

当地域は寛保元年(1741年)から約130年間越後高田藩15万石の領地となり、茨城街道の宿場町として栄え、現在もその風情を残し歴史的建物が点在するが、近年取り壊し・更地化が進んでいる。

## (写真・略図など)



茨城街道・南西側からの店舗正面外観



店舗外観(近景)



1階店舗内部



2階和室(8帖・北西角)

## 〔演習 16-3〕地域のお宝発見

		記入者氏名	16 水野谷梯子
⑦名称	H家住宅	④用途	農家住宅兼養蚕場
⑧所有者	H・K	⑤建築年代	【住宅】江戸末期 【蔵】明治初期
⑨所在地	白河市		

## ⑥構造形式

【母屋】木造2階建て 建築面積177.88㎡ 延床面積335.94㎡ 屋根:入母屋屋根(5.5寸)

カラー鉄板(昭和53年頃に茅葺屋根から葺き替え) 外壁:漆喰

【土蔵】屋根:カラー鉄板 外壁:土壁、母屋西側に配置 建築面積・延床面積9.96㎡

【倉庫蔵】屋根:瓦 外壁:漆喰、母屋北側に配置 建築面積26.66㎡ 延床面積53.66㎡

【敷地】面積:2.993㎡ 敷地内にはその他、隠居、小屋2棟、養鶏小屋1棟、物置1棟、庭園、裏山に庭があり、多種の樹木、池、庭石、灯籠が配置されている。

## ⑦特徴

庄屋屋敷であり、母屋正面中央には特徴的な式台玄関がある。

間取りは、1階に和室(8帖)3室、物置(6帖半)、寝室(8帖半)、リビング(12帖)、土間、台所、脱衣室、浴室、便所、廊下。2階は現在物置であるが、建築当時から昭和15年頃までは養蚕場として使用されていた。当時の間取りがそのまま残っている。

以前は年貢米の大きな米蔵もあったが取り壊したとのこと。

## (写真・略図など)



母屋正面



庭園からの母屋全景



母屋 式台玄関



倉庫蔵(母屋北側)



## [演習 16-4] 地域のお宝発見

記入者氏名		16 水野谷梯子	
⑩名称	S家住宅	④用途	住宅・蔵
⑪所有者	S・T	⑤建築年代	【住宅】大正 【蔵】明治
⑫所在地	白河市		
⑥構造形式			
【住宅】木造2階建て 建築面積117.59㎡ 延床面積147.40㎡ 屋根：はかま腰屋根・寄棟(6寸5分) カラー鉄板葺(5R4/14) 外壁：下見板張り(10R4/6)、塗装仕上げ			
【倉庫蔵】木造2階建て 建築面積58.85㎡ 延床面積104.94㎡ 屋根：切妻・置き屋根(5寸5分) カラー鉄板葺(N3) 外壁：漆喰塗(N9)			
⑦特徴			
大正期特有の「はかま腰屋根」の住宅と、建築当時は座敷蔵として使用していた倉庫蔵。大正時代の洋風住宅の風情を残している。			
中庭等の外構はツツジ、モミジ、カシワ、ツゲ、マツ、イチョウ、ケヤキ、ツバキなどの樹木で構成され、南側のヒマラヤスギの高木がシンボルツリーとして、県道11号(白河石川線)からの景観をより印象的なものになっている。			
住宅内部は、1階が、洋間(10帖)、和室(3帖、4.5帖、6帖、8帖×2室)、台所、風呂洗面所、便所、玄関。2階は、和室(6帖、8帖)。南側玄関から北に長い建物で、正面からは見えない造り。			
過去に補修履歴があり、現在も所有者が住宅として使用している。			

(写真・略図など)



白河石川線からの景観・ヒマラヤ杉と建物が印象的



住宅正面南側外観 木塀の奥に中庭あり(東側)



西側外観 北側に住宅建物が長い造り



西側の倉庫蔵

## [演習 17-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		17 佐藤貴大	
①名称	W家住宅と土蔵	④用途	住宅・蔵
②所有者	W・J	⑤建築年代	住宅：明治32年(1899年) 蔵：江戸末期
③所在地	耶麻郡猪苗代町		
⑥構造形式			
【住宅】木造2階建て 曲がり屋 屋根：茅葺きの上カラー鉄板葺き 外壁：真壁しっくい塗り一部下見板張り			
【蔵】土蔵造り2階建て 屋根：切妻瓦葺き 外壁：白漆喰塗り なまこ壁			
⑦特徴			
鎌倉時代に出雲から来た“岡村道徳”という豪族がこの地で財をなしていた。その後、若松城の手伝いで部落を離れる事になったため、後を継いで分家となったのがW家であり当主で15代目になる。この事は敷地内に“W家の碑”として刻まれ、町の文化財にもなっている。			
600坪の敷地には4棟の蔵(座敷蔵、米蔵、農作業蔵×2)と住宅(曲がり屋)があり、座敷蔵の内部には曲り梁や当時の棟上げの際に奉納された矢羽根などが確認された。また、米蔵は当時年貢米の一時保管場所として使用されていたため、厚板張りの内装となっており、屋根は寄せ棟形状と比較的珍しい土蔵であるが、現在は震災の影響で屋根はカラー鉄板、外壁もサディング張りとなっている。			

(写真・略図など)



座敷蔵の外観



座敷蔵の曲り梁と矢羽根



年貢米を保管していた米蔵



W家の碑

## [演習 17-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		17 佐藤貴大	
①名称	千里地区旧米蔵	④用途	車庫(旧常温米倉庫)
②所有者	あいづ農業協同組合	⑤建築年代	昭和 32 年(1957 年)
③所在地	耶麻郡猪苗代町		
⑥構造形式	石造り平屋建て(延床面積：438.69 m <sup>2</sup> ) 屋根：赤瓦葺き 外壁：凝灰岩積み一部 RC 補強		
⑦特徴	あいづ農業協同組合本社に保管している施設台帳程度で、当時の様子や背景が把握できる資料が残っていない。しかし、昔の職員や地域の人達への聞き込み調査を行い、特定していくことは可能と考える。 竣工後ほどなくしてから平屋建ての小屋が増築されていたが、新しい低温倉庫が出来た事で取り壊された。その結果、凝灰岩の外壁が自然に変色し、他には無い独特のファサードを形成している。 現在は農機整備センターに隣接した車庫として利用されている。協同組合に改組する前は、千里地区の米や蕎麦の保管蔵として利用されていた。 内部の小屋組みは 3 点トラス形式だと推測される。一部、RC の壁により構造補強されているが、地震などの被害はあまり見られず、状態は比較的良好。		

(写真・略図など)



自然変色し、ツートーンとなった外壁



陸橋から見た米蔵



小屋組は 3 点トラス形式と推測される

## [演習 17-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		17 佐藤貴大	
①名称	滝川屋旅館 自炊棟(横向温泉)	④用途	温泉旅館(旧湯治場)
②所有者	A	⑤建築年代	明治 10 年(1877 年)
③所在地	耶麻郡猪苗代町		
⑥構造形式	木造 2 階建て 屋根：鉄板葺き 外壁：木板張り		
⑦特徴	横向温泉の開湯は寛文元年(1661 年)でおおよそ 350 年前になる。昔は街道の拠点となっていて、当時の A 家は馬を調達していた。湯小屋が建てられたのは 1800 年代で明治 19 年に旅館を営み始める。 当時は湯治場として栄え、200 名を超える人が集まっていた。現在は人手不足も有り、一日に数組しか宿泊が出来ない。 今回のお宝である自炊棟は、宮大工により建設され、釘を使用しない伝統工法による木組みで造られている。アウトフレームの柱・梁に入れ子状の客室がある。とてもダイナミックでユニークな構造である。 また、一番の驚きは硬い岩盤の上に建てられているため、岩を壊さずその上にそのまま建てられている。そのため、自然の岩が内部空間に取り込まれている。		

(写真・略図など)



左が自炊棟



自炊棟竣工時



竣工当初の滝川屋旅館



内部空間に取込まれた岩(正面玄関)

## [演習 19-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		19 舟窪翔太郎	
①名称	会津ジイゴ坂学舎	④用途	カフェ・ギャラリー
②所有者	下郷町 (管理：会津ジイゴ坂学舎)	⑤建築年代	昭和 25 年(1950 年)
③所在地	南会津郡下郷町落合字ジイゴ坂		
⑥構造形式	木造平屋建て 屋根：切妻鉄板葺き 外壁：下見板張り		
⑦特徴	<p>下郷町旭田小学校落合分校として建設され、平成 17 年に閉校となった。現在は「会津ジイゴ坂学舎」として、ギャラリー展示やカフェなど、会津の魅力を発信する文化スポットとなっている。</p> <p>平屋建てで、建物のボリューム・高さも小さく、更に外壁下見板の痛みや黒ずみなども良い味を出し山里の風景に溶け込んでいるように感じる。</p> <p>内部は、分校当時の床や天井・展示物・家具等をそのまま利用しており、当時の面影を感じることが出来る。(間仕切壁は、一部新設している。)</p> <p>過去の補修や改修の一部を、地域住民に協力してもらい行った経緯もある事から、地域の方々がこの建物を愛し、残したいという想いを感じる建物であった。</p>		

(写真・略図など)



## [演習 19-2] 地域のお宝発見

記入者氏名		19 舟窪翔太郎	
①名称	山城屋	④用途	店舗及び蔵(米店)
②所有者	山城屋	⑤建築年代	江戸末期～昭和 30 年代
③所在地	会津若松市養蚕町		
⑥構造形式	[蔵番号/建築年代/規模/屋根/外壁] 【石蔵】昭和 30 年代/石造り平屋建て/切妻鉄板葺き/大谷石積み 【土蔵①】江戸末期/木造 2 階建て/切妻鉄板葺き/土壁 【土蔵②③④】不明/木造/切妻鉄板葺き/土壁		
⑦特徴	<p>旧滝沢本陣前の道路(旧街道)を西に約 1km 進んだところに位置する。道沿いには多数の蔵が並んでおり、敷地内には、5 棟の蔵と比較的新しい店舗・住宅が建っている。</p> <p>石蔵は米の保管に使用されており、空気の流通性や耐久・耐火に優れている。そのため、内部の木の部材も非常に綺麗な状態で保たれている。</p> <p>土蔵①は所有者の話によると、戊辰戦争時に新政府軍に占拠された過去があり、蔵の扉に墨による書き残しが見られた。この蔵は現在使用していない為、将来的に何かに活用したいとの事。</p> <p>他の土蔵②③④は年代も不明で今回未調査だが、石蔵よりは古いそうで、地震により壁が崩れるなど、被害が見られた。</p>		

(写真・略図など)



## [演習 19-3] 地域のお宝発見

記入者氏名		19 舟窪翔太郎	
①名称	F家住宅 土蔵	④用途	住宅
②所有者	N・F	⑤建築年代	明治15年(1882年)
③所在地	会津若松市		
⑥構造形式 木造2階建て 屋根：切妻鉄板葺き 外壁：土壁			
⑦特徴 約7.2m×4.5mのコンパクトな土蔵で、屋根は50年程前に葺き替えられている。外壁下部がやや崩れているが、大きな損傷や地震による被害は見られない。 内部の柱・梁・壁は、非常に奇麗な状態を保っており、一見すると新しい蔵にも見える。しかし、柱に明治15年建築と思われる、墨による書き残しも見られ、蔵の歴史も奇麗に残っていた。 蔵内部には、たんすや長持などの嫁入道具や当時の教科書、味噌樽など、当時の生活感を感じるものが多数保管されていた。			

(写真・略図など)



## [演習 20-1] 地域のお宝発見

記入者氏名		20 渡部茂樹	
①名称	二十間蔵ほか2棟	④用途	イベントスペース及び倉庫
②所有者	Y・N	⑤建築年代	江戸・明治 二十間蔵：大正元年(1912年)
③所在地	喜多方市南町		
⑥構造形式 木造2階建て 土蔵造り 奥行20間 (D38,200) ×間口4間 (W7,640) 床面積160坪(582㎡) 屋根：切妻赤瓦葺き 外壁：土壁			
⑦特徴 江戸時代からの老舗の造り酒屋の作業蔵。地下水の質が悪くなり、近くの別敷地に移動したため空き蔵であった。現在のオーナーが母屋を含めた4棟を入手し、活用を模索していた。まちづくり活動の一つとしてイベントスペースとして活用してみようということになり、一番大きな通称「二十間蔵」で美術展示・集会・イベントなど開催し、ここ数年は蔵の町喜多方の重要なスペースとなっている。 この地区は喜多方市で「伝統的建築群」として国の指定を視野に入れた整備を行っており、それに隣接する「二十間蔵」のある裏通りも、表通りから連続した雰囲気を持った重要な裏路地である。 老朽化した建物の瓦などは現在の寸法と異なり、修繕が大変という。古い建物の材料を保管・流通できるファンドがあれば維持が楽に行なえるのでは。二十間蔵に連続している蔵2棟は酒造りの歴史の分かるものも残っており、全体での整備を進めていく事で、市内にある大型の蔵の活用のモデルとしたいものである。			

(写真・略図など)



## 〔演習 20-2〕地域のお宝発見

記入者氏名		20 渡部茂樹	
①名称	旧吉川倉庫	④用途	倉庫
②所有者	Y・K	⑤建築年代	明治44年(1911年)
③所在地	喜多方市上町		

## ⑥構造形式

階建：1階は煉瓦組積造、2階は木骨煉瓦造 奥行15間(D28,650)×巾4間(W7,640) 延床積440坪  
 屋根：赤瓦葺き(屋根構造：木造トラス)、煉瓦蛇腹  
 外壁：喜多方煉瓦

## ⑦特徴

喜多方煉瓦を使用した美しい煉瓦倉庫。煉瓦造としては喜多方最大規模を誇る。1階が煉瓦組積造、2階は木骨煉瓦造で喜多方独自の工法である。この倉庫は道路を隔てた登録有形文化財である甲斐本家の商品を保管する倉庫として建てられた。

一時、市内の吉川商店の倉庫として利用されていたが、倉庫としては使わなくなったため、売却することになり、数年前Y・K氏が購入した。今後どう活用していくか模索中という。1階内壁は460mmの煉瓦積がそのまま残っており、建設当時の姿で見事である。

2階内壁は柱の間は漆喰塗り、1階の床にはトロッコレールが当時のままの形で見られ、タイムスリップした感覚が味わえる。窓のアーチのディテール、壁・屋根煉瓦蛇腹の意匠、建具のディテールなど明治時代の技術力の高さが見られる建物である。

(写真・略図など)



## 〔演習 20-3〕地域のお宝発見

記入者氏名		20 渡部茂樹	
①名称	関山N邸	④用途	住宅
②所有者	K・N	⑤建築年代	江戸、明治6年(1873年)
③所在地	会津美里町		

## ⑥構造形式

建物：木造平屋建て一部2階建て 蔵部分：土蔵造り2階建て 約330㎡(間口約5間×奥行約20間)  
 屋根：萱葺きの上カラー鉄板葺き  
 外壁：蔵部分はカラー漆喰、住宅部分は真壁漆喰・一部モルタルの上リシン吹付け

## ⑦特徴

江戸時代下野街道の宿場町(関山宿)として栄えた集落。会津戊辰戦争で集落の多くは焼失、当N邸も焼失したが明治6年にいち早く建替えた。

通りに面する3間×3.5軒の蔵も焼失という話だが、記録がないのではっきりしない。奥の蔵は火事から免れ、江戸時代のまま残っている。

蔵にはさまれた箇所を住まいとして、蔵を含めて大きな屋根で一棟にして建築した。屋根は蔵を含めて萱葺きであり、萱葺きの上に鉄板にて覆った。蔵の外壁の色は独特の漆喰である。

蔵の左側の下屋部分は戦後増築し、集落の唯一のお店で集落のサロンのような役割を果たしている。蔵の1階は座敷、2階は倉庫として活用している。

関山宿場全体は建替え進み、現代住宅が増えてきた中で、N邸及びまだ江戸時代の宿場町の面影が残っている集落であり、大内宿とともに宝物として保存していきたい。

(写真・略図など)

